14
4
983

昭和十年版

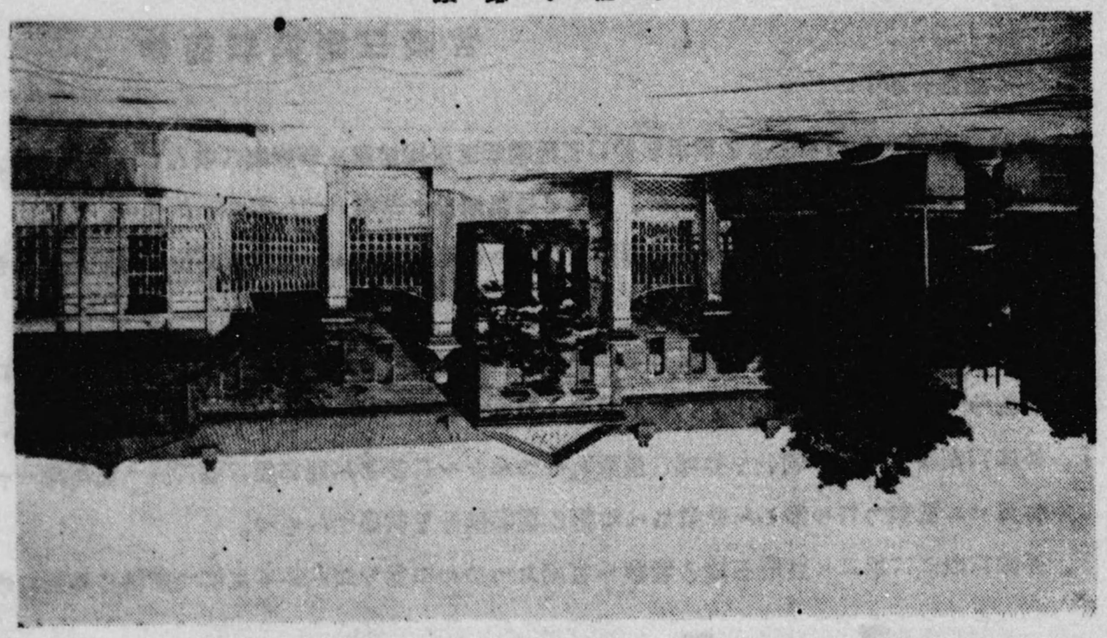
最近の和歌山弥

帝國圖書館藏

近世の和歌山藩

昭和一〇・三・二
帝國圖書館

和歌山驛舍



14.4.90

緒言

一、本書は最近に於ける和歌山縣の狀勢を知悉せしむる目的を以て年々刊行し所載の事項は最近各方面より調査したる努めて嶄新なる各種の統計數字を收錄してゐる。

一、本書は煩雜なる統計數字を容易に理解せしむるやうに極めて通俗的に誰にでも判り易く大要の說明をしてゐる又重要なものには全國的の數字を掲載して比較してゐるから政治、產業、敎育其他各般の施設計劃を樹つる上に良い指針となり裨益する處鬱からさるを深く信じて疑はざるものである。

一、本書は本縣の誇りとする鄉土の名勝舊蹟を廣く世間に紹介する爲に簡單なる名所舊蹟案內を附加して尙旅行者の利便の爲に汽車、電車の時刻表をも附錄として添付してゐる。

一、本書に登載してゐる列國の統計數字は內閣統計局編纂列國々勢要覽に依つたものである。

昭和十年一月

和歌山縣統計協會

目次

位置……一
地勢……一
概說　山嶽　河川　海岸
地質……九
地震及津浪……一〇
氣候……一一
概說　氣溫　降水量　風　要說
廣袤と面積……一三
郡市別比較　町村別面積　道府縣面積
土地……一九
民有地の比較　有租地の分類
管轄地の沿革……二三
行政區劃……二四
郡市別　全國の郡市町村數
歷代の長官と部長……二八
長官　內務部長　警察部長　學務部長
戶口……三四
郡市別推計人口　郡市別國勢調査戶口
町村別戶數と人口　人口統計圖　四十年間の人口增加趨勢　道府縣別人口と其の密度比較　全國的に見たる本縣市の人口　人口動態
社寺……四七
概況　神社　寺院　佛堂神佛道敎會所
神佛道以外の宗敎　史蹟名勝天然記念物國寶

教育……五四

概況　種類及郡市別學校數　教育費
教育費經常費生徒一人當　兒童就學の
狀況　中等學校生徒志願の狀況　中等
學校入學步合累年比較　學級數と學生
生徒兒童數　小學校教員資格別(其一)
仝(其二)　小學校教員男女の割合　補
習教育の概況　青年訓練の現況　圖書
館設置の狀況　和歌山高等商業學校

社會事業……六五

救護法に依る救護　軍事救護　少年救
護教育　行旅病人並行旅死亡人の救護
精神病者監護　住宅組合　方面委員
融和事業　移植民事業　教化事業　救
療施設　恤救施設　少年救護保護施設
兒童保護　一般福利施設

兵事……七三

概況　受驗壯丁成績　受驗壯丁職業別
成績　海軍志願兵

產業……七六

生產總額比較　生產總額累年比較　縣
下の生產　生產總額統計圖　町村別生
產　生產額の本縣の地位

農業……八七

概況　農家戶數と耕地　農產物　米の
生產　米繭柑橘の統計圖　麥の生產
柑橘の生產　繭の生產　サツマイモの
生產　阿片(ケシ)の生產　除蟲菊の生
產

畜產……一〇四

概況　家畜　家禽

林業……一〇六

概況　林產物

鑛業……一〇九

概況　水產物

水產業……一一〇

概況　工場分類　工產物　綿織物の生
產　綿織物統計圖　漆器の生產　指物

工業……一一一

概況　和歌山商工會議所　外國貿易
銀行　產業組合

商業……一一一

概況　道路　鐵道　電車　乘合自動車
汽船　プロペラ船

交通……一一七

稅負擔の狀況　市町村財政統計圖　市町
村費支出の狀況

財政……一三〇

縣の豫算　縣財政統計圖　道府縣の豫
算比較　租稅負擔の狀況　道府縣の租

警察……一四四

巡査配當の狀況　犯罪　火災

衛生……一四六

概況　醫師　藥劑師　產婆　看護婦
傳染病

健康保險……一四九

概況　被保險者數　療養給付狀況

議員選擧狀況……一五〇

貴族院多額納稅議員選擧　衆議院議員
選擧　縣會議員選擧

縣下の貯金……一五二

海外渡航……一五二

縣下の言論界……一五四

昭和九年風水害の惨狀……一五五

附錄

列國國勢要覽……一
帝國の位置　列國都市の氣溫及降水量
列國の面積及人口　列國大都市の人口
在外本邦人　在留外國人　列國の婚姻
離婚出生死亡死産及自然增加　列國の
平均婚姻年齢　列國の人口增加率　帝
國の移民　列國の移民　列國の歲入
列國の歲出　列國の國債　列國の國富
列國の國民所得　列國の耕地面積　列
國の主要生産品　列國の貿易　列國の
鐵道　列國の自動車　列國の船舶　列
國の初等教育　帝國の教育
縣廳組織一覽
縣內選出の議員……六九
貴族院議員　衆議院議員　縣會議員
官公衙學校一覽……七二
電話架設市町村役場……八三
和歌山縣名所舊蹟……八九
別冊添付
和歌山縣管內圖
和歌山縣物産分布繪圖
汽車電車汽船時間表

位置

和歌山縣は本州島の最南端に位し紀伊半島の西南部を占む、和歌山市海南市新宮市及海草郡那賀郡伊都郡有田郡日高郡西牟婁郡東牟婁郡から成り、西は海草郡加太町の東經一三四度五九分五二秒から、東は新宮市又は東牟婁郡北山村の東經一三六度四八秒に至り、南は西牟婁郡潮岬村潮岬の北緯三三度二五分五六秒から、北は伊都郡紀見村紀見峠附近の北緯三四度二二分五三秒に終つてゐる。即ち經度に於て一度五六分、緯度に於て五六分五七秒の間に展開してゐる。

北は和泉山脈を以て大阪府（和泉國泉南郡河內國南河內郡）に境し、東は紀伊山脈を以て奈良縣（大和國吉野郡宇智郡）に連りまた熊野川を隔てゝ三重縣（紀伊國南牟婁郡）に接し、西は紀淡海峽を挾んで兵庫縣（淡路國津名郡）に向ひ、また紀伊水道を隔てゝ德島縣に相對し、南は渺茫たる太平洋に臨んでゐる。

地勢

概說　西南日本の外帶山系に屬する紀伊山脈は、本縣の殆ど全面を蔽ふてゐるから、地勢は山がちで平野少く海岸には小出入が多い。

山嶽

縣內に於ける紀伊山脈は概して中山性で、最高峰護摩壇山すら海拔一、三七〇米

に過ぎない。而して一、〇〇〇米(三千三百尺)以上の山嶽は紀和國境及びその附近の地に五十四座を算する。今そのうち名稱の判明せるものを掲げると次の通りである。

順位	名稱	標高	所屬山脈
1	護摩壇山	一、三七〇・〇米	紀和國境
2	鉾尖嶽	一、三一九・五	同
6	城ケ森山	一、二六九・一	白馬山脈
13	牛廻ノ山	一、二〇七・二	紀和國境
16	大峠山	一、一八八・〇	同
17	安堵山	一、一八四・一	果無山脈
18	茶臼山	一、一八一・一	同
22	臼ケ岡山	一、一六一・〇	白馬山脈
24	若藪山	一、一五二・〇	同
25	高甲良山	一、一三一・八	同
26	水ケ峰	一、一二八・〇	紀和國境
27	西ノ峰	一、一二三・五	果無山脈
28	寒川辻	一、一二三・一	白馬山脈

29	大塔山	一、一二一・八	大塔山彙
30	法師山	一、一二〇・五	同
31	白口峰	一、一一〇・二	紀和國境
32	陣ケ峯	一、一〇六・一	同
35	石堂山	一、〇八一・〇	白馬山脈
37	笹ノ茶屋	一、〇七七・〇	紀和國境
41	水ケ實形山	一、〇六三・七	同
42	笠塔山	一、〇四九・八	果無山脈
44	大森山	一、〇四五・三	同
45	大平多山	一、〇三二・〇	同
47	千丈山	一、〇二六・八	同
49	和田峰	一、〇二〇・〇	同
50	薄峠	一、〇一二・七	同
51	入道山	一、〇〇九・五	大塔山彙
52	楊柳山	一、〇〇八・八	高野山彙
54	百間山	一、〇〇〇・〇	大塔山彙

斯くの如く本縣の各高峰は其の標高に甚だしき懸隔はなきのみならず、且つ之が相當の廣さに分布してゐることは、本山脈の特色とされてゐる。殊にその切峯面の研究並びに大台原山や高野山頂の平坦面の研究により、紀伊半島には曾て準平原が存在してゐたことは、最早や疑を容れない所である。また半島の周邊には數段の山麓階が算へられてをり、山地の隆起は間歇的に行はれたものと見られてゐる。

河川

前述の如く紀伊山脈は曾ては準平原であつたが、その若返り的隆起に伴ひ、河川の下方浸蝕はかなり活潑に行はれた。熊野川の如きはその上流十津川、北山川と共に全川峽谷をなし、若返り先行谷の典型で、瀞八丁や九里峽の美景を伴つてゐる。古座川はまた峽流で名高い。紀ノ川は本縣内では模式的な縦谷に單調な流路をとり、有田川、日高川は縦谷と横谷との組合せで流路は著しく蛇行してゐる。灌漑に供せられてゐるものには紀ノ川、有田川、日高川があり。水力發電に利用されてゐるものには日高川、有田川、貴志川等がある。左表は管内流路四十粁以上のものである。

順位	名稱	水源地	河口地	管内流長
1	日高川	日高郡龍神村	日高郡塩屋村	一三〇粁
2	有田川	伊都郡高野町	有田郡箕島町	九五
3	日置川	東牟婁郡三里村	西牟婁郡日置町	七五
4	貴志川	伊都郡高野町	那賀郡丸栖村	五九
5	紀ノ川	奈良縣吉野郡大台原山	海草郡湊村	五四
6	古座川	東牟婁郡七川村	東牟婁郡古座町	四九
7	熊野川	奈良縣吉野郡大峯山	東牟婁郡新宮市	四八
8	富田川	西牟婁郡二川村	西牟婁郡南富田村	四八

海岸

本縣の沿岸は南日本には稀らしい複雜な肢節を呈し實に總延長四百九十七粁を算してゐる。蓋し此の海岸は地質時代より現代まで幾多の隆起と陷沒とが繰返され、その結果遂に今日に見るリアス式海岸となり、歴史的背景に富む和歌浦、盆景のやうな田邊灣、雄大そのものゝ潮岬、男性的な熊野灘海岸を形成し、觀光客をして賞嘆せしめればやまぬものがある。港灣の主なるものに加太灣、和歌浦灣、下津港、湯淺廣港、由良港、比井港、田邊灣、周參見港、串本港、玉ノ浦、太地灣、勝浦港などあり中にも下津港、由良港、勝浦港の如き自然の良灣はあるが何れもそのヒンターランドが狹小であるため、港市の發達遲々たるものがある。

河港としては和歌山港、有田港(箕島)日高港(御坊)、新宮港があるが就中和歌山港は紀ノ川口に建設される築港が完成された曉は阪神二大貿易港の大補助港として一段と活氣を呈するであ

らう。

海岸線（※印を附したるは概數なり）

郡市別	海岸線延長
和歌山市	※一〇・八軒
新宮市	七・六
海南市	五・八
海草郡	※六一・六
〜〜〜〜〜〜	
市町村別	海岸線延長
（海）加太町	※二五・五軒
西脇野村	※三・〇
木本村	※〇・五
（和）和歌山市	※一〇・八
有田郡	三二・三軒
日高郡	九二・四
西牟婁郡	一七〇・五
東牟婁郡	一一六・〇
合計	四九七・〇

市町村別	海岸線延長
松江村	※一・八軒
湊村	※三・〇

（海）紀三井寺村	※二・四
海南市	五・八
塩津村	二・五
大崎村	九・八
濱中村	四・七
椒村	八・四
（有）箕島町	一〇・五
保田村	一・七
田栖川村	六・二
湯浅町	一・九
廣村	二・一
南廣村	九・九
（日）衣奈村	一三・七
白崎村	一〇・七
由良村	三・二
志賀村	五・六
比井崎村	一六・四
三尾村	五・六
和田村	二・七
松原村	二・三
塩屋村	一・八
名田村	七・六
印南町	四・〇
切目村	六・八
岩代村	二・四
南部町	九・六
（西）下芳養村	二・〇
田邊町	一〇・七
新庄村	一五・二

西富田村	九・七
瀬戸鉛山村	二二・八
南富田村	一・八
東富田村	一〇・四
日置町	一六・七
周参見町	一五・三
江住村	一七・〇
和深村	一〇・三
田並村	四・九
有田村	三・五
串本町	一三・五
潮岬村	一六・七
(東)大島村	三八・〇
西向村	四・八
古座町	四・五
田原村	七・五
下里町	一五・二
太地町	一六・〇
下太田村	〇・七
勝浦町	八・八
那智村	八・三
宇久井村	一二・五
(新)新宮市	七・六

(昭和七年十月八日由良要塞司令部許可濟)

地　質

内地最古の地層といはれてゐる三波川(サンバカハ)系の結晶片岩は、紀ノ川下流の南側にあらはれその南に分布する御荷鉾(ミカブ)系の千枚岩類や輝岩と共に先石炭紀に屬してゐる。これらの地帶には所々蛇紋岩の露出がある。更にその南には秩父系の角岩や硬砂岩などが概れ有田川の北側に細長く横たはり日高郡の大部を占める珠羅(ジュラ)系との間には鳥屋城、湯淺方面の白堊系と白崎方面の二疊系とを挾んでゐる。珠羅系の南に白堊系は牟婁地方の大部分を占め第三系は田邊灣沿岸及び紀伊半島の南端に幅狹くあらはれてゐる。斯く本縣の地層は新らしきものほど南方に分布するの大勢を示し、且つその帶狀配列が日本海方面よりの壓力によつて覆瓦構造をなしてゐる。和泉山脈は白堊期の末期に於ける內海の堆積物が地殼變動によつて隆起したもので紀ノ川地溝の基底は先石炭系で伊都郡賀兩郡の北岸には洪積層が之を截ふてゐる。また第三紀の頃噴出した石英粗面岩が南方奥熊野地方にかなり多量に分布してゐる。橘杭岩の奇勝もその岩脈が海蝕を受けた結果に外ならぬ。最近此種の岩石は伊都郡信太村にも發見された、なほ潮岬大島方面には閃綠岩珍岩の噴出がある。

地震及び津浪

潮岬沖には有名な外測地震帶が横つてゐるから其の活動により古來幾度か大地震に遭遇し其の都度津浪の災害を蒙つてゐる。最近六百年間に發生したものゝうち特筆すべきは正平十六年八月二十四日、明應七年八月二十五日、慶長九年十二月十六日、寶永四年十月四日、安政元年十一月五日の大地震であつた。近年特に世人の注意を惹いたのは名草地方の小地震群でこれは大正九年から活動期に入つて今に繼續してゐる。その震源は和歌浦灣から紀川流域にかけての所謂名草地方に發するもので此の地域は紀伊半島に於ける地盤の漫性的隆起の頂點に當つてゐる。性急で地下數粁の淺處に發するのが特色である。また最近日高郡の海岸地方及びその沖合にも小地震が活動してゐるが名草地震群のやうに數多くない。而して昭和八年中の人體に感じたものは和歌山市に於て百三十四、人體に感ぜざるもの八百二十四、合計九百五十八回の多きに達して居る。

津浪は海底に發した地變のみには因らない。海上に於ける深刻な低氣壓にも基づく。何れにせよ津浪としての現象は等しい。これは津浪卽ち海岸に於いて急に高くなる津浪で單調で水深大なる海岸では殆どその害を見ないが本縣のやうにリアス式海岸で遠淺な海灣では著しく高まり災害も甚だしい。また溪流する河川の口も同樣である。かやうな海岸は津浪の常習地となる。本縣の津浪常習地としては紀ノ川口、和歌浦灣、湯淺灣、由良灣、田邊灣、玉ノ浦等で、和歌浦灣の片

男波海岸、湯淺灣の廣海岸等には特に津浪防止の堤防が築かれてある。

氣候

概說

太平洋中に著しく突出する紀伊半島の南端には直ちに暖流黑潮が迫つてゐるから本縣は本州中でもその影響が特に顯著で所謂南國的氣分が漂ひ一般に康健適地として知られてゐる。

地名	北緯	海拔	年平均氣溫	年降水量
	度分	米	度	粍
鹿兒島	三一・三四	五・四	一六・六	二、一五六
潮岬	三三・二七	七四・二	一六・九	二、六二三
ロスアンゼルス	三四・〇三	一〇三・〇	一七・〇	三九五
和歌山	三四・一三	一四・〇	一五・八	一、三八四
沼津	三五・〇六	七・二	一五・六	一、五三七

氣溫

南端潮岬附近の涙靜かな海岸には珊瑚礁が出來てゐり濱木綿（ハマユウ）、リウビンタイ、オホタニワタリ等の熱帶植物が繁茂し榕樹は日高郡の海岸にもとより有田郡田栖川の海岸にま

で分布し和歌山では蒲葵（ビラウ）、棗椰子（ナツヤシ）、ユーカリ等が屋外で大きく育つてゐる程である。

絶好の避暑地高野山、高野山上の平坦面は海拔八五〇米の高度を示してゐるから年平均氣溫は一〇度で寒流親潮の洗ふ青森縣の東海岸に匹敵してゐる。一月の平均氣溫は零下三・二度で青森市のそれと全く同じく雪が容易に融けないから近年スキー場が開かれた。また八月の平均氣溫は二一・八度で青森市の二一・九度よりも低く和歌山市の五六月の平均氣溫二一・五度に似てゐるから關西に於ける絶好の避暑地として知られてゐる。

降水量

本邦西南洋上に發生し東進する多くの低氣壓の進路に近い關係からその影響により一ケ年の降水量は平均和歌山市では一、三八四粍であるが潮岬の二、六二三粍、新宮の三、二三五粍、大雲取の三、五〇〇粍以上の如く南部は本州中の最多雨地に屬する。

冬季積雪量は高野山を初め東部の山間地方を除いては極めて少く和歌山市での大雪としては明治四十年二月十一日の二十一糎（六寸九分）、大正八年二月三日の十四糎（四寸六分）、昭和六年二月十日の十七糎（五寸八分）がその主要記錄である。

風

季節風帶に屬してゐるから寒季暖季に於て風向を異にするはいふまでもないが和歌山市では地形の關係から四季を通じて東北東の風が最も多い。しかし此の風は概ね弱く暴風といはれるものは西南風に限られてゐるやうである。

冬の西北風は可なり著しいが夏には海陸軟風が發達して特に夕風の現象が知られてゐる。なほ暴風は昭和八年の統計によれば和歌山市は僅か八日であるが潮岬は四季低氣壓の通過の爲め四十五日の多きに達して居る。而して既往五十年間の最强は昭和九年九月二十一日の近畿各地を襲ふた颱風で風速四二米を示し和歌山市に於て記錄的なものである。潮岬に於ては大正十年九月二十六日の三三・六米が記錄されてゐる。

要說

之を要するに一般に溫暖で夏季に雨多い標式的な表日本式の氣候を呈してゐるが特に南部は四國、九州の南部と同型の所謂南海式であるに對し北部殊に和歌山地方は南海瀨戸內兩形式間に寧ろ瀨戸內式に近い漸移地帶をなしてゐる。

廣袤と面積

本縣の廣袤は大約東西九十三粁（二十三里）南北百六粁（二十六里）で面積は四、七二三・方粁四二三（三〇六・方里二四九）となつて居る。

郡市別比較

面積順位	郡市名	廣	袤	面積
一	西牟婁	東西	四二・六八	一、〇八一・〇七七
二	東牟婁	南北	三五・七二	一、〇二七・五四四
三	日高	東西	五六・二八	九五四・六〇五
四	有田	南北	三四・三五	四六七・五一六
五	伊都	東西	二三・〇〇	四六四・〇四六
六	那賀	南北	二二・四二	四三〇・三六一
七	海草	東西	二二・六八	二二八・六九九
八	和歌山	南北	二一・五四	三二・六〇五
九	新宮	東西	一〇・七九	二三・一九六
十	海南	南北	三五・八七	一三・七七三
計			一〇五・七四	四、七二三・四二三

町村別面積

海草郡

順位	町村名	面積（方粁）
一	加太	一六・六二六
二	東山東	一五・二九三
三	加茂	一四・五一三
四	巽	一三・六九六
五	山口	一三・八七九
六	紀伊	一三・六七八
七	安原	九・九七九
八	直川	九・五〇一
九	濱中	八・九六一
一〇	龜川	八・七一四
一一	仁義	七・六一九
一二	有功	七・五二七
一三	貴志	七・四九六
一四	紀三井寺	七・四八〇
一五	楠見	七・三一一
一六	和佐	七・二九五
一七	西脇野	七・二八〇
一八	大崎	七・二三四
一九	西山東	五・九三三
二〇	岡崎	五・六七六
二一	椒	五・六三〇
二二	西和佐	五・三九八
二三	湊	四・九九七
二四	川永	四・二八八
二五	木本	四・〇六六
二六	松江	三・五六三
二七	野崎	三・三六二
二八	三田	二・八八四
二九	塩津	〇・七七一
計		二二八・七〇〇
平均		七・八八六

那賀郡

順位	町村名	面積（方粁）
一	鞆淵	三〇・七〇八
二	池田	二七・八二四
三	長谷毛原	二七・六七〇
四	粉河	二一・六五四
五	奥安樂川	一九・六六五
六	上神野	一八・八一七
七	田中	一七・二九〇
八	細野	一五・九〇二
九	上名手	一五・六三九
一〇	小川	一五・五七八
一一	猿川	一五・四七〇
一二	安樂川	一四・七一四
一三	東野上	一四・六九九
一四	山崎	一四・一三八
一五	根來	一三・三二六
一六	小倉	一三・一二〇
一七	眞國	一二・九八七
一八	龍門	一一・七六八
一九	南野上	一〇・八七三
二〇	上岩出	一〇・三九五
二一	北野上	九・九六三
二二	麻生津	九・一一九
二三	志賀野	八・七一四
二四	西貴志	八・〇五一
二五	下神野	七・三四二
二六	長田	七・〇九五
二七	東貴志	六・八一七
二八	川原	五・八七六
二九	調月	五・七〇七
三〇	中貴志	四・七三五
三一	岩出	四・二四一
三二	中野上	三・一六二
三三	丸栖	三・一三一
三四	王子	二・六八四
三五	名手	一・二一八
三六	狩宿	〇・二九三
計		四三〇・三六一
平均		一一・九五四

伊都郡

順位	町村名	面積（方粁）
一	高野	一〇二・六七四
二	花園	四八・一九八
三	富貴	三三・九六三
四	慇野	二九・八七五
五	天野	二九・六四四
六	見好	二五・七二一
七	河根	二五・〇七九
八	紀見	二二・八六〇
九	九度山	二一・四八五
一〇	四鄉	一九・〇一七
一一	隅田	一六・〇二五
一二	山田	一五・六〇九
一三	妙寺	一四・七二九
一四	學文路	一三・七一一
一五	笠田	一〇・四三六
一六	信太	九・八四〇
一七	橋本	八・二八八
一八	高野口	五・四六〇
一九	大谷	五・一六七
二〇	應其	三・八七一
二一	岸上	〇・五七一
二二	端場	〇・四六三
△	妙寺町信太村入會地	〇・五四〇
計		四六四・〇四六
平均		二一・〇九三

有田郡

順位	町村名	面積（方粁）
一	八幡	一〇九・九六九
二	津木	四二・八〇〇
三	石垣	四一・六九〇
四	五	三四・五四九
五	五西月	三〇・二二九
六	安諸	二七・三三〇
七	岩倉	二六・八八三
八	南廣	二〇・八五三
九	鳥屋城	一六・四二六
一〇	生石	一五・一一五
一一	田殿	一四・六六八
一二	城山	一三・五一一
一三	湯淺	一三・四四七
一四	藤並	一一・七八三
一五	箕島	一〇・七五〇
一六	御靈	九・五三二
一七	保田	八・二八二
一八	田栖川	八・〇六六
一九	宮原	八・〇〇五
二〇	糸我	三・二〇八
二一	廣	一・四一九
計		四六七・五一六
平均		二二・二六三

日高郡

順位	町村名	面積（方粁）
●一	龍神	二三四・三七五
二	川上	八九・四二五
三	寒川	七九・一三三
四	上山路	七〇・〇三八
五	船着	四九・三四〇
六	下山路	四一・八四四
七	川中	四〇・〇八六
八	眞妻	三八・六二〇
九	丹生	三六・〇四五
一〇	高城	三五・一五〇
一一	上南部	三〇・八七八
一二	切目川	二九・四四三
一三	清川	二八・二四〇
一四	稻原	二七・二三〇
一五	早蘇	一八・七八六
一六	中山路	一八・七八六
一七	矢田	一八・四九三
一八	由良	一五・九七九
一九	東内原	一四・七七六
二〇	岩代	一四・六六八
二一	志賀	一四・四六七
二二	名田	一三・四七八
二三	切目	一二・七三七
二四	南部	一一・六七六
二五	比井崎	八・四四四
二六	衣奈	八・七四五
二七	湯川	八・六九九
二八	印南	七・一七四
二九	塩屋	七・六〇四
三〇	野口	六・七四〇
三一	西内原	六・一〇八
三二	白崎	五・九五三
三三	和田	五・七六八
三四	三尾	四・九〇五
三五	藤田	三・五〇一
三六	御坊	三・〇三八
三七	松原	二・二五二
計		九五四・六〇五
平均		二五・八〇〇

西牟婁郡

順位	町村名	面積（方粁）
一	三川	一〇三・六二八
二	富里	一〇〇・九九〇
三	二川	七七・八八九
四	川添	七〇・九〇二
五	近野	六二・五二七
六	栗栖川	五九・〇一〇
七	周參見	五三・五八一
八	大都河	五一・九四六
九	三舞	四九・九一〇
一〇	和深	三六・〇九一
一一	佐本	三五・九〇六
一二	鮎川	二九・七〇六
一三	日置	二六・七六〇
一四	東富田	二五・七五七
一五	秋津川	二三・二四八
一六	長野	二三・一四八
一七	江住	二一・四五四
一八	上芳養	一九・七一一
一九	生馬	一九・六〇三
二〇	串本	一九・〇三三
二一	岩田	一七・四九〇
二二	北富田	一六・六二六
二三	上秋津	一三・九七一
二四	市ノ瀨	一一・六六〇
二五	西富田	一〇・五九六
二六	新庄	一〇・四五七
二七	田並	一〇・一〇二
二八	稻成	九・六二四
二九	瀨戸鉛山	九・一七七
三〇	三栖	八・九三〇
三一	有田	八・九一五
三二	田邊	七・四四〇
三三	下芳養	七・一二六
三四	中芳養	七・〇二八
三五	潮岬	六・九八七
三六	朝來	六・一二〇
三七	万呂	四・〇六八
三八	南富田	二・六九八
三九	下秋津	二・〇七七
計		一、〇八一・〇七七
平均		二七・七二〇

東牟婁郡

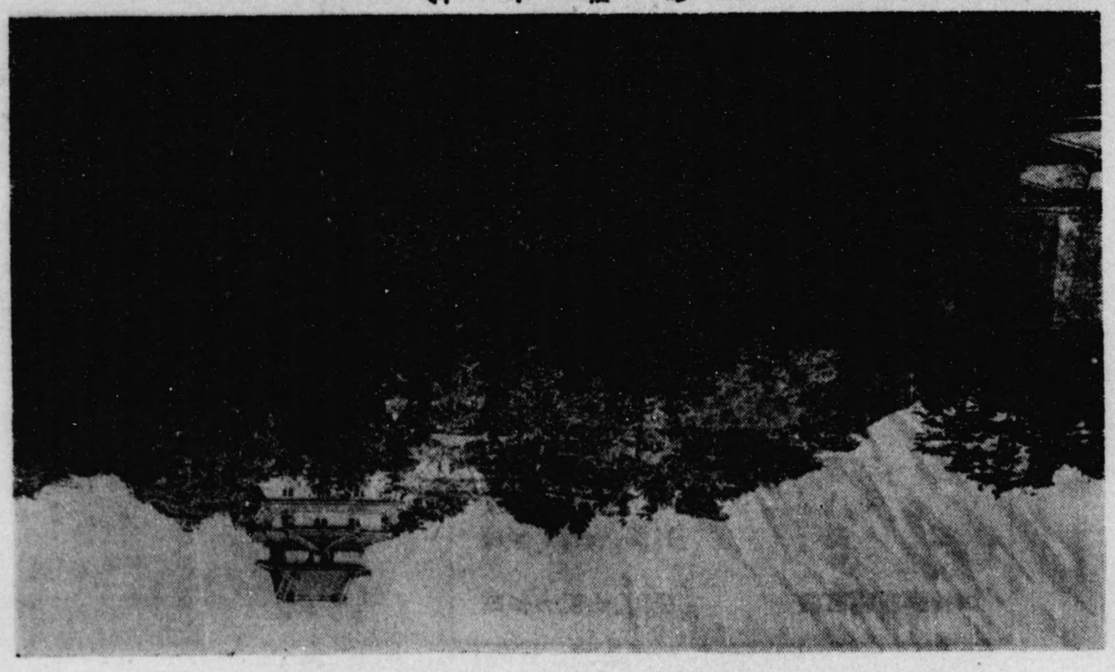
順位	町村名	面積（方粁）
一	七川	一〇八・六五八
二	請川	八六・三五六
三	小口	八〇・四二〇
四	色川	七四・一五六
五	小川	七一・三六四
六	三里	六九・六〇三
七	高田	五五・六〇二
八	北山	五三・六五六
九	三尾川	三九・四五五
一〇	高池	三八・七六八
一一	四村	三七・二四八
一二	上太田	三六・九三四
一三	那智	三六・八九三
一四	三津ノ	三六・三〇七
一五	明神	三六・二三〇
一六	敷屋	三三・七二一
一七	田原	三一・六六一
一八	九重	二〇・四八二
一九	西向	一三・六一六
二〇	宇久井	一二・〇四四
二一	下里	一一・九五八
二二	玉置口	一〇・三三四
二三	大島	九・八六〇
二四	下太田	七・九四〇
二五	太地	五・六三〇
二六	古座	四・九九七
二七	本宮	四・九五一
二八	勝浦	一・二四一
計		一、〇二七・五四三
平均		三六・六九八

註
●印ハ縣下町村中最大面積ヲ擁スル村
△印ハ同最小面積ニアル村

道府縣面積

順位	道府縣名	面積（方粁）
一	北海道	八八、七七五・〇四
二	岩手	一五、二三五・三〇
三	福島	一三、七八一・六一
四	長野	一三、六二六・一三
五	新潟	一二、五七八・六四
六	秋田	一一、六六三・八六
七	岐阜	一〇、四八四・七〇
八	青森	九、六三〇・九二
九	山形	九、三二五・七六
一〇	鹿兒島	九、一〇三・五〇
一一	廣島	八、四三六・五二
一二	兵庫	八、三二三・八八
一三	靜岡	七、七六九・九一
一四	宮崎	七、七三八・三〇
一五	熊本	七、四三七・七二
一六	宮城	七、二七三・七五
一七	高知	七、一〇三・六二
一八	岡山	七、〇四六・四八
一九	島根	六、六一八・〇四
二〇	栃木	六、四三六・五九
二一	群馬	六、三三五・八二
二二	大分	六、三三三・八八
二三	茨城	六、〇九〇・九九
二四	山口	六、〇八二・一一
二五	三重	五、七六五・二八
二六	愛媛	五、六六七・一一
二七	愛知	五、〇八一・二四
二八	千葉	五、〇七八・八〇
二九	福岡	四、九三九・六五
三〇	和歌山	四、七二三・四二
三一	京都	四、六二一・二〇
三二	山梨	四、四六五・八七
三三	富山	四、二五七・四三
三四	石川	四、一九七・五一
三五	德島	四、一四三・二三
三六	長崎	四、〇七五・七八
三七	滋賀	四、〇五〇・九三
三八	福井	四、〇一七・九七
三九	埼玉	三、八〇二・七八
四〇	奈良	三、六八八・六〇
四一	鳥取	三、四八九・四八
四二	佐賀	二、四四三・九〇
四三	沖繩	二、三八六・二九
四四	神奈川	二、三五三・四九
四五	東京	二、一四四・七九
四六	香川	一、八五八・七三
四七	大阪	一、八一三・六三
計		三八二、三〇九・〇〇
平均		八、一三四・二三

和歌山城



日本帝國總面積	四三、七四七方里
內地	二四、七六三方里
朝鮮	一四、三一二方里
臺灣	二、三三二方里
樺太	二、三四〇方里

土地

縣內の土地は官有地は正確に判り兼ねるが大體總面積の一割と見られ民有地は九割を占めて居る、更らに民有地を種目別に比較して見ると田は一割、畑は四分九厘、宅地は一厘、山林は八割四厘其他は四分六厘となり郡市別にすると左の通りとなつて居る。

民有地の比較

昭和九年一月現在

順位	郡市別	總反別	有租地	年期地	免租地	總反別百中 有租地	總反別百中 年期地	總反別百中 無租地
一	東牟婁郡	八六、五三四・八町	八五、四二〇・八町	五九二・四町	五一一・六町	九八・七	〇・七	〇・六
二	西牟婁郡	七九、三七一・〇	七七、四七八・二	六〇二・八	一、二九〇・〇	九七・六	〇・八	一・六
三	日高郡	五五、四六八・八	五三、二〇一・一	一、二八五・〇	九八二・七	九五・九	二・三	一・八
四	伊都郡	三五、五五二・四	三四、八〇二・一	一九五・九	五五四・四	九八・〇	〇・六	一・六
五	那賀郡	三四、四三七・五	三一、〇〇九・四	一四四・八	三、二八三・三	九〇・〇	〇・四	九・五
六	有田郡	二〇、七〇九・八	一九、九二九・八	二二三・五	五六六・五	九六・二	一・〇	二・七
七	海草郡	一七、九二八・八	一六、九三四・七	二〇六・一	七八八・〇	九四・五	一・一	四・四
八	和歌山市	二、三六九・七	二、二二二・六	〇・六	一五六・五	九三・四	〇・〇	六・六
九	新宮市	一、八三六・〇	一、七九六・〇	五・六	三四・四	九七・八	〇・〇	一・九
計		三三四、一九八・八	三三二、七八四・七	三、二四六・七	八、一六七・四	九六・六	一・〇	二・四

有租地の分類

昭和九年一月現在

郡市別	總反別	田	畑	宅地	山林	其他
東牟婁郡	八五、四二〇・八町	二、二三〇・五町	一、一一〇・七町	三二〇・一町	八一、四九七・三町	二六二・二町
西牟婁郡	七七、四七八・二	四、〇五八・八	二、一六四・五	五七六・三	七〇、三九一・〇	二八七・八
日高郡	五三、二〇一・一	五、五〇五・三	一、八二四・九	五八五・二	四五、二〇八・〇	七七・六
伊都郡	三四、八〇二・一	三、六一八・六	二、一〇八・五	四四六・二	二八、一六七・四	四六一・三
那賀郡	三一、〇〇九・四	七、二三二・七	二、八八八・〇	六六四・四	二〇、一六二・〇	七二・二
有田郡	一九、九二九・八	三、四二九・七	二、六六三・七	四五九・〇	一三、五六〇・七	一六・七
海草郡	一六、九三四・七	五、二六九・〇	二、六七〇・一	六七八・五	八、一三五・三	一八一・八
和歌山市	二、二二二・六	九四四・四	四三七・八	六五〇・九	一四七・九	三一・五
新宮市	一、七九六・〇	三五四・六	五〇・八	一二五・八	一、一三六・八	三八・六
計	三三二、七八四・七	三二、六三三・六	一六、〇一九・〇	四、四九六・四	二六八、二〇六・四	一、四二九・七

管轄地の沿革

和歌山縣の管轄地は明治元年迄は紀伊、田邊、新宮の三藩と高野寺に依つて管轄せられて居つたのであるが明治二年に和歌山、田邊、新宮、堺の四藩の管轄と變り翌明治三年に至つて堺藩に屬する分が五條縣の管轄に移り更に明治四年の七月に至つて和歌山藩、田邊藩、新宮藩を何れも縣と改め越へて明治四年十一月二十二日に現在の郡市を以て和歌山縣の管轄地とし茲に初めて變更に變更を重れた本縣の管轄地も定まるに至つたのである其の後この區域内に於て左の變更を經て現在は和歌山、新宮、海南、海草、那賀、伊都、有田、日高、西牟婁、東牟婁の三市七郡である。

明治二十二年四月一日和歌山區ヲ和歌山市ニ改稱

明治二十九年四月一日名草、海部二郡ヲ廢シ海草郡ヲ設置

昭和八年十月一日東牟婁郡新宮、三輪崎二町ヲ廢シ新宮市ヲ設置

昭和九年五月一日海草郡日方、内海、黑江ノ三町ト大野村ガ合併海南市ヲ設置

管轄地	自明治四年至現在	明治四年	明治三年	明治二年	明治元年
和歌山市 海草郡元名草郡ノ内 海南市元海部郡ノ内 伊都郡ノ内 那賀郡ノ内 有田郡ノ内 日高郡ノ内	七月十四日 和歌山縣	六月十七日 和歌山藩	紀伊藩		
西牟婁郡ノ内 東牟婁郡ノ内 西牟婁郡ノ内 日高郡ノ内 有田郡ノ内 海草郡元名草郡ノ内	十一月二十二日 和歌山縣 七月十四日 田邊縣	六月二十日 田邊藩	田邊藩		
新宮市 東牟婁郡ノ内 日高郡ノ内 有田郡ノ内 海草郡元名草郡ノ内 那賀郡ノ内 伊都郡ノ内	七月十四日 新宮縣	六月二十日 新宮藩	新宮藩		
	四月廿七日 五條縣	八月日不詳 堺藩	高野寺領		

行政區劃

郡市別

昭和十年一月現在

和歌山縣の行政は三市七郡に分ち郡は又二十六町と百八十六の村に分割せられて居る。

和歌山市

新宮市

海南市

海草郡　二十九ヶ町村
- 一ヶ町（加太）
- 二十八ヶ村
  - 有功（楠見、野崎、松江、貴志、山口、紀伊、直川、川永、岡崎、三田、西和佐、和佐、安原、紀三井寺、）
  - 龜川（巽、西山東、木本、西脇野、湊、加茂、）
  - 大崎（東山東、）
  - 塩津（濱中、椒、仁義）

那賀郡　三十六ヶ町村
- 四ヶ町（岩出、粉河、名手、東野上）
- 三十二ヶ村
  - 池田（長田、王子、狩宿、川原、上名手、麻生津、龍門、）
  - 安樂川（奥安樂川、調月、中貴志、東貴志、西貴志、）
  - 丸栖（田中、山崎、根來、上岩出、小倉、中野上、）
  - 南野上（北野上、小川、上神野、下神野、猿川、長谷、）
  - 毛原（眞國、志賀野、細野、鞆淵）

伊都郡　二十二ヶ町村
- 六ヶ町（橋本、笠田、妙寺、高野口、九度山、高野）
- 十六ヶ村
  - 大谷（四郷、信太、應其、端場、山田、岸上、紀見、）
  - 隅田（富貴、戀野、學文路、河根、見好、花園、天野）

有田郡　二十一ヶ町村
- 二ヶ町（湯淺、箕島）
- 十九ヶ村
  - 宮原（糸我、保田、廣、田栖川、南廣、津木、田殿、）
  - 藤並（生石、御靈、石垣、岩倉、五西月、鳥屋城、安諦、八幡、城山、五）

日高郡　三十七ヶ町村
- 三ヶ町（御坊、印南、南部）
- 三十四ヶ村
  - 原（衣奈、白崎、由良、志賀、比井崎、三尾、和田、東内、西内原、湯川、鹽屋、野口、松原、矢田、早蘇、）
  - 丹生（藤田、船着、川上、川中、下山路、中山路、上高城、）
  - 山路（龍神、寒川、名田、稲原、眞妻、上南部、清川、岩代、切目、切目川）

西牟婁郡　三十九ヶ町村
- 四ヶ町（田邊、周參見、日置、串本）
- 三十五ヶ村
  - 稲成（下芳養、中芳養、上芳養、下秋津、上秋津、秋津川、）
  - 二川（新庄、瀬戸、鉛山、万呂、三栖、長野、栗栖川、）
  - 富田（朝來、生馬、岩田、市ノ瀬、鮎川、東富田、北和深、）
  - 南富田（西富田、大都河、川添、三舞、江住、田並、有田、潮岬、富里、近野、三川、佐本）

東牟婁郡　二十八ヶ町村

六ヶ町（古座、高池、下里、太地、勝浦、那智）

二十二ヶ村（大島、西向、田原、明神、三尾川、小川、七川、上太田、下太田、字久井、三津ノ、高田、小口、請川、敷屋、本宮、四、三里、北山、九重、玉置口、色川）

全國郡市町村數

昭和九年一月現在

一道三府四十三縣の郡、市、町、村數は左の通りであるから我が和歌山縣の郡、市、町、村數は何れも平均數に達しないことになつて居る。

市町村數順位	道府縣	郡	市町村總數	市	町	村
一	兵庫	二五	四二一	五	六八	三三八
二	福島	一七	四〇七	三	四六	三五八
三	廣島	一六	四〇〇	四	五六	三四〇
四	新潟	一六	四〇三	三	四九	三五一
五	長野	一六	三八六	三	三〇	三五三
六	岡山	一九	三八四	三	五八	三三三
七	茨城	一四	三八〇	一	五三	三三六
八	埼玉	九	三六三	三	四七	二一三
九	熊本	三	三四九	一	四一	三〇〇
一〇	千葉	三	三四一	二	八七	二五二
一一	岐阜	一八	三三七	二	五七	二七八
一二	三重	一五	三三三	四	三六	二九三
一三	静岡	一三	三二五	四	四八	二七三
一四	福岡	一九	三一五	一〇	五〇	二五五

市町村數順位	道府縣	郡	市町村總數	市	町	村
一五	島根	一六	二七九	一	二三	二五五
一六	愛媛	一三	二七五	三	二五	二三七
一七	北海道	八五	二七一	七	四一	二三三
一八	富山	八	二六四	二	三三	二二九
一九	大分	一三	二五一	三	三五	二一三
二〇	愛知	一八	二四四	五	八一	一五八
二一	山梨	九	二三八	一	一三	二三五
二二	岩手	一三	二三七	一	二八	二〇八
二三	秋田	九	二三六	一	四七	一八八
二四	京都	一八	二三三	一	二六	二〇六
二五	大阪	七	二三一	三	二五	二〇三
二六	山形	一	二三八	四	二六	一九八
二七	和歌山	七	二二八	二	二八	一八八
二八	山口	一	二二八	四	三二	一八二
二九	石川	八	二二一	一	二四	一八六
三〇	群馬	一	二〇六	三	四〇	一六三
三一	宮城	一六	二〇二	二	三八	一六二
三二	滋賀	一三	一九八	一	二〇	一七七
三三	高知	七	一九二	一	二八	一六三
三四	長崎	九	一八五	二	二三	一六〇
三五	東京	三	一八四	二	七〇	一二二
三六	鳥取	六	一八二	二	一七	一六三
三七	福井	一一	一七八	一	二三	一六五
三八	栃木	八	一七七	二	二七	一三八
三九	神奈川	一一	一七五	四	三三	一三八
四〇	香川	七	一七四	二	二三	一五〇
四一	青森	八	一六七	三	二三	一四一
四二	奈良	一〇	一五二	一	二八	一二三
四三	鹿兒島	一三	一四三	一	三七	一〇五
四四	德島	一〇	一三七	一	三八	九八

四五	佐賀	八	一三五	二 一三 一一〇
四六	宮崎	八	九五	三 一七 七五
四七	沖縄	五	五六	二 四 五〇
合計		六二七	二、六一四	一三二 一、六六三 九、八二九
平均		一三	二四七	二 三五 二〇九

歴代の長官と部長

長官 明治四年七月十四日藩を廃して和歌山、田辺、新宮の三縣を置かれ同年十一月二十二日更らに三縣を廃して和歌山縣を置かるゝことゝなり舊和歌山縣大參事津田正臣氏は引續き大參事として就任せられた今津田正臣氏が舊和歌山縣大參事として任命せられた時より現在に至る六十三年間の歴代長官を調べて見ると現在の藤岡長官は第二十八代目に當り勤續年數の最も永いのは神山郡廉氏の十ケ年最も短かつたのは清水德太郎氏の五十七日間で平均勤續年數は二年四ケ月となつて居る。而して官名は明治五年一月二十五日より權令と改められ明治七年十月十九日よりは更らに縣令となり現在の如く知事と稱するに至つたのは明治十九年七月十九日以降となつて居る。

代數	氏名	在職期間
初代	津田正臣	自明治四、九、一四 至〃四、一二、二五
二代	北島秀朝	〃四、一二、二五 〃六、一〇、一三
三代	神山郡廉	〃六、一〇、一三 〃一六、一〇、二〇
四代	松本鼎	〃一六、一〇、二〇 〃二二、二、二六
五代	石井忠亮	〃二二、二、二六 〃二四、四、九
六代	千田貞曉	〃二四、四、九 〃二五、一、二五
七代	沖守固	〃二五、一、二五 〃三〇、四、七
八代	久保田貫一	〃三〇、四、七 〃三二、一〇、八
九代	野村政明	〃三二、一〇、八 〃三三、四、七

代數	氏名	在職期間
十代	小倉久	自明治三三、四、七 至〃三三、一〇、二五
十一代	椿蓁一郎	〃三三、一〇、二五 〃三六、六、二九
十二代	清棲家敎	〃三六、六、二九 〃四〇、一、一一
十三代	伊澤多喜男	〃四〇、一、一一 〃四二、七、三〇
十四代	川上親晴	〃四二、七、三〇 〃四四、九、四
十五代	川村竹治	〃四四、九、四 大正三、六、九
十六代	鹿子木小五郎	〃三、六、九 〃六、一三、一七
十七代	池松時和	〃六、一三、一七 〃九、二、三
十八代	小原新三	〃九、二、三 〃一三、六、一六

十九代　佐竹　義文　（自大正三、六、一六　至〃一三、六、二四）
二十代　長谷川久一　（〃昭和一三、六、二四　〃三、三、三）
二十一代　清水德太郎　（〃〃二、三、三三　〃二、五、一七）
二十二代　宮脇　梅吉　（〃〃二、五、一七　〃二、一一、一七）
二十三代　野手　耐　（〃〃二、一一、一七　〃四、七、五）

内務部長

明治七年四月に河野通氏が就任せられてから六十年間の歴代の内務部長を調べて見るに現在の川久保内務部長は三十一代目で一番勤續年數の長いのは初代の警察部長から轉じた秋山恕郷氏の九年五ケ月で一番短かつたのは川島純幹氏の五ケ月で平均勤續年數は二年となつて居る。

代數	氏名	在職期間
初代	河野　通	（自明治七、四、九　至〃一四、八、六）
二代	水野寅次郎	（自明治一四、八、六　至〃一五、二、八）
三代	松本　鼎	（自明治一五、二、一八　至〃一六、一〇、二〇）
四代	秋山　恕郷	（〃〃一六、一〇、二〇　〃二六、三、一八）
五代	後藤　敬臣	（〃〃二六、三、一八　〃二八、四、一四）
六代	日比　重明	（〃〃二八、四、一五　〃三〇、八、二三）
七代	小野德太郎	（〃〃三〇、八、二三　〃三三、四、八）
八代	吉井　常也	（〃〃三三、四、八　〃三三、一、二〇）
九代	椿　蓁一郎	（〃〃三三、一、二〇　〃三三、一〇、二五）
十代	森　正隆	（〃〃三三、一〇、二五　〃三四、八、二四）
十一代	神原　以德	（〃〃三四、八、二四　〃三五、三、二六）
十二代	樺山喜平次	（〃〃三五、三、二六　〃三七、二、一八）
十三代	渡邊勝三郎	（自明治三七、二、一八　至〃三九、七、二八）
十四代	川島　純幹	（〃〃三九、七、二八　〃四〇、一、二）
十五代	佐藤孝三郎	（〃〃四〇、一、二　〃四一、一〇、九）
十六代	相良　歩	（〃〃四一、一〇、九　大正二、六、一三）
十七代	荻　亮	（〃〃二、六、一三　〃三、六、九）
十八代	馬渡　俊雄	（〃〃三、六、九　〃六、一、一七）
十九代	竹井貞太郎	（〃〃六、一、一七　〃一〇、六、三）
二十代	稲葉健之助	（〃〃一〇、六、三　〃一一、九、二七）
二十一代	松村　義一	（〃〃一一、九、二七　〃一三、七、二三）
二十二代	新庄祐次郎	（〃〃一三、七、二三　〃一四、九、一七）
二十四代	友部　泉蔵	（自昭和四、七、五　至〃五、八、二六）
二十五代	藏原　敏捷	（〃〃五、八、二六　〃六、三、一八）
二十六代	唐澤　俊樹	（〃〃六、三、一八　〃七、六、二八）
二十七代	清水　良策	（〃〃七、六、二八　〃九、一一、一〇）
二十八代	藤岡　長和	（〃〃九、一一、一〇）

二十三代	堀田　鼎	自大正一四、九、一七　至昭和二、五、一七
二十四代	井野　次郎	〃　二、五、一七　三、一、一〇
二十五代	福邑　正樹	〃　三、一、一〇　四、八、一〇
二十六代	泊　武治	〃　四、八、一〇　五、七、一〇
二十七代	多久　安信	自昭和五、七、一　至〃　六、六、二七

警察部長

明治十五年一月二十五日に秋山恕郷氏が就任以來五十二年間の歴代の警察部長を調べて見ると現在の内藤部長は三十一代目であつて勤續の最も永いのは山中幸義氏の六年十ヶ月で最も短かつたのは渡正監氏の四ヶ月で平均勤續年數は一年九ヶ月餘となつて居る。

代數	氏名	在職期間
初代	秋山　恕郷	自明治一五、一、二五　至〃　一六、一〇、二〇
二代	松井　通昭	〃　一六、一〇、二〇　一九、二、二六
三代	山根　泰太	〃　一九、二、二六　一九、一〇、二三
四代	森尾　茂助	自明治一九、一〇、二三　至〃　二二、五、四
五代	山中　幸義	〃　二二、五、四　二九、三、二二
六代	小林　南八	〃　二九、三、二二　三一、三、一九
七代	吉井　常也	自明治三一、三、一九　至〃　三三、四、八
八代	青木　定謙	〃　三三、四、八　三五、四、一
九代	桶脇　盛苗	〃　三五、四、一　三六、一、一五
十代	櫻井　高尚	〃　三六、一、一五　三九、七、二八
十一代	佐藤孝三郎	〃　三九、七、二八　四〇、一、一四
十二代	佐藤　勸	〃　四〇、一、一四　四一、六、二
十三代	吉留　寛夫	〃　四一、六、二　四二、七、三〇
十四代	脇田　琥一	〃　四二、七、三〇　四二、一二、二七
十五代	廣瀬　直幹	〃　四二、一二、二七　大正元、一三、三〇
十六代	長岡隆一郎	〃　元、一三、三〇　四、七、一
十七代	日比　重雅	自大正四、七、一　至〃　四、一二、一
十八代	和田　統	〃　四、一二、一　七、三、五
十九代	福永　尊介	〃　七、三、五　八、四、一九
二十代	宮脇　梅吉	〃　八、四、一九　九、一二、四
二十一代	羽田格三郎	〃　九、一二、四　一二、八、一九
二十二代	滋岡　長彦	〃　一二、八、一九　一三、六、四
二十三代	田口　易之	〃　一三、六、四　一五、九、二八
二十四代	横井　直與	〃　一五、九、二八　昭和二、五、一七
二十五代	村田　武	〃　二、五、一七　三、五、三〇
二十六代	別宮　秀夫	〃　三、五、三〇　四、七、一四

二十七代	池田繁治	自昭和四、七、四 至〃六、八、二九
二十八代	渡正監	〃 〃六、三、二四
二十九代	山口守之進	自昭和六、二、二四 至〃七、六、三〇
三十代	山内義文	〃 〃七、六、三〇
三十一代	内藤寛一	〃 〃九、二、一〇

學務部長

今から十年以前に今の學務部と同じ制度があつて第三部長と稱せられて居たが間もなく內務部に合併せられ大正十五年七月一日から再び學務部の制度が設けられ中井久三氏が學務課長より引續き初代部長となり現代の刀禰部長は第六代目で平均勤續年數は一年九ヶ月となつて居る。

代數	氏名	在職期間
初代	中井久三	自大正一五、七、一 至昭和二、五、一七
二代	福元岩吉	〃 〃二、五、一七 五、八、二八
三代	今吉敏雄	〃 〃五、八、二八 六、三、二四
四代	連修	自昭和六、三、二四 至〃七、一〇、一三
五代	高橋一郎	〃 〃七、一〇、一三 九、一、三
六代	刀禰有秋	〃 〃九、一、三

戸口

郡市別推計人口

昭和九年十月一日現在の內閣統計局推計に依る郡市別人口を多き順に一覽表として見ると左の通りで總數は男四十三萬三千二百人、女四十三萬一千九百人、合計八十六萬五千百人となり昭和五年の國勢調査に比較して見ると三萬四千三百餘人、大正九年の國勢調査に對比して見ると十一萬四千七百餘人の增加で一ヶ年平均八千二百人の驚くべき增加趨勢を示して居る。次に男女の割合は全國に就て見ると女百人に付男百一人となつて居るが本縣は之と殆ど同じ割合になつてゐる以前は女より男の方が少なかつたのが段々反對の傾向をは表すやうになつて來た。

郡市別	總人口	男	女	一方粁當人口
和歌山市	一七一、四〇〇	八八、五〇〇	八二、九〇〇	五、二五六・八人
新宮市	二九、五〇〇	一四、三〇〇	一五、二〇〇	一、二七二・八
海南市	三一、三〇〇	一五、六〇〇	一五、七〇〇	二、三七二・六
海草郡	九四、四〇〇	四七、二〇〇	四七、二〇〇	四二・九
那賀郡	九九、四〇〇	四九、四〇〇	五〇、〇〇〇	三二・〇
伊都郡	八一、四〇〇	四〇、四〇〇	四一、〇〇〇	一七五・四
有田郡	八二、六〇〇	四一、三〇〇	四一、三〇〇	一七六・七
日高郡	一〇四、一〇〇	五二、七〇〇	五二、四〇〇	一〇九・一
西牟婁郡	一〇七、四〇〇	五三、三〇〇	五四、一〇〇	九九・三
東牟婁郡	六三、六〇〇	三二、五〇〇	三二、一〇〇	六二・九
計	八六五、一〇〇	四三二、二〇〇	四三二、九〇〇	一八三・二

郡市別國勢調査戸口

昭和五年十月一日現在

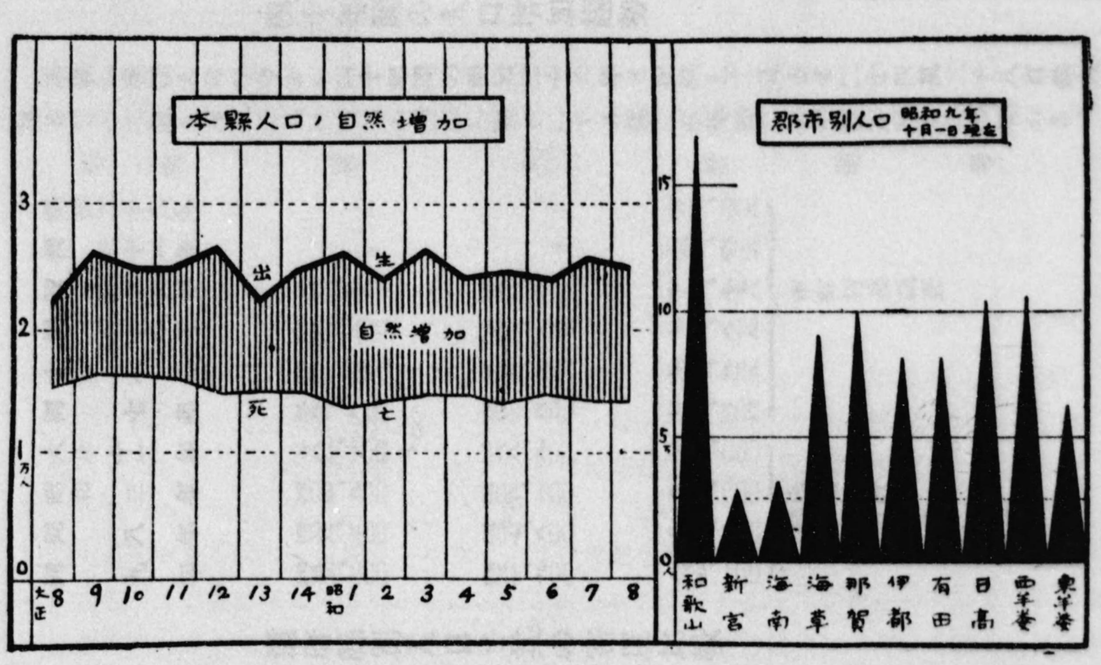
郡市別	世帶數	總人口	男	女	一戸當り人口	一方粁當人口
海草郡	三四、六一九	一六二、〇二四	八一、五六四	八〇、四六〇	四・六八	六二九・四
和歌山市	二六、二五八	一一七、四四四	五九、四二八	五八、〇一六	四・四七	六、六四四・二
西牟婁郡	二三、五五四	一〇五、一六二	五二、三〇九	五二、九五三	四・六六	九七・四
日高郡	二〇、七〇三	九八、七七五	四九、一四九	四九、六二六	四・七七	一〇三・五
那賀郡	二〇、一六〇	九七、〇七七	四八、一六三	四八、八一四	四・七九	二二五・六
東牟婁郡	二〇、四六八	九二、〇六七	四五、三二四	四六、七五三	四・五〇	八七・六
伊都郡	一六、四六七	七九、一一九	三九、一四五	三九、九七四	四・八〇	一七〇・五
有田郡	一六、一二六	七八、九八〇	三八、八六三	三九、一一九	四・九〇	一六八・九
計	一七七、四五五	八三〇、七四八	四一五、〇三五	四一五、七一三	四・六八	一七五・九

町村別戸數と人口

昭和五年十月一日の現在を以て行はれた國勢調査に依る町村別人口を各郡毎に多き順に一覽表として見ると左の通りで縣下を通じて新宮町（今の新宮市）の二萬五千百七十九人が第一位を占め玉置口村の三百人が末位となり一町村平均三千百七十人となつて居る。

人口ノ順位	町村名	世帶數	人口
	海草郡		
一	黒江	二、四二三	一二、四四九
二	宮前	二、一七四	九、三〇七
三	和歌浦	二、〇三三	九、一七二
四	中之島	一、九九二	九、〇二〇
五	日方	一、七七六	八、〇五一
六	岡町	一、六一一	七、〇〇八
七	内海	一、三八一	六、九四一
八	紀三井寺	一、四五〇	六、三八三
九	加太	一、二五八	五、八七六
一〇	安原	一、一三六	五、四七三
一一	濱中	八八五	四、三七八
一二	楠見	九〇六	四、三一五
一三	大崎	八二六	四、〇二九
一四	雑賀崎	九一八	三、九五四
一五	野崎	七九二	三、七八六
一六	巽	七五三	三、七一八
一七	湊	七七五	三、六四三
一八	紀伊	六六九	三、五四八
一九	西脇野	七八八	三、四五七
二〇	加茂	六八二	三、三六八
二一	亀川	六五〇	三、一三一
二二	東山東	六一八	三、〇六一
二三	西和佐	五七四	二、八七六
二四	四ヶ郷	五一八	二、七六九
二五	岡崎	五三八	二、七〇〇
二六	松江	五八七	二、六五一
二七	木本	五七〇	二、五五七
二八	西山東	五三三	二、四六五
二九	椒	四九一	二、四三三
三〇	和佐	四七九	二、三八九
三一	大野	四九五	二、二四五
三二	三田	四五六	二、一九二
三三	山口	四三三	二、〇二四
三四	貴志	四一五	一、八七〇
三五	有功	三七七	一、八六五
三六	鳴神	三七四	一、七九〇
三七	川永	三五五	一、六九七
三八	仁義	三二七	一、六三六
三九	直川	三〇四	一、四四四
四〇	塩津	三三〇	一、三七四
	計	三四、六一九	一六二、〇二四
	平均	八六五	四、〇五〇
	那賀郡		
一	粉河	一、四五八	六、八一六
二	田中	一、一九八	五、七三〇
三	池田	一、一六五	五、六三二
四	東野上	一、一三六	五、三九九
五	小倉	八六六	四、一四三
六	安樂川	八四四	三、九一八
七	岩出	七一六	三、六三九
八	北野上	七〇〇	三、二八四
九	山崎	六五七	三、一五七
一〇	中野上	五七一	二、八四二
一一	下神野	六二一	二、七五五
一二	川原	五一八	二、六四二
一三	名手	五三四	二、五三六
一四	龍門	四九一	二、四九三
一五	麻生津	五五三	二、四七六
一六	長田	四九八	二、四七二
一七	上名手	四三九	二、四〇一
一八	西貴志	五〇三	二、三八一
一九	上神野	四八〇	二、二六八
二〇	奥安樂川	四七二	二、二四六
二一	小川	四八五	二、二一七
二二	長谷毛原	四三〇	二、一二九
二三	中貴志	四三九	二、一一一
二四	鞆淵	四三三	二、〇五〇
二五	東貴志	四一七	二、〇四三
二六	南野上	四一五	二、〇二五
二七	丸栖	四二二	一、九九二
二八	上岩出	三六〇	一、七八三
二九	調月	三七五	一、七七八
三〇	根來	三五二	一、六九五
三一	猿川	三三六	一、六一〇
三二	狩宿	三七三	一、五八六
三三	王子	二九九	一、四一九
三四	眞國	二五〇	一、二四五
三五	細野	二三一	一、〇九〇
三六	志賀野	二〇三	一、〇八二
	計	二〇、二六〇	九七、〇七七
	平均	五六二	二、六九六
	伊都郡		
一	高野	一、六五三	八、四三三
二	橋本	一、六三八	七、二〇一
三	妙寺	一、二七二	六、三四三
四	九度山	一、三〇九	五、九九三
五	見好	一、一三二	五、四七六
六	笠田	一、一四三	五、二三四
七	高野口	一、一三三	四、八七二
八	學文路	七九九	三、九八四
九	隅田	七七八	三、九〇三
一〇	紀見	七五四	三、七四七
一一	應其	七三五	三、四七〇
一二	山田	五八〇	二、八六二
一三	富貴	四九七	二、三九八
一四	戀野	四四七	二、一九八
一五	四郷	三八六	二、〇九二
一六	大谷	三九六	一、九六〇
一七	花園	三三一	一、八三七
一八	天野	三九七	一、七七六
一九	河根	三二七	一、七〇七
二〇	信太	二八七	一、四六一
二一	岸上	二八二	一、三二二
二二	端場	二〇三	八六〇
	計	一六、四六七	七九、一一九
	平均	七四八	三、五九六
	有田郡		
一	箕島	二、七八二	一三、五四〇
二	湯淺	二、三七一	一〇、八五六
三	八幡	一、三〇一	五、九九五
四	島屋城	八二六	三、九九〇
五	保田	七四四	三、九〇六
六	田殿	七〇七	三、六五五
七	五西月	七三七	三、六〇七
八	廣	六一八	三、五四六
九	藤並	七〇〇	三、五四二
一〇	御靈	六六五	三、一九七
一一	南廣	五五五	三、一一〇
一二	宮原	五九三	三、〇六〇
一三	石垣	五八九	二、七八八
一四	田栖川	五五〇	二、七五五
一五	岩倉	五二〇	二、三四七
一六	城山	三八五	一、八〇五
一七	安諦	三七一	一、七九八
一八	津木	三〇九	一、六四九
一九	生石	三一四	一、五七九
二〇	糸我	二三一	一、一七九
二一	五	二五八	一、〇七六
	計	一六、一三六	七八、九八〇
	平均	七六七	三、七六一
	日高郡		
一	御坊	二、六〇〇	一三、一六八
二	南部	一、三三一	六、三四四
三	由良	一、〇六四	四、八三五
四	川上	八六四	三、九五六
五	上南部	七八五	三、六九五
六	湯川	六八七	三、六五三
七	松原	七一七	三、六〇九
八	名田	五七五	三、〇五三
九	印南	六二七	二、九九一
一〇	塩屋	六二九	二、八九四
一一	丹生	五九六	二、八五五
一二	稲原	五六三	二、六九三
一三	船着	五二五	二、五九六
一四	切目	五二一	二、四九六
一五	上山路	五四〇	二、四七四
一六	比井崎	五七三	二、三五五
一七	衣奈	四五一	二、二五七
一八	白崎	四七五	二、一九七
一九	矢田	四三二	二、〇九四
二〇	志賀	三九七	一、九二九
二一	東内原	三九〇	一、九一七
二二	和田	四〇三	一、八六六
二三	切目川	三九四	一、八三二
二四	下山路	三九三	一、八三一
二五	寒川	三七一	一、八〇〇
二六	龍神	三六二	一、七七三
二七	眞妻	三八六	一、七六一
二八	高城	三六九	一、七二八
二九	藤田	三四九	一、六七二
三〇	川中	三五八	一、六三四
三一	野口	二八〇	一、四八〇
三二	岩代	三一七	一、四五九
三三	三尾	三九二	一、四一八
三四	早蘇	二三七	一、一七〇
三五	中山路	二六二	一、一三三
三六	西内原	二三〇	一、一三一
三七	淸川	二五九	一、〇六六
	計	二〇、七〇三	九八、七七五
	平均	五五九	二、六六九
	西牟婁郡		
一	田邊	五、一〇一	二三、九一六
二	串本	一、六七六	七、七二一
三	周參見	九二〇	四、四一四
四	日置	八九七	三、八九八
五	潮岬	六五九	三、一六五
六	栗栖川	七〇七	三、一五四
七	下芳養	六五〇	三、〇七七
八	和深	六二四	二、七五四
九	江住	六一一	二、六一六
一〇	東富田	五一〇	二、三九五
一一	三川	四六八	二、三八七
一二	富里	四七八	二、三一一
一三	上秋津	四四八	二、二七五
一四	瀬戸鉛山	五〇五	二、二三四
一五	川添	四三五	二、二一五
一六	朝來	四六九	二、一五五
一七	三栖	四四四	二、〇八九
一八	鮎川	四二八	二、〇五四
一九	岩田	四三三	二、〇四七
二〇	三舞	四一三	二、〇三三
二一	新庄	四一三	一、九一三
二二	田並	四八八	一、九〇二
二三	二川	三九六	一、八五九
二四	上芳養	三九〇	一、七九一
二五	長野	四〇八	一、七四六
二六	西富田	三〇九	一、四九八
二七	佐本	二七二	一、三七三
二八	秋津川	二七四	一、三一九
二九	生馬	二五四	一、二六五
三〇	近野	二八〇	一、二五四
三一	有田	二八六	一、二五三
三二	北富田	三五二	一、二五三
三三	稲成	二四三	一、二四二
三四	市ノ瀬	二七〇	一、二一四
三五	南富田	二六七	一、一九五
三六	中芳養	二五六	一、一八四
三七	大都河	二三〇	一、一三三
三八	下秋津	二〇三	一、〇二三
三九	万呂	二〇〇	九六六
	計	二二、五五四	一〇五、二六二
	平均	五七八	二、六九九
	東牟婁郡		
一	新宮	五、九九二	二五、一七九
二	勝浦	一、〇八〇	四、八七九
三	那智	九六〇	四、三九三
四	太地	八八三	三、八六二
五	三輪崎	九〇〇	三、七八八
六	下里	八二五	三、六一七
七	三里	八〇五	三、五八一
八	古座	七五七	三、五〇八
九	西向	七〇四	三、四六四
一〇	七川	六一二	二、九八〇
一一	大島	六〇二	二、八八一
一二	高池	五〇一	二、三七九
一三	四	四九二	二、二三二
一四	色川	四四八	二、二三二
一五	請川	四四七	一、九四〇
一六	宇久井	四五九	一、九三五
一七	上太田	四〇一	一、九三四
一八	田原	四三一	一、七九三
一九	三尾川	三六二	一、七七九
二〇	北山	四〇八	一、七五一
二一	小口	三三一	一、五九六
二二	敷屋	三〇九	一、五五三
二三	明神	三一三	一、五二五
二四	高田	二六八	一、四五一
二五	三津ノ	二八八	一、三七七
二六	九重	二三二	一、一八三
二七	小川	二一〇	一、〇六七
二八	本宮	二一九	九五八
二九	下太田	一九八	九四九
三〇	玉置口	六一	三〇〇
	計	二〇、四六八	九二、〇六七
	平均	六八二	三、〇六九
	合計	一五一、一九七	七二三、三〇四
	平均	六七二	三、一七〇

附記 調査施行後本表中海草郡宮前村、和歌浦町、中之島村、岡町村、雑賀崎村、四ヶ郷村及鳴神村ハ和歌山市ヘ合併シ又東牟婁郡新宮町及三輪崎町ハ合併シテ新宮市ガ設置サレ海草郡日方町、黒江町、内海町、大野村合併シテ海南市ガ實現シ東牟婁郡那智ハ那智町トナレリ


本縣人口ノ自然增加
出生
死亡
自然增加
3
2
1万人
0
大正 8 9 10 11 12 13 14 昭和 1 2 3 4 5 6 7 8
郡市別人口 昭和九年十月一日現在
15
10
5千
0人
和歌山
新宮
海南
海草
那賀
伊都
有田
日高
西牟婁
東牟婁

四十年間の人口增加趨勢

本縣の現住人口を今から四十年間の明治二十六年と比較して見ると二十四萬三千八百餘人の增加となつて居る左表は其の增加の趨勢を明かにする爲に五年毎に其の數を示したのである。

年次	男	女	計	備考
明治二十六年	?	?	六三一、二六九	市町村長調査
同 三十一年	?	?	六七一、四三五	
同 三十六年	三四六、七六七	三五〇、九一一	六九六、七七八	
同 四十一年	三五八、八八二	三六三、九三七	七三二、八一九	
大正 二年	三八一、五五三	三八五、三八六	七六六、九三九	
同 七年	三九一、九八六	四〇〇、三二〇	七九二、三〇六	
大正 十二年	三八三、一〇〇	三八八、九〇〇	七七二、〇〇〇	內閣統計局發表推計人口
昭和 三年	四〇四、九〇〇	四〇六、一〇〇	八一一、〇〇〇	
同 八年	四二八、五〇〇	四二七、八〇〇	八五六、三〇〇	
同 九年	四三三、二〇〇	四三二、九〇〇	八六五、一〇〇	

道府縣別人口と其の密度比較

昭和九年十月一日現在を以て內閣統計局が推計したる內地の總人口は六千八百十九萬四千九百人で昭和五年の國勢調査人口六千四百四十四萬七千七百二十四人に比較すると三百七十四萬七千二百人、一ヶ年平均九十三萬六千八百人、我が和歌山縣の人口よりも尙七萬二千人も多い人口が增加したことになつて居る。

次に人口の數に依り順位を調べて見ると我が和歌山縣は三十三番目となつて居る。

一道三府四十三縣の人口の密度は一方粁に就て百七十八人餘となり北海道を除くと二百二十二人となつて我が和歌山縣は北海道を除いた平均數に比較すると著しく人口稀薄な地となつて居る

順位	道府縣名	人口	道府縣名	一方粁當り人口
一	東京	六、一四二、一〇〇	東京	二、八六三・七
二	大阪	三、九二二、八〇〇	大阪	二、一六二・四
三	北海道	三、〇六一、六〇〇	神奈川	七五六・七
四	兵庫	二、七九八、六〇〇	福岡	五四七・九
五	愛知	二、七六四、四〇〇	愛知	五四四・一
六	福岡	二、七〇六、三〇〇	香川	四〇八・一
七	新潟	一、九九九、七〇〇	埼玉	三九七・三
八	靜岡	一、八九八、四〇〇	京都	三六一・二
九	長野	一、七八七、〇〇〇	兵庫	三三六・三
一〇	神奈川	一、七八〇、八〇〇	長崎	三一六・一

順位	道府縣名	人口	道府縣名	一方粁當り人口
一一	廣島	一、七五一、三〇〇	千葉	三〇〇・五
一二	京都	一、六六九、二〇〇	佐賀	二八五・二
一三	鹿兒島	一、六二三、八〇〇	茨城	二五四・三
一四	福島	一、五六四、二〇〇	沖繩	二四八・六
一五	茨城	一、五四九、二〇〇	靜岡	二四四・三
一六	千葉	一、五二六、四〇〇	愛媛	二〇八・〇
一七	埼玉	一、五一〇、八〇〇	廣島	二〇七・六
一八	熊本	一、四〇〇、〇〇〇	三重	二〇七・六
一九	岡山	一、三一〇、一〇〇	群馬	一九五・六
二〇	長崎	一、二八八、五〇〇	山口	一九二・一
二一	群馬	一、二三九、五〇〇	富山	一八八・五
二二	宮城	一、二一一、二〇〇	熊本	一八八・二
二三	岐阜	一、二〇四、八〇〇	岡山	一八七・三
二四	三重	一、一九六、九〇〇	栃木	一八三・七
二五	栃木	一、一八二、五〇〇	和歌山	一八三・二
二六	愛媛	一、一七八、五〇〇	石川	一八一・四
二七	山口	一、一六八、三〇〇	鹿兒島	一七八・四
二八	山形	一、一三一、九〇〇	德島	一七八・一
二九	岩手	一、〇三五、二〇〇	滋賀	一七六・五
三〇	秋田	一、〇二八、五〇〇	宮城	一六七・九

三一	大分	九七〇、一〇〇
三二	青森	九二三、一〇〇
三三	和歌山	八八五、一〇〇
三三	宮崎	八一五、六〇〇
三四	富山	八〇二、六〇〇
三五	石川	七六一、六〇〇
三六	香川	七五八、六〇〇
三七	島根	七五三、一〇〇
三八	高知	七四二、五〇〇
三九	徳島	七三七、八〇〇
四〇		
四一	滋賀	七一四、八〇〇
四二	佐賀	六九六、九〇〇
四三	山梨	六五五、二〇〇
四四	福井	六三四、二〇〇
四五	奈良	六〇六、一〇〇
四六	沖縄	五九三、三〇〇
四七	鳥取	五〇二、八〇〇
平均	全國	六八、一九四、九〇〇
		一、四五〇、九五五

一四	新潟	一六四・三
一五	福井	一五九・〇
一六	大分	一五七・八
一七	山梨	一五三・二
一八	鳥取	一四六・七
一九	山形	一四四・一
二〇	長野	一三一・一
二一	岐阜	一二〇・三
二二	島根	一一五・八
二三		一一三・八
二四	福島	一一三・五
二五	宮崎	一〇五・四
二六	高知	一〇四・五
二七	青森	九六・九
二八	秋田	八八・二
二九	岩手	六七・九
三〇	北海道	三四・五
三一		一
		一七八・四

全國的に見たる本縣市の人口

全國(內地)の市の數は現在百二十二を數へて居るが昭和九年十月一日現在を以て內閣統計局の推計による全國都市の人口を調べて見ると我が和歌山市は全市中十六番目に位し十萬以上の大都市三十四の中に列し新宮市は第百二十四位で昭和九年五月一日誕生したる海南市は百十七位である。

順位	市名	人口
一	東京	五、六六二、九〇〇
二	大阪	二、七二二、七〇〇
三	京都	一、〇五二、五〇〇
四	名古屋(愛知)	一、〇一七、七〇〇
五	神戸(兵庫)	八五三、八〇〇
六	横濱(神奈川)	七〇三、九〇〇
七	廣島	二九五、七〇〇
八	福岡	二八二、九〇〇
九	函館(北海道)	二三三、七〇〇
一〇	長崎	二一七、〇〇〇
一一	仙台(宮城)	二一六、九〇〇
一二	吳(廣島)	二〇七、一〇〇
一三	八幡(福岡)	二〇〇、五〇〇
一四	札幌(北海道)	一九三、二〇〇
一五	靜岡	一八九、四〇〇
一六	熊本	一八六、〇〇〇
一七	鹿兒島	一七六、九〇〇
一八	和歌山	一七一、四〇〇
一九	金澤(石川)	一六五、二〇〇
二〇	岡山	一六〇、五〇〇
二一	須賀(神奈川)	一六〇、二〇〇
二二	橫橋(愛知)	一五四、八〇〇
二三	豐橋(北海道)	一五三、二〇〇
二四	小樽	一五〇、九〇〇
二五	佐世保(長崎)	一三九、二〇〇
二六	川崎(神奈川)	一三七、九〇〇
	新潟	

八六	八五	四三	二一〇九八七
足利府	別宮	一津	沼島
和		和	賀
利府	宮津	島	賀
栃木	大分	霧島	霧島
栃木	分	知	岡
栃木	分	知	岡
四七、五〇〇	四七、五〇〇	四八、五〇〇	四八、五〇〇
四七、五〇〇	四七、五〇〇	四八、五〇〇	四八、五〇〇

七六	七五	四三	二一〇九八七
四奈	宇治	高日	八王
宇治	山田	高市	郡良
高山	岡子	八王	郡田
高山	岡子	八王	郡田
四七、五〇〇	四七、五〇〇	四八、五〇〇	四八、五〇〇
四七、五〇〇	四七、五〇〇	四八、五〇〇	四八、五〇〇

八六	八五	四三	二一〇九八七
八郡	八郡	八郡	八郡
八郡	八郡	八郡	八郡
四七、五〇〇	四七、五〇〇	四八、五〇〇	四八、五〇〇
四七、五〇〇	四七、五〇〇	四八、五〇〇	四八、五〇〇

七六	七五	四三	二一〇九八七
六六	六五	四三	二一〇九八七
九八	九八	九八	九八
九八	九八	九八	九八
四七、五〇〇	四七、五〇〇	四八、五〇〇	四八、五〇〇
四七、五〇〇	四七、五〇〇	四八、五〇〇	四八、五〇〇

七六	七五	四三	二一〇九八七
七六	七五	四三	二一〇九八七
九八	九八	九八	九八
九八	九八	九八	九八
四七、五〇〇	四七、五〇〇	四八、五〇〇	四八、五〇〇
四七、五〇〇	四七、五〇〇	四八、五〇〇	四八、五〇〇

四四	四四	四三	二一〇九八七
六五	四三	二一〇九八七	
本野	長野	松長	都留
本野	長野	松長	都留
七九	七九	八六	八六
七九	七九	八六	八六
四七、五〇〇	四七、五〇〇	四八、五〇〇	四八、五〇〇
四七、五〇〇	四七、五〇〇	四八、五〇〇	四八、五〇〇

六五	六五	六六	六六
六五	六五	六六	六六
六六	六六	六六	六六
六六	六六	六六	六六
四七、五〇〇	四七、五〇〇	四八、五〇〇	四八、五〇〇
四七、五〇〇	四七、五〇〇	四八、五〇〇	四八、五〇〇

四四	四四	四三	二一〇九八七
六五	四三	二一〇九八七	
秋田	秋田	秋田	秋田
秋田	秋田	秋田	秋田
六六	六六	六六	六六
六六	六六	六六	六六
四七、五〇〇	四七、五〇〇	四八、五〇〇	四八、五〇〇
四七、五〇〇	四七、五〇〇	四八、五〇〇	四八、五〇〇

四四	四四	四三	二一〇九八七
六五	四三	二一〇九八七	
前橋	前橋	前橋	前橋
前橋	前橋	前橋	前橋
九九	九九	九九	九九
九九	九九	九九	九九
四七、五〇〇	四七、五〇〇	四八、五〇〇	四八、五〇〇
四七、五〇〇	四七、五〇〇	四八、五〇〇	四八、五〇〇

五五	五五	五五	五五
五五	五五	五五	五五
一〇一	一〇一	一〇一	一〇一
一〇一	一〇一	一〇一	一〇一
四七、五〇〇	四七、五〇〇	四八、五〇〇	四八、五〇〇
四七、五〇〇	四七、五〇〇	四八、五〇〇	四八、五〇〇

四四	四四	四三	二一〇九八七
六五	四三	二一〇九八七	
桐生	桐生	桐生	桐生
桐生	桐生	桐生	桐生
一二	一二	一二	一二
一二	一二	一二	一二
四七、五〇〇	四七、五〇〇	四八、五〇〇	四八、五〇〇
四七、五〇〇	四七、五〇〇	四八、五〇〇	四八、五〇〇

一〇七	直方（福岡）	三五、八〇〇	一一八 萩田（山口）
一〇八	延岡（宮崎）	三五、八〇〇	一一九 高新（新潟）
一〇九	松坂（三重）	三五、〇〇〇	一二〇 尾道（廣島）
一一〇	平塚（神奈川）	三四、九〇〇	一二一 唐津（佐賀）
一一一	石巻（宮城）	三四、八〇〇	一二二 中津（大分）
一一二	帶廣（北海道）	三四、四〇〇	一二三 新宮（和歌山）
一一三	山口	三三、五〇〇	一二四 丸亀（香川）
一一四	三條（新潟）	三三、四〇〇	一二五 首里（沖縄）
一一五	酒田（山形）	三三、二〇〇	合計
一一六	倉敷（岡山）	三一、九〇〇	平均
一一七	海南（和歌山）	三一、三〇〇	

人口動態

昭和八年

本縣の人口の動態は概して逐年生産率增、死亡率減の傾向を示してゐる。今昭和八年中の現住人口の動態を調べて見ると

（婚姻）　冠婚葬祭の内でも人生を通じて特に重大なものは結婚であるだけに擧式に隨分冗費をつかつてゐるが最近經濟更生の實行要目の一方法として結婚式の簡易化が叫ばれてゐるその婚姻は六千四百四十七組毎日十八組宛行はれてゐる。

（離婚）　一度偕老同穴の契を結んだ以上夫婦は一身同體となつて相互に助け合つてゆかねば

ならないのに悲しい破婚のうき目を見たものが五百七十六組あり、離縁の涙を流した悲劇が毎日約二組は必ず縣下の何處かで起つてゐる。

（出生）　八年中に孤々の聲を上げた者が男一萬二千九百五十二人、女一萬二千二百十三人合計二萬五千六十五人に達し毎日六十九人宛生れたことになつて居る。

（死亡）　八年中の死亡者は男七千六百三人、女六千九百五十一人、合計一萬四千五百五十四人を算へ毎日平均四十人の死亡者を出した勘定となつてゐる。死は人生悲痛の極であり萬人皆辿るべき運命ながら死して護國の鬼となり名を後世に殘した者や先立つ不幸の罪を詫びながら玉の緒を斷つた者又は藥石効なく永き眠りに就いたものなど死亡原因が多種多岐に亘つてゐることだらう。

（自然增加）　出生死亡の差增即ち人口の自然增加は一萬五百十一人で人口千に付き十二人二となつてゐる。

社寺概況

皇祖發祥の地である我が和歌山縣は由緒の著しい神社が多く官幣社が八社（全國中第五位）に達して居る。縣社以下の神社は明治三十九年以降數年に亘つて政府の方針に基き大整理を斷行したので今

では全國中でも數の少い方となつて居る然しながら社殿の廣大にして尊嚴なものは數限りなく存在する。次に寺院は天下の靈場として有名な眞言宗の總本山高野山が在る關係で眞言宗が最も多く淨土宗眞宗等の數も亦少くはないが明治初年の頃に較べると各宗派とも漸次其數を減じて居る

神社

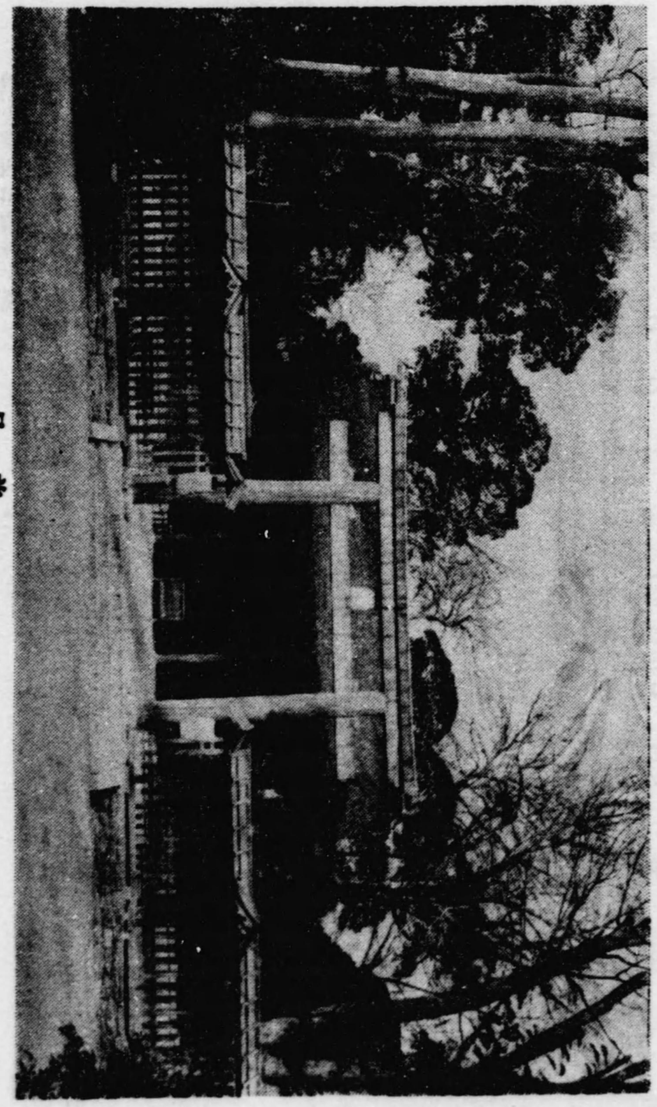
昭和九年十二月現在

種別	和歌山	新宮	海南	海草	那賀	伊都	有田	日高	西牟婁	東牟婁	計
官幣大社	二	一	—	一	—	一	—	—	—	—	六
官幣中社	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
縣社	二	—	—	二	二	一	—	—	—	一	九
鄉社	—	—	二	二	二	三	二	三	二	一	一七
村社	一六	四	三	四七	五〇	四八	二二	四二	五二	五二	三三六
無格社	五	—	—	一三	一一	九	—	—	一二	一八	六八
計	二五	五	五	六六	六五	六二	二五	四五	六七	七三	四三八

寺院

昭和九年十二月現在

宗派名	和歌山	新宮	海南	海草	那賀	伊都	有田	日高	西牟婁	東牟婁	計
天臺宗	六	—	—	一	一一	二五	—	三	四	—	三五三



田邊鄉 風 社

古義眞言宗　七　二　一五　二三九　二六　四七　一三九八
眞言宗醍醐派　五一　—　—　—　—　五　二　一三
眞言宗東寺派　—　—　—　—　一四　—　—　一四
眞言宗山階派　七　—　一七　六一　三三　一二　一　—　一三二
新義眞言智山派　一　—　二　二八　—　—　—　—　三一
新義眞言豐山派　一　—　二　二二　—　一　—　—　二六
眞言律宗　—　—　—　—　二　—　—　—　—
淨土宗鎭西派　一九　三　七四九　三〇　四四　五九　九　二　二二二
淨土宗西山光明寺派一七　—　七〇　—　三九　三〇　四　—　一六〇
臨濟宗妙心寺派　七　五　二六　一　—　五　一二　六八　八五　一九一
臨濟宗東福寺派　—　—　—　—　—　—　—　一七　四　一一
曹洞宗　一二　四　—　七　—　—　—　一六　三七　七六
黃蘗宗　一　—　一三　—　—　—　—　—　—　五
眞宗本願寺派　四四　三　五九一　二六　一二　四八　五四　七　二　二九二
淨土宗西山禪林寺派一　—　—　—　—　—　—　—　—　—　二

眞宗大谷派	七	一	一	三	一	四	二	一	一	一	一八
眞宗高田派	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
眞宗興正派	一	一	一	二	一	一	一	一	一	一	三
日蓮宗	一六	一	一	四	七	一	一	一	一	一	三〇
本門宗	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
法華宗	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
時宗	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	二
計	一五五	二〇	一八	二七	三二一	二九〇	一八一	一六五	一二五	一三六	一、六八四

佛堂

昭和九年十二月現在

種別	和歌山	新宮	海草	海南	那賀	伊都	有田	日高	西牟婁	東牟婁	計
佛堂	二四	一	九〇	七	三〇〇	一三九	一〇七	一九九	六二	二九	九五七

神佛道教會所

昭和九年十二月現在

天理教	三一四	眞宗願本寺派	四	實行教	一	三	一	一	一	一	一
眞言宗醍醐派	二〇	大社教	四	神習教	一	一	一	一	一	一	一

金光教	一八	御嶽教	五	神道	一						
古義眞言宗	一九	神理教	三	天臺宗寺門派	一						
日蓮宗	一〇	淨土宗	三	本門佛立教	一						
臨濟派妙心寺派	七	神道修成派	二								
扶桑教	五	曹洞宗	二	計	四二六						
天臺宗	四	德行教	一								

神佛堂以外の宗教

昭和九年十二月現在

基督教	日本基督教會	六	〃 日本聖公會	六	〃 東洋宣教會 一
〃	天主公教會	一	〃 救世軍	一	
〃	ハリストス正教會	一	〃 自由メンヂスト教會	一	計 一七

史蹟名勝天然記念物

昭和九年十二月現在

種別	和歌山	新宮	海南	海草	那賀	伊都	有田	日高	西牟婁	東牟婁	計
縣指定 史蹟	九	五	二	一一	七	一四	一一	五	一〇	一五	九九
縣指定 名勝	二	—	—	—	二	—	—	—	五	三	一二
縣指定 天然記念物	九	五	二	一三	三六	二二	一一	一八	二四	一四	一五四
計	二〇	一〇	四	二四	四五	三六	二二	三三	三九	三二	二六五

	和歌山	新宮	海南	海草	那賀	伊都	有田	日高	西牟婁	東牟婁	計
國ノ指定 史蹟	一	—	—	二	二	—	一	一	—	—	七
國ノ指定 天然記念物	一	—	—	—	—	—	—	—	—	五	六
國ノ指定 名勝	—	—	—	—	—	—	—	—	一	一	二
計	二	—	—	二	二	—	一	一	一	六	一五

國寶

昭和九年十二月現在

種別	和歌山	新宮	海南	海草	那賀	伊都	有田	日高	西牟婁	東牟婁	計
寶物類	一六	兲	—	八	四	一四一	一二三	一一	—	三	二六二
建造物	三	—	—	九	二	六	七	二	—	一	三〇

教育

概況

昭和八年度の事實に依ると學齡兒童は男八萬三千四百四十四人、女八萬三百五十九人、合計十六萬三千八百三人で就學歩合は就學始期に達したもの百人中平均九九・五三といふ成績を舉げてゐる。

小學校は三百六十二校、分教場九十八校、學級數は三千四十八學級、一校平均八學級餘の勘定となつて居る。次に小學校教員の總數は三千三百四人で前年に比較して四十三人増加し一學級に對して正教員の割合〇・九九の割合となり兒童は十四萬三千四百三十五人で前年度に比して三千六百六十四人を増加してゐる。

小學校の外に官立高等商業學校一校、私立大學一校、師範學校二校、實業補習學校教員養成所一校、中學校十校、高等女學校十三校あつて實業學校は舊甲種程度のもの農業二校、林業一校、商業六校、工業一校、其他四校舊乙種程度のもの各種實業學校二校、盲啞學校一校、實業補習學校三百三十校其他各種學校六校がある。

種類及郡市別學校數

昭和九年三月現在

	和歌山	新宮	海草	那賀	伊都	有田	日高	西牟婁	東牟婁	計
私立大學	—	—	—	—	一	—	—	—	—	一
官立高等商業學校	一	—	—	—	—	—	—	—	—	一
師範學校	一	—	一	—	—	—	—	—	—	二
實業補習學校教員養成所	—	—	—	一	—	—	—	—	—	一

中學校	縣立	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一
	私立										
高等女學校	縣立	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
	市町村立	二									
	私立	一									
實業學校	縣立	二	一		一	一	一	一	一	一	一
	市町村立	一									
盲啞學校	縣立	一									
小學校	市町村立	二六	四	三五	三八	四六	三二	五七	七五	四九	三六二
實業補習學校	縣立	一									
	市町村立	一〇	二	三五	三八	四六	三二	五九	六八	三九	三二九
各種學校	私立	五									六

幼稚園	市町村立	五								四	二二
	私立	四	一	一		一	一		三	二	一三

昭和八年度決算

教育費

縣、市、町、村の昭和八年度に於ける教育費總額は五百二十二萬二百一圓で前年度より十六萬九千八百八十四圓の增額となつて居る而して總額の人口一人當りは六圓三錢となり一戶當りとしては二十九圓四十二錢となつて居る尙其の分類を示すと左の通りである。

縣費	百五十八萬五百十八圓
市費	七十六萬六千六百八十二圓
町村費	二百八十七萬三千一圓

教育費經常費生徒一人當

昭和八年度決算

學校種別	經常費生徒一人當
師範學校	二八九・六六円
中學校 縣立	七二・八三
中學校 私立	一三二・三八
高等女學校 縣立	五一・三九
高等女學校 市町村立	五六・四六
高等女學校 私立	五四・九三

實業學校	縣立	九二・三八円
	市町村立	六〇・四〇
實業補習學校	縣立	一三・五八
	市町村立	一〇・六六

兒童就學の狀況

就學歩合				
明治三十一年	男	七九・三三	小學校	一九・一円
	女	四八・六六	盲啞學校（縣立）	一三〇・九〇
同 三十六年	男	九六・二九	幼稚園	一二・三二
	女	八六・八七		
同 四十一年	男	九九・二六		
	女	九八・〇七		
大正 二年	男	九九・二六		
	女	九八・五六		
大正 七年	男	九九・一〇		
	女	九一・五四		
同 十二年	男	九八・九七		
	女	九九・三八		
昭和 三年	男	九九・五五		
	女	九九・五二		
同 八年	男	九九・五七		
	女	九九・四八		

中等學校生徒志願の狀況

昭和九年三月現在

不就學兒童（昭和九年三月現在）	男	女	計
疾病	二四一人	二七六人	五一七人
貧困	四三	五五	九八
其他	二八	二九	五七
計	三一三	三六〇	六七二

入學志願者	四四一人	一、三八四人	一、一七三人	七〇三人	八六七人	九四八人	六四・五七	七四・〇二	六八・〇二
入學生徒	二一〇	一、二三五	一、〇八二	五五五	六四六	七七九	六四・五一	七〇・二二	六二・二七

中等學校入學歩合累年比較

	師範學校（本科）	縣立中學校	縣立高等女學校	市町村立私立高等女學校	縣立實業學校	市町村立實業學校	師範學校	縣立中學校	縣立高等女學校	市町村立私立高等女學校	縣立實業學校	市町村立實業學校
大正十三年	三〇・四一	六四・五七	六八・〇二	六九・三九	六五・四一	八四・六一	六四・五七	六八・〇二	六九・三九	六五・四一	八四・六一
同 十四年	三四・三三	七四・〇二	六二・二七	七〇・三三	六一・一七	八六・〇六	三四・三三	七四・〇二	六二・二七	七〇・三三	六一・一七
昭和元年	二九・一三	六六・六八	六二・二九	六六・六六	六九・八三	八八・五三	二九・一三	六六・六八	六二・二九	六六・六六	六九・八三
同 二年	一九・八二	七四・八七	六五・八三	六七・八五	六四・二七	九二・九六	一九・八二	七四・八七	六五・八三	六七・八五	六四・二七
同 三年	一八・四八	七七・四八	五八・二四	七三・一四	七一・七三	八八・五六	一八・四八	七七・四八	五八・二四	七三・一四	七一・七三
同 四年	二三・〇七	八八・五二	八一・八五	八二・八五	七二・五〇	八六・三三	二三・〇七	八八・五二	八一・八五	八二・八五	七二・五〇
同 五年	一八・八三	九一・二一	八四・九五	七八・八九	六七・七九	九一・八五	一八・八三	九一・二一	八四・九五	七八・八九	六七・七九
同 六年	二一・三六	八二・六七	八五・七六	九二・五七	七八・〇三	九一・九七	二一・三六	八二・六七	八五・七六	九二・五七	七八・〇三
閏 七年	二七・二五	八九・〇四	九三・五三	七二・八三	八〇・〇〇	九一・五三	二七・二五	八九・〇四	九三・五三	七二・八三	八〇・〇〇
同 八年	二四・九四	八二・〇一	八五・〇〇	七八・九五	七四・五一	八二・一七	二四・九四	八二・〇一	八五・〇〇	七八・九五	七四・五一

學級數と學生生徒兒童數　昭和九年三月現在

學校種別	學級數	學生生徒兒童數
高野山大學	一	一〇五
同　大學豫科	四	二四
官立高等商業學校	一	四六七
縣立師範學校	二	四七一
中學校　縣立	一〇九	四、六八四
中學校　私立	一〇	三〇五
高等女學校　縣立市町村立	七七	三、八二一
高等女學校　私立	二六	一、一八二
實業補習學校教員養成所	一〇	四三六
實業學校　縣立市町村立	五八	一、九六七
實業學校　私立	五一	二、〇八四
盲啞學校　縣立	一六	一四五
小學校　尋常高等	二、五四九	一三三、二七五
小學校　私立	四九九	三二、一六〇
實業補習學校　縣立市町村立	四	一三〇
實業補習學校　私立	七一〇	一八、二四五
幼稚園　市町村立	三七	一、六〇九
幼稚園　私立	三〇	一、〇六八
各種學校　私立	一三	三五九

小學校教員資格別（其ノ一）　昭和九年三月現在

種別	和歌山	新宮	海草	那賀	伊都	有田	日高	西牟婁	東牟婁	計
小學校本科正教員　男	二六四	五七	一七	二五四	二二一	二八四	三九一	四二	一八七	二九〇
小學校本科正教員　女	一三四	二五四	九八	二五四	四三	二八	三九	九四	四三	二九〇
尋常小學校正教員　男	一八	二五	二三	二四	二四八	一八	一四五	一三	一一	一〇〇
尋常小學校正教員　女	二	二	二	二	一	一	一	一	一	一
專科正教員　男	二五	二	二九	二三	二四	一四	一九	一二	一四	一九
專科正教員　女	二	二	三	二	一	一	二	一	一	一
准教員　男					一	一	一	一	一	一
准教員　女										
代用教員　男	一〇五	五三	八四	一〇七	一〇五	五五	一四	一五	一〇	一〇
代用教員　女										
計　男	二九〇	二九三	二八〇	二三七	二五一	二二六	三一一	三八九	二三七	二、三二六
計　女	六九	二九	一〇七	一四九	一〇〇	九六	一〇九	一四六	九三	九七八
教員百人ニ付　有資格	人 九六・七二	人 九二・一六	人 九七・一四	人 九五・三五	人 九〇・六〇	人 九一・〇三	人 九〇・九三	人 八一・七四	人 八六・九七	人 九一・二二
教員百人ニ付　無資格	人 三・二八	人 七・八四	人 二・八六	人 四・六五	人 九・四〇	人 八・九七	人 九・〇七	人 八・二六	人 一三・〇三	人 八・七八

小學校教員資格別（其ノ二）　昭和九年三月現在

郡市別	有資格	無資格	教員百人ニ付　有資格	教員百人ニ付　無資格
和歌山	四四三人	一五人	人 九六・七二	人 三・二八
新宮	九四	八	人 九二・一六	人 七・八四
海草	四〇七	三	人 九七・一四	人 二・八六
那賀	三六九	一八	人 九五・三五	人 四・六五
伊都	三一八	三三	人 九〇・六〇	人 九・四〇
有田	二八四人	二八人	人 九一・〇三	人 八・九七
日高	三九一	三九	人 九〇・九三	人 九・〇七
西牟婁	四二	九四	人 八一・七四	人 八・二六
東牟婁	一八七	四三	人 八六・九七	人 一三・〇三
計	三〇一四	二九〇	人 九一・二二	人 八・七八

小學校教員男女ノ割合

昭和九年三月現在

郡市別	教員 男	教員 女	教員百人ニ付 男	教員百人ニ付 女
	人	人	人	人
和歌山	二九〇	一六八	六三・三二	三六・六八
新宮	六九	三三	六七・六五	三二・三五
海草	二九三	一二六	六九・九三	三〇・〇七
那賀	二八〇	一〇七	七二・三五	二七・六五
伊都	二五一	一〇〇	七一・五一	二八・四九

補習教育ノ概況

昭和九年三月現在

縣下の實業補習教育は近時著しく發達して昭和九年三月現在では實業補習學校の數は市町村二百十八に對し三百三十九校を數ふるに至つた。

今これを學科に依つて區別すると

農業	二六二	水産業	四
商、工業	四	工業	一
農、水産業	一七	商、水産業	六
商業	九	農、商業	一六
		農、商、工業	二
		農、商、水産業	三
		家政	六

となり生徒の數は前期男千四百五十九人、女千四百七十三人、計二千九百三十二人、後期男六千

二百三十三人、女四千三百三十五人、計一萬五百六十八人、研究科男四千七十九人、女七百八十六人、計四千八百六十五人、合計男一萬一千七百七十一人、女六千五百九十四人、總計一萬八千三百六十五人に達して居る。

教員の數は專任教員二百三十七人、兼任教員千四百四十七人で內有資格者は全體の八割八分を占めてゐる。次に經費(八年度)の點を調べて見ると教員俸給手當總額は十六萬五千三百五十二圓其他の經費が三萬九百八十圓、合計十九萬六千三百三十二圓となり一校當りとすると五百九十四圓九十五錢、生徒一人當りとすると十圓六十九錢で全國的に比較すると尙未だ劣つてゐる。

青年訓練の現況

昭和九年三月現在

青年訓練所數は縣下市町村數二百十八に對し三百三を有し未設置の市町村は一つもない之を細別すると市立二十七、町村立二百七十六となり青年訓練を受くるもの、數、市は千七百四十三人町村は八千五百四十人、合計一萬二百八十三人に達し職員數は二千四十二人、內主事三百三人、學校教員の指導員千五十五人、在鄕軍人の指導員六百五十人其の他の指導員三十四人となつて居る。職員に支給する手當總額は五萬二百二十六圓で一人平均二十四圓十一錢餘其の他の經費は四萬五千百二十九圓で經費總額九萬五千三百六十五圓となり一校當り經費三百十四圓七十三錢、生徒一人當り九圓八錢となる。私立の青年訓練所は五箇所で何れも工場に設置して居る職員は主事が五人あるも財界不振の爲目下休止の狀態に至つてゐる。

圖書館設置の狀況

昭和九年三月現在

縣下に設立せらるゝ公私立の圖書館と文庫を調査して見ると總數僅かに二十二に過ぎない之れを設立者別にすると縣立一、町村立十七、學校附設三、私設團體立一となつて居る其の內藏書册數三千册以上又は經費五百圓以上のものは縣立圖書館、御坊町立圖書館、田邊町立圖書館、湯淺町立圖書館、新宮中學校附屬圖書館の五館に過ぎない。次に昭和八年度の圖書館の經費を調べて見ると經費總額一萬二千五百七十三圓で尙昭和八年三月現在の藏書册數七萬九千三百六十四册閲覽延人員十一萬七千三百五十九人、一日平均三百二十二人となつて居る尙縣立圖書册館の藏書數は四萬六百七册で閲覽一日平均延人員は百五十七人、經費總額は一萬八十圓である。

和歌山高等商業學校

昭和九年

市內高松にある本縣唯一の官立專門學校で大正十二年四月開校以來既に九回、延一千二百六十四人の卒業者を出し現に四百六十七人の學生を收容してゐる。昭和九年の生徒入學志願者狀況は百五十人の募集人員に對し千四百九十五人即ち十倍弱と云ふ多數に上つて居る尙志願者の地方別を調べて見ると大阪の三百六十五人、兵庫二百十五人、本縣の百六十七人に次いで京都、三重、奈良、愛知、岡山、靜岡、岐阜、長野、廣島を初め殆ど全國より集つてゐる。

社會事業

縣下の一般社會事業に對する施設は大要左の通である。

1 救護法に依る救護

昭和七年一月一日から實施の救護法により救護せらるゝ被救護者は近時不況の深刻化に伴ひ漸次增加の傾向を示し昭和八年度中の救護狀況は生活扶助を受くるもの二千二百十四人、醫療費を受くるもの百五十六人、助產を受くるもの七人、生業扶助を受くるもの四人、埋葬費を給せるもの九十七人で尙之を細別すれば六十五歲以上の老衰者八百六十五人、十三歲以下の幼者九百二十八人、姙產婦一一人、不具癈疾百八十四人、疾病傷痍の者二百八十八人、精神耗弱又は身體虛弱の者九十五人、幼者哺育の母六人、計二千三百七十七人であつて救護費用の總額は七萬二千四百十三圓である又有田學園及和歌山市佛敎各宗協同會養老院及孤兒院、新宮社會々館は救護法に依る救護施となつて居る。

2 軍事救護

大正七年施行の軍事救護法は昭和七年一月一日より改正し救護範圍擴張せられ現に救護を受く

るもの百九十七戸三百九十四人で支給額は一日五十九圓五十二錢、此一ヶ年總額二萬一千七百二十四圓八十錢である。

3 少年教護教育

昭和九年十月施行の少年救護法により不良少年に對し少年救護教育を施す縣立仙溪學園では現在收容人員二十五人、昭和九年度經費は五千九百一圓である。

4 行旅病人並行旅死亡人の救護

明治三十二年施行の行旅病人及行旅死亡人取扱法により昭和八年度中に救護したる人員病人三十二人、死亡九十三人で其の救護費用は千七百六十三圓八十九錢である。

5 精神病者監護

明治三十三年施行の精神病者監護法に基き監護義務者を缺く病者に對する昭和九年四月現在監護人員五十二人、一日の給與額は一人平均九十四錢餘である。

6 住宅組合

大正十年施行の住宅組合法により互助組織による中産以下の者に住宅の所有權を得せしめるもの

で現在組合數十九、組合員三百七人で出資總額は五十七萬九千九百七十圓である。

7 方面委員

時世の趨向に鑑み大正十五年五月縣訓令甲第一二號を以て所謂方面制度を制定し爾來市町村に奬勵したる結果現在では三市百二ヶ町村六百八十八人に達してゐるまた救護法實施とともに救護委員として重大な責務を有するに至つた。

8 融和事業

同胞融和の目的を以て大正十三年三月和歌山縣同和會を創立し會員三千八百九十三人に達し同會昭和九年度豫算九千七百八十五圓にして右本會の他に青年融和團體として眞生同朋團あり團員千二百八十五人更に婦人融和團體として光の朋團あり現在團員千四百一人である亦最近特に兒童融和教育運動の進展に伴ひ縣下各地に十四の融和教育研究會が組織せられ會員數千五百二十一人を算して居る。外縣下數ヶ地區を經濟更生指導地區として指定し專ら内部の經濟並に精神更生の實を擧げつゝある

9 移殖民事業

移植民事業に就ては本縣は夙に先進の歴史を有し和歌山縣海外移住組合、和歌山縣海外協會の

設立と相俟つて海外移住の奬勵斡旋に勉めてゐる更に北海道移住に就ても相當の成績を擧げてゐるのである。尙本縣移民奬勵規程により南米ブラジル移住者に對し鄉里より神戸に至る乘車船賃及荷物運賃を支給してゐるが年額二千圓を要する見込である。更に本縣海外協會に就ても南洋移民等に對し旅費補給を開始した。

10 敎化事業

現下の社會情勢に鑑み一層敎化施設の擴張を期することの緊切なるを認め各市町村に恒久的敎化機關たる市町村敎化委員會を設置すると共に社會敎育委員會の設置と相俟つて縣下敎化網の完成を圖りつゝあり。尙各種社會事業の團體は左の通りである。

救療施設

施設種目	經營主體	所在地	施設種目	經營主體	所在地
救療施設（和歌山市診療所）	恩賜財團濟生會	和歌山市車坂西ノ丁	同	和歌山縣醫師會	同雜賀屋町
同（新宮診療所）	同	新宮市	同（無料診料）	岸上村	伊、岸上村
同	日本赤十字和歌山支部	和、市小松原通四丁目			

恤救施設

窮民救助、軍人救護、行旅病人取扱	國	縣社會課、各警察署各市町村役場	軍事遺家族救護	愛國婦人會和歌山支部	同
精神病者監護		各警察署	養老施設孤兒養育	有田學園	有、藤並村
簡易救濟	縣		同	和歌山市佛敎各宗協同會	和、寺町
人事相談	同	同			
海員救濟	海員救濟會	和、眞砂町			

少年敎護保護施設

少年敎護	縣（仙溪學園）	和、塩屋	同	精華會	西、田邊町
釋放者保護	縣聯合保護會	和歌山刑務所內	同	各郡市佛敎各宗協同會	各郡市
同	財團法人端正會	和、黑田	同	紀南聖恩會	新宮市

兒童保護

姙産婦並産兒保護	日本赤十字和歌山支部	和、眞砂町	兒童保健相談所	愛國婦人會和歌山支部	同

幼兒預り所（五）　和歌山市

同	南部町佛教會第二葉園	和、餌差町、新堺町、男之芝丁、宇治、吉田日、南部町	
同	新宮市	新宮市	
同	三輪崎幼兒預所	同	
同	下熊野地託兒園	同	
農繁託兒所	個人	和、關戸、有家、秋月、太田、黑田、打越、鳴神、和歌浦、松島、新田、新中島、杭ノ瀬海、川永村	
永穗農繁保育所	個人	同	紀伊村
佛光山託兒所	同	那、王子村	
王子小學校附設農繁託兒所	王子村		
赤海農繁託兒所	個人	同南野上村	
中之才農繁保育園	同	同　田中村	
安樂川幼兒保育園	神田女子青年會	同安樂川村	
下佐々農繁託兒所	個人	同東野上町	
學文路第二保育園	學文路第二小學校	伊、學文路村	
同朋農繁期託兒所	同明婦人會	同　戀野村	
端場村保育園	端場村婦人會	同　端場村	
笠田保育園	笠田町婦人會	同　笠田町	
隅田第一農繁託兒所	隅田第一小學校	同　隅田村	
原田農繁期託兒所	個人	同　橋本町	

箕島町保育園	箕島町	有、箕島町	
阿彌陀寺託兒所	個人	同　藤並村	
高家農繁期託兒所	同	日、西內原村	
川中村農繁期託兒所	川中村婦人會	同　川中村	
光明寺託兒所	個人	同　岩代村	
寒川第二託兒所	寒川村	同　寒川村	
西富田農繁期託兒所	西富田小學校	西、西富田村	
五原農繁期託兒所	三川第二小學校	同　三川村	
長野村農繁期託兒所	長野村	同　長野村	
市ノ瀨愛兒園	市ノ瀨村	同市ノ瀨村	
公設產婆	岸上村	伊、岸上村	
同	端場村婦人會	同　端場村	
同	海南市	海南市	

一般福利施設

公設市場　五　和歌山市　和、橋向町、北新二丁目、杉ノ馬場二丁目、湊七丁目、吹上曲り、洲崎町

簡易食堂四	同	和、杉ノ馬場二丁目、北新五丁目、橋向丁、鈴丸橋	
葬儀取扱	同	和歌山市役所	

共同浴場	狩宿村	那、狩宿村	同
同	岸上村	伊、岸上村	同
同	日報社	西、東富田村	公益質屋
同	財團法人自彊社	和、岡町	同
同	組合組織	伊、應其村	同
同	同	同 笠田町	同
同	同	有、湯淺町	同
職業紹介所	和歌山市	和歌山市	同
同	新宮市	新宮市	同
同	粉河町	那、粉河町	同
同	箕島町	有、箕島町	同
同	串本町	西、串本町	同
同	川上村	日、川上村	同
同	川中村	同 川中村	同

同	船着村	日、船着村	同
同	北山村	東、北山村	公益質屋
公益質屋	市營丸ノ内質屋	和歌山市	同
同	内海町公園質屋	海南市	同
同	串本町公益金融所	西、串本町	同
同	川上村公益質屋	日、川上村	同
同	七川村公益質屋	東、七川村	同
同	本宮公益質屋	同 本宮村	同
同	粉河町公益質屋	那、粉河町	同
同	黒江町公益質屋	海南市	同
同	勝浦町公益質舗	東、勝浦町	同
同	箕島町公益質屋	有、箕島町	同
同	二川村庶民金融所	西、二川村	同

同	清川村公益金融所	日、清川村	同
同	猿川村公益質屋	同 猿川村	同
同	五西月村公益質屋	有、五西月村	同
同	川中村同	日、川中村	同
同	川添村同	西、川添村	同

同	長野村公益質屋	西、長野村	同
同	下山路村同	日、下山路村	同
同	橋本町公益金融所	伊、橋本町	同
同	長谷毛原村同	那、長谷毛原村	同
同	湯淺町公益質屋	有、湯淺町	同

兵事概況

昭和九年度の縣内に於ける壯丁受驗成績を調べて見ると受驗者總數八千六百八十三人で甲種合格者は三割四分、第一乙種合格者は一割、第二乙種合格者は二割五厘、國民兵並に兵役免除となれるもの三割五分一厘となり之を郡市別に見ると國民兵並に兵役免除となるものゝ割合は左の通りで伊都郡が最も不良の體格を有するものが多い。

伊都郡	〇・四三一	那賀郡	〇・三四八	新宮市	〇・三二八
海南市	〇・四一八	西牟婁郡	〇・三四〇	有田郡	〇・二九一
和歌山市	〇・三六五	海草郡	〇・三三八		
日高郡	〇・三五〇	東牟婁郡	〇・三二四	平均	〇・三五一

次に海軍志願兵の狀況を調べて見ると志願者總數八百十九人內合格者百三十三人で志願者總數の一割六分二厘に當り志願者の最も多いのは海草で次は那賀、和歌山、東牟婁、日高、西牟婁、有田、伊都の順となつてゐる。

受驗壯丁成績

昭和九年度

種別	和歌山	新宮	海南	海草	那賀	伊都	有田	日高	西牟婁	東牟婁	計
受檢總數	一、二四九	二三八	二三二	一、〇五一	一、二一六	九〇五	九二四	一、〇一〇	一、一八七	六六一	八、六八三
甲種	三九一	八三	五五	三三六	四四三	二三六	三六七	三六五	四二八	二四五	二、九四九
第一乙種	一一三	二五	二七	一〇六	一三八	九四	一〇八	一〇五	一三四	五八	九〇七
第二乙種	二九〇	五二	五三	二五四	二二二	一八五	一八〇	一九三	二一一	一三七	一、七七七
丙種	四〇〇	七〇	七五	三一五	三六六	二三四	二三六	三〇三	三一四	一八三	二、六〇六
丁種	五三	七	二一	三六	五六	五三	二九	五一	七九	三七	四二二
戊種	三	一	一	四	一	一	六	三	一	一	二二

受驗壯丁職業別成績

昭和九年度

種別											
農業	水産業	鑛業	工業	商業	交通業	公務自由業	其他	計			
總數	二、二六八	二九六	一六	二、六八三	一、八四六	四五四	四四四	六七六	八、六八三		
甲種	八九三	一三二	六	八五〇	五八〇	二一一	九九	一七八	二、九四九		
第一乙種	二三六	三四	一	二四六	二一一	五六	六〇	六三	九〇七		
第二乙種	四三五	四九	四	五二六	四一三	八七	一一三	一五一	一、七七七		
丙種	六〇七	六六	四	九〇一	五六四	八九	一五五	二三〇	二、六〇六		
丁種	九〇	一三	一	一五五	七七	一〇	一五	六一	四二二		
戊種	六	二	—	五	二	一	二	四	二二		

海軍志願兵

昭和九年度

種別	和歌山	新宮	海草	那賀	伊都	有田	日高	西牟婁	東牟婁	計
志願數者總	一〇五	一五	七四	八二	三四	三八	六八	七〇	三七	五二三
受檢者	九四	一五	七〇	七四	三〇	三六	六四	六六	三七	四八六
合格者	一六	七	一三	一八	九	九	一四	一五	一三	一一三
不合格者	七八	八	五七	五六	二一	二七	五〇	五一	二五	三七三
採用者	九	三	八	三	八五	七	九	五	六六	

内訳	水兵	三	二	六	五	四
	機關兵	四	一	一	六	三
	其他	二	—	—	—	—

産業

生産總額比較

生産總額の調べは原料價格を控除して計算することが頗る困難な爲重複計算せられたものが尠くない就中工産に於て夫れが甚だしい然しながら現在他に調査の途がないので全國的に大同小異の方法に依つて調べて居る。

昭和八年中の生産總額は二億一千三百八萬四千九百八十九圓で前年の生産總額に對比して見ると三千七百三十九萬六千六百三十二圓歩合にして二割一分の增加となつて居る。しかしながら最好氣時代の大正八年の生産總額二億九千六百三十一萬六千四百九十五圓に較べては二割八分さい減少を示して居る。尙種類別に前年に比較すればいづれも左の通り增加してゐる。

農産	五、八二六、六三九円	（二割一分）	
畜産	一〇七、一九二	（七　分）	
林産	二、三六四、〇五四	（二割二分）	
鑛産	二八九、五五三円	（三　割）	
水産	九八三、一四二	（一割八分）	
工産	二七、八三四、〇五二	（二割二分）	

昭和八年の生産額は全般的に增加を見つゝあり、このうち增加の著しいものは本縣重要物産たる綿糸の一千四百七十萬圓餘を筆頭に綿織物の五百五十八萬圓餘、染物二百四十萬圓餘、繭百九十五萬圓、米の百七十六萬圓餘等である。

減少せるものは蠶糸の百九十九萬圓のみで結局に於いて前記の如き著しき增加を示したのである。

次に昭和八年中の生産額を分類別に歩合で表はして見ると左の成績を表はして居る。

工産	七割三分四厘	水産	三分
農産	一割六分	畜産	八厘
林産	六分二厘	鑛産	六厘

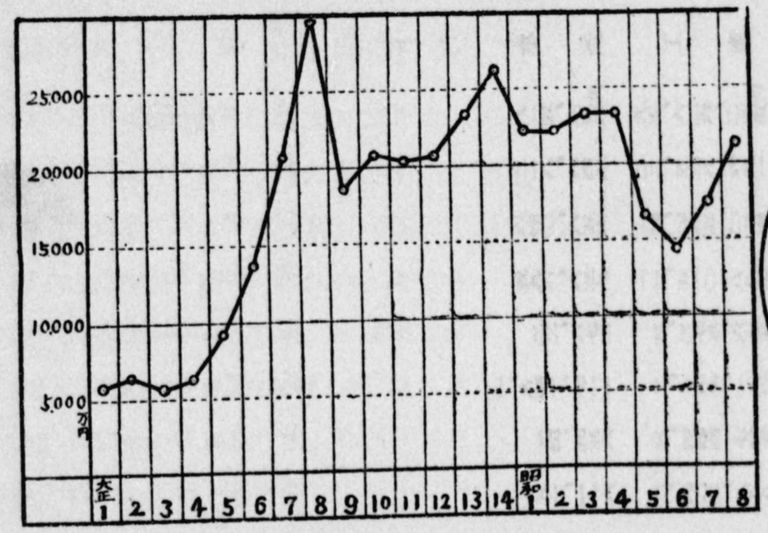
尙更に昭和八年の生産總額を二十年前の明治四十一年と對比して見ると一億六千八百四十六萬圓增即ち約五倍近き發展振りを示して居る。

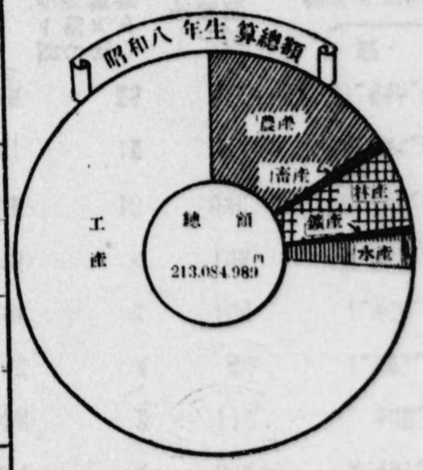
生産總額累年比較

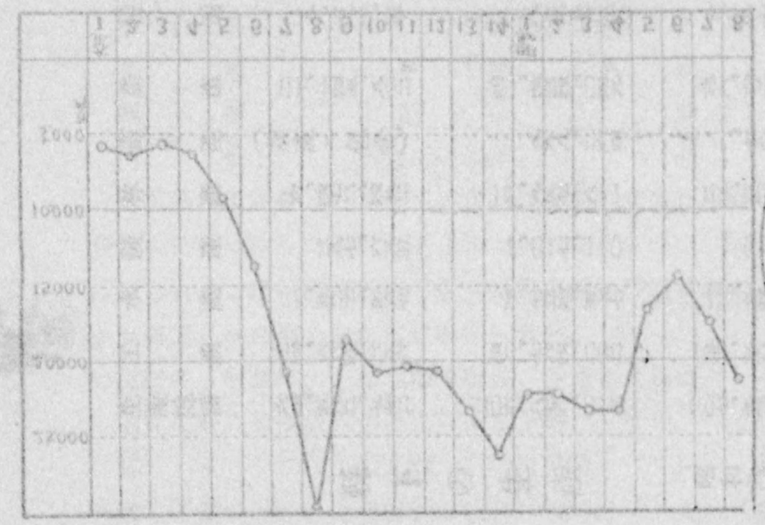
種別	農産	畜産（農産ニ包含）	林産	鑛産	水産	工産	生産總額
大正二年	二、一四五、八〇二円		六、四七二、四八二	三八七、六三五	一、九三一、六六七	三四、六六四、二六六	六四、五九二、七七二
大正七年	四〇、四三四、〇四九円	九六八、二六四	二六、九五七、八二一	一、〇一七、一一〇	四、七三四、五七七	一四二、七六四、二〇二	二〇六、八七六、〇一三
大正十二年	三八、六二一、〇二二円	一、七六四、九一八	三一、六〇八、六八二	六一〇、〇〇八	一三、九四七、七〇〇	一三〇、三六五、八四〇	二〇七、九三八、二六九
昭和三年	三九、八九七、九四二円	二、一八四、二九五	三五、七三一、六〇二	一、六〇六、六〇六	一〇、二四七、二四五	一六三、三九〇、五八九	二二三、〇五九、二七九
昭和八年	三四、〇五八、一〇五円	一、七三四、八二三	二五、三五、三三	一、二四一、一一一	六、三〇、七五〇	一五六、三四、八七七	二二三、〇八四、九九九

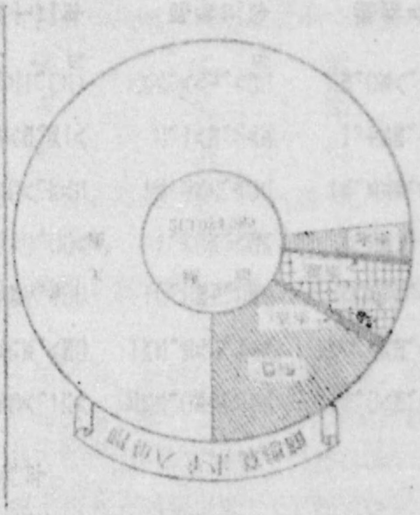
縣下の生産

昭和八年中の縣下の生産額を種類別に比較して見ると左の通りである。









水産	工産	百分對比ス	生産總額ル	一人當産額	前年ニ比シ増減(△印減) 価額	歩合
八、五六五円	九五、六六六、〇九五円	四七	五九四円	三一、九七七、九三三円	〇・四七	
二二八、九四五	二二、三六八、六三五	一四	二四六	△八、三五八、六六〇	〇・二二	
六四〇、六五六	一四、〇二三、一四六	10	二五六	三、三六六、二五六	〇・二二	
五九六、六五九	二一、三一〇、八六二	八	一七四	三、四七三、一三四	〇・二四	
二二、六七三	三、三七六、八六七	六	二九一	一、五八六、七七六	〇・一四	
一、八四一、二二六	二、一九九、一八六	五	九二	一、六四一、五五八	〇・二〇	
一四、九三五	三、四四四、七五〇	四	二二三	七二四、〇二二	〇・〇九	
一五一、二二六	二、九二二、八五六	三	二〇三	五、九七一、二四六	—	
二、〇二八、一四八	二八五、八二一	三	九〇	△三、〇一四、七四二	〇・三四	
六、三〇〇、七五〇	一五六、三六四、一五一	100	二四九	三七、三九六、六三二	〇・二二	

順位	郡市	生産總額	農産	畜産	林産	鑛産	水産	工産	百分對比ス總額	一人當生産額	前年ニ比シ增減（△印減） 價額	歩合
一	和歌山	100,123,740円	1,142,065円	261,895円	1,270,000円	409,000円	185,665円	956,265,065円	四七	五四円	三,479,923円	0.47
二	海草	30,504,095	586,992,185	1,256,555	1,365,185	1,185,555	1,365,555	1,365,185	一四	二四六	△2,585,265	0.32
三	有田	23,709,123	531,129,251	270,480	365,251	1,365,555	1,365,555	1,365,185	10	二五六	3,255,123	0.23
四	日高	16,365,065	464,321,261	164,925	1,365,251	365,785	365,565	1,365,185	人	一四	3,425,124	0.24
五	那賀	23,470,040	265,470,430	1,241,321	365,041	365,785	365,565	1,365,185	六	二九	1,365,265	0.14
六	西牟婁	9,740,435	325,261	1,291,365	2,041,065	925,185	1,241,125	2,265,165	五	九三	1,241,265	0.10
七	伊都	9,124,043	425,211	2,192,124	1,041,025	925,185	1,241,125	2,265,165	四	一三	2,012,125	0.09
八	新宮	5,921,234	325,430	2,192,124	1,365,025	1,365,185	1,241,125	2,265,165	三	二四	5,125,124	—
九	東牟婁	5,365,265	1,234,125	1,041,025	1,365,025	365,185	2,041,125	2,265,165	三	九〇	△3,125,124	0.35
合計		234,025,995	3,425,105	1,365,185	1,365,185	1,234,125	365,025	1,365,185	100	二四九	32,365,234	0.23

順位	町村名	生産額
	海草郡	
一	内海	八、〇三〇、三七六円
二	野崎	四、三四〇、〇三四
三	黒江	九、九七〇、〇五四
四	湊	二、八五三、八四〇
五	紀三井寺	一、〇七六、二四三
六	安原	八六四、六三五
七	龜川	六七〇、〇九一
八	濱中	六七〇、〇六一
九	貴志	六二八、四九七
一〇	西山	六〇五、一八二
一一	大崎	五八九、一〇八
一二	加太	四二七、九一三
一三	三田	四一一、二五四
一四	日方	三九二、八八九
一五	大野	三八八、一一〇
一六	和佐	三七五、三二一
一七	加茂	三四八、〇〇六
一八	東伊	二九九、五四四
一九	紀山	二七五、三二一
二〇	巽	二三一、九一〇
二一	楠	二二五、三五二
二二	川永	二一四、六五四
二三	椒見	二〇七、七七一
二四	岡	二〇五、一一一
二五	山崎	二〇三、三四六
二六	西口	二〇〇、二二四
二七	和佐	一九九、六二四
二八	仁義	一九八、五七八
二九	木本	一九六、五四九
三〇	松江	一九五、三五二
三一	有功	一四六、七七一
三二	西川野	一〇七、一一一
三三	直津	二六、三四六
三四	塩	二〇、五一一
計		三〇、五一一、二六一
平均		九一二、七六五
	那賀郡	
一	岩出	九六四、〇一四
二	粉河	八九三、〇五六
三	龍門	一、二五九、五四四
四	山崎	六九〇、二一一
五	田	六八三、二九八
六	麻生津	五七七、二七三
七	池	五二一、六七四
八	小倉	四九〇、八九六
九	東野	四七七、四九九
一〇	上名手	四六七、四九九
一一	中野上	四〇一、〇〇〇
一二	川原	三九六、四五四
一三	安樂川	三九四、六八一
一四	北野上	三六三、一三九
一五	岩出	三五三、〇九八
一六	中貴志	三四一、三五五
一七	長田	二九六、八七七
一八	西貴	二八二、七一二
一九	奥安樂川	二六九、三六六
二〇	丸栖	二五七、八七七
二一	下神野來	一八五、九七五
二二	根神野	一七一、九八六
二三	上神野	一六〇、四六七

順位	町村名	生産額
	伊都郡	
一	高野口	二四一、三五五円
二	妙寺	二二五、三五三
三	笠田	二一〇、三三三
四	見好	二〇九、三三三
五	志賀野	二〇八、三三三
六	狩宿	二〇七、三三三
計		二〇六、三三三
平均		九一二、三五五
一	東長谷毛原	一五八、三五六円
二	貴志	一五四、八九七
三	調月	一五一、五五九
四	輌淵	一五〇、〇一〇
五	名手	一四二、七五九
六	小川	一三〇、一七六
七	南野上	一二八、八〇五
八	王子	一二七、〇六一
九	猿川	一〇二、九七三
一〇	眞國	九六、一五三
一一	九鹿山	九五〇、四二四
一二	慶其	九四〇、一一〇
一三	橋本	九三〇、五〇〇
一四	學文路	九二〇、四六七
一五	山田	九一〇、三六二
一六	隅谷	九〇〇、〇九四
一七	大紀伊見	八九〇、三八三
一八	紀見	八八〇、八〇一
一九	高野	八七〇、二二四
二〇	四郷	八六〇、〇八六
二一	富安田	八五〇、一四一
二二	河内	八四〇、二二五
二三	懸川	八三〇、一九七
二四	信太	八二〇、一九七
二五	富貴	八一〇、一六七
二六	端野	八〇〇、一五七
二七	天王寺	七九〇、一五六
二八	花園	七八〇、一四六
二九	河根	七七〇、一四五
三〇	端野	七六〇、一三五
三一	岸上	七五〇、一三四
計		七四〇、一三三
平均		七一一、三三三
	有田郡	
一	箕島	一〇〇、一二一
二	廣田	九九、一一〇
三	湯浅	九八、一〇九
四	保田	九七、一〇八
五	田栖川	九六、一〇七
六	田殿原	九五、一〇六
七	宮城	九四、一〇五
八	鳥屋並	九三、一〇四
九	藤	九二、一〇三
一〇	岩	九一、一〇二
一一	糸我	九〇、一〇一
一二	津木	八九、一〇〇
一三	石垣	八八、九九
一四	生石	八七、九八
一五	御靈	八六、九七
一六	五月	八五、九六
一七	八西幡	八四、九五
一八	南廣	八三、九四
一九	安諦	八二、九三

順位	町村名	生産額
	日高郡	
一	御坊	一二三、三七三円
二	松原	九〇、四五一
三	由良	八〇、四五〇
四	湯川	二〇八、〇〇二
五	南部	一〇〇、〇〇七
六	藤田	六、三三七、七一四
七	上名田	一、九五九、四五九
八	南部	一、八七八、一一九
九	丹生	一、〇九四、四三三
一〇	印南	六九四、四三〇
一一	塩屋	六四三、一四五
一二	矢田	六四一、七八四
一三	眞着	六四〇、一九一
一四	船妻	三三一、九一四
一五	切目川	三三〇、八三〇
一六	東内原	三三〇、九三〇
一七	野口	三二一、三一八
一八	志賀	三〇一、九八四
一九	切目	二九一、三五一
二〇	白崎	二九〇、二二五
二一	川上	二八二、二〇二
二二	山路	二七一、二〇一
二三	上路	二七〇、一六二
二四	下川	二六一、一四一
二五	比井	二五一、一二一
二六	山中	二四一、一〇一
二七	崎	二三一、九〇一
二八	西内原	二二一、八四一
二九	衣奈	二一一、八二一
三〇	和田	二〇一、八〇一
三一	岩代	一九一、七八一
三二	眞妻	一八一、七六一
三三	早蘇	一七一、七四一
三四	寒川	一六一、七二一
三五	高城	一五一、七〇一
三六	清川	一四一、六八一
三七	龍神	一三一、六六一
計		一二一、六四一
平均		八一一、三三三
	西牟婁郡	
一	田邊	五四、〇六七
二	串本	五一、〇三〇
三	芳養	四八、〇〇八
四	下庄	四四、〇〇八
五	新置	四二、〇〇七
六	日	三九、〇〇七
七	中山路尾	三七、八七七
八	三	三五、七七七
九	朝來	三三、七〇〇
一〇	潮岬	三一、六〇〇
一一	富里	二九、五八〇
一二	上津	二七、五七〇
一三	稲成	二五、五五〇
一四	秋見	二三、四五〇
一五	周參	二一、四四〇
一六	長野	一九、四四〇
一七	三栖	一七、四三〇
一八	岩添	一五、四二〇

順位	町村名	生産額
	東牟婁郡	
一	勝浦	一、〇七七、〇六七円
二	太地	三九三、九一一
三	西向	三七七、〇六五
四	下里	二、七五七、〇三〇
五	高池	二、五五〇、一九四
六	古座	二、五四一、一一〇
七	那智	二、四六五、七九九
八	大島	二、四四六、四七九
九	字久井	二、三六二、〇六二
一〇	七里	二、三五二、〇九四
一一	三輪崎	二、三四〇、三七一
一二	北山	二、三三〇、二八三
一三	小川	二、三二〇、八〇一
一四	田原川	二、二一〇、二二四
一五	三尾	一、九九〇、五七四
一六	三津ノ川	一、九八〇、五六四
一七	色川	一、九七〇、五〇六
一八	高田	一、九六〇、四八三
一九	上太田川	一、九五〇、一七九
二〇	九重玉置口	一、九四〇、一〇六
二一	明神	一、九三〇、七六四
二二	小口	一、九二〇、七〇一
二三	四	一、九一〇、三八八
二四	敷屋	一、九〇〇、七〇一
二五	請川	七五、〇四四
二六	下太田	七四、〇四〇
二七	本宮	七三、〇三〇
計		七二、〇二〇
平均		六一一、九九九

肥料生産額ハ町村別不明ニ付本表中ニ含マズ

生産額の本縣地位

昭和七年

順位	總數	人口一人ニ付生産額	農産	畜産	繭糸	畜産	林産	鉱
一	東京 一、二八六、四五七千円	兵庫 三四五円	新潟 八〇、二〇九千円	長野 一、〇五七千円	長野 一、〇五七千円	東京 一、〇六二千円	秋田 一、四三四千円	北海道 一、〇五七千円
二	愛知 二七五円	愛知 二七五円	福岡 七七、二三一千円	愛知 一、〇〇九千円	群馬 五〇、九六七千円	愛知 一、〇〇九千円	新潟 一、〇〇九千円	秋田 一、〇〇九千円
三	大阪 二二〇円	大阪 二二〇円	兵庫 七四、九〇四千円	兵庫 七四、〇〇四千円	山梨 三五、一三七千円	兵庫 七四、〇〇四千円	兵庫 七四、〇〇四千円	新潟 七四、〇〇四千円
四	福岡 四六、三八三千円	福岡 四六、三八三千円	愛知 四六、三八三千円	福岡 四六、三八三千円	福島 三八、〇九〇千円	福岡 四六、三八三千円	福岡 四六、三八三千円	福岡 四六、三八三千円
五	福島 三七、九三四千円	福島 三七、九三四千円	福島 三七、九三四千円	福島 三七、九三四千円	福岡 三七、〇〇七千円	福島 三七、九三四千円	福島 三七、九三四千円	福島 三七、九三四千円
六	兵庫 三〇、〇九三千円	兵庫 三〇、〇九三千円	長野 三〇、〇九三千円	長野 三〇、〇九三千円	兵庫 二八、〇〇七千円	長野 三〇、〇九三千円	長野 三〇、〇九三千円	長野 三〇、〇九三千円
七	神奈川 二七、四二二千円	神奈川 二七、四二二千円	神奈川 二七、四二二千円	神奈川 二七、四二二千円	神奈川 二六、二六六千円	神奈川 二七、四二二千円	神奈川 二七、四二二千円	神奈川 二七、四二二千円
八	北海道 二六、六六六千円	北海道 二六、六六六千円	北海道 二六、六六六千円	北海道 二六、六六六千円	北海道 二六、六六六千円	北海道 二六、六六六千円	北海道 二六、六六六千円	北海道 二六、六六六千円
九	京都 二二、二二七千円	京都 二二、二二七千円	京都 二二、二二七千円	京都 二二、二二七千円	京都 二二、二二七千円	京都 二二、二二七千円	京都 二二、二二七千円	京都 二二、二二七千円
一〇	静岡 二〇、二〇八千円	静岡 二〇、二〇八千円	静岡 二〇、二〇八千円	静岡 二〇、二〇八千円	静岡 二〇、二〇八千円	静岡 二〇、二〇八千円	静岡 二〇、二〇八千円	静岡 二〇、二〇八千円
一一	廣島 一九、六六九千円	廣島 一九、六六九千円	廣島 一九、六六九千円	廣島 一九、六六九千円	廣島 一九、六六九千円	廣島 一九、六六九千円	廣島 一九、六六九千円	廣島 一九、六六九千円
一二	新潟 一八、一〇五千円	新潟 一八、一〇五千円	新潟 一八、一〇五千円	新潟 一八、一〇五千円	新潟 一八、一〇五千円	新潟 一八、一〇五千円	新潟 一八、一〇五千円	新潟 一八、一〇五千円
一三	岡山 一七、九七九千円	岡山 一七、九七九千円	岡山 一七、九七九千円	岡山 一七、九七九千円	岡山 一七、九七九千円	岡山 一七、九七九千円	岡山 一七、九七九千円	岡山 一七、九七九千円
一四	群馬 一七、〇一〇千円	群馬 一七、〇一〇千円	群馬 一七、〇一〇千円	群馬 一七、〇一〇千円	群馬 一七、〇一〇千円	群馬 一七、〇一〇千円	群馬 一七、〇一〇千円	群馬 一七、〇一〇千円
一五	三重 一七、〇一〇千円	三重 一七、〇一〇千円	三重 一七、〇一〇千円	三重 一七、〇一〇千円	三重 一七、〇一〇千円	三重 一七、〇一〇千円	三重 一七、〇一〇千円	三重 一七、〇一〇千円
一六	山口 一六、八八九千円	山口 一六、八八九千円	山口 一六、八八九千円	山口 一六、八八九千円	山口 一六、八八九千円	山口 一六、八八九千円	山口 一六、八八九千円	山口 一六、八八九千円
一七	栃木 一六、〇九一千円	栃木 一六、〇九一千円	栃木 一六、〇九一千円	栃木 一六、〇九一千円	栃木 一六、〇九一千円	栃木 一六、〇九一千円	栃木 一六、〇九一千円	栃木 一六、〇九一千円
一八	和歌山 一五、一〇五千円	和歌山 一五、一〇五千円	和歌山 一五、一〇五千円	和歌山 一五、一〇五千円	和歌山 一五、一〇五千円	和歌山 一五、一〇五千円	和歌山 一五、一〇五千円	和歌山 一五、一〇五千円
一九	愛媛 一五、八八八千円	愛媛 一五、八八八千円	愛媛 一五、八八八千円	愛媛 一五、八八八千円	愛媛 一五、八八八千円	愛媛 一五、八八八千円	愛媛 一五、八八八千円	愛媛 一五、八八八千円
二〇	栃木 一四、二二七千円	栃木 一四、二二七千円	栃木 一四、二二七千円	栃木 一四、二二七千円	栃木 一四、二二七千円	栃木 一四、二二七千円	栃木 一四、二二七千円	栃木 一四、二二七千円
二一	新潟 一四、〇六二千円	新潟 一四、〇六二千円	新潟 一四、〇六二千円	新潟 一四、〇六二千円	新潟 一四、〇六二千円	新潟 一四、〇六二千円	新潟 一四、〇六二千円	新潟 一四、〇六二千円
二二	岡山 一三、二二二千円	岡山 一三、二二二千円	岡山 一三、二二二千円	岡山 一三、二二二千円	岡山 一三、二二二千円	岡山 一三、二二二千円	岡山 一三、二二二千円	岡山 一三、二二二千円
二三	群馬 一三、〇六二千円	群馬 一三、〇六二千円	群馬 一三、〇六二千円	群馬 一三、〇六二千円	群馬 一三、〇六二千円	群馬 一三、〇六二千円	群馬 一三、〇六二千円	群馬 一三、〇六二千円
二四	三重 一三、〇六二千円	三重 一三、〇六二千円	三重 一三、〇六二千円	三重 一三、〇六二千円	三重 一三、〇六二千円	三重 一三、〇六二千円	三重 一三、〇六二千円	三重 一三、〇六二千円
二五	山口 一三、〇六二千円	山口 一三、〇六二千円	山口 一三、〇六二千円	山口 一三、〇六二千円	山口 一三、〇六二千円	山口 一三、〇六二千円	山口 一三、〇六二千円	山口 一三、〇六二千円
二六	福岡 一二、一二七千円	福岡 一二、一二七千円	福岡 一二、一二七千円	福岡 一二、一二七千円	福岡 一二、一二七千円	福岡 一二、一二七千円	福岡 一二、一二七千円	福岡 一二、一二七千円
二七	静岡 一二、〇八八千円	静岡 一二、〇八八千円	静岡 一二、〇八八千円	静岡 一二、〇八八千円	静岡 一二、〇八八千円	静岡 一二、〇八八千円	静岡 一二、〇八八千円	静岡 一二、〇八八千円
二八	徳島 一一、九六六千円	徳島 一一、九六六千円	徳島 一一、九六六千円	徳島 一一、九六六千円	徳島 一一、九六六千円	徳島 一一、九六六千円	徳島 一一、九六六千円	徳島 一一、九六六千円
二九	茨城 一一、八一一千円	茨城 一一、八一一千円	茨城 一一、八一一千円	茨城 一一、八一一千円	茨城 一一、八一一千円	茨城 一一、八一一千円	茨城 一一、八一一千円	茨城 一一、八一一千円
三〇	千葉 一一、〇五七千円	千葉 一一、〇五七千円	千葉 一一、〇五七千円	千葉 一一、〇五七千円	千葉 一一、〇五七千円	千葉 一一、〇五七千円	千葉 一一、〇五七千円	千葉 一一、〇五七千円
三一	福島 一〇、七九九千円	福島 一〇、七九九千円	福島 一〇、七九九千円	福島 一〇、七九九千円	福島 一〇、七九九千円	福島 一〇、七九九千円	福島 一〇、七九九千円	福島 一〇、七九九千円
三二	宮城 一〇、七八八千円	宮城 一〇、七八八千円	宮城 一〇、七八八千円	宮城 一〇、七八八千円	宮城 一〇、七八八千円	宮城 一〇、七八八千円	宮城 一〇、七八八千円	宮城 一〇、七八八千円
三三	秋田 一〇、六六六千円	秋田 一〇、六六六千円	秋田 一〇、六六六千円	秋田 一〇、六六六千円	秋田 一〇、六六六千円	秋田 一〇、六六六千円	秋田 一〇、六六六千円	秋田 一〇、六六六千円
三四	長崎 一〇、二二五千円	長崎 一〇、二二五千円	長崎 一〇、二二五千円	長崎 一〇、二二五千円	長崎 一〇、二二五千円	長崎 一〇、二二五千円	長崎 一〇、二二五千円	長崎 一〇、二二五千円
三五	熊本 一〇、一一〇千円	熊本 一〇、一一〇千円	熊本 一〇、一一〇千円	熊本 一〇、一一〇千円	熊本 一〇、一一〇千円	熊本 一〇、一一〇千円	熊本 一〇、一一〇千円	熊本 一〇、一一〇千円
三六	大分 一〇、一一〇千円	大分 一〇、一一〇千円	大分 一〇、一一〇千円	大分 一〇、一一〇千円	大分 一〇、一一〇千円	大分 一〇、一一〇千円	大分 一〇、一一〇千円	大分 一〇、一一〇千円
平均	一〇、七九九、九〇一千円	—	一、九六八、七七二千円	一、七七七、二〇九千円	七六八、四九八千円	一、〇〇一、二三五千円	一、二三三、一一〇千円	一、二三三、一一〇千円

本縣地位

昭和七年

縣	農産	蠶糸	畜産	林産	鑛産	水産	工産
山梨	一、九六八、七二二	一、〇三三、〇八〇千円	一、三四三、四三〇千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円
長野	四、九六八、三二九	三、六六〇、〇三〇千円	三、三三三、三三三千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円
岐阜	二、八六二、七四〇	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円
靜岡	三、四四四、四四四	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円
愛知	三、四四四、四四四	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円
三重	三、四四四、四四四	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円
滋賀	三、四四四、四四四	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円
京都	三、四四四、四四四	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円
大阪	三、四四四、四四四	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円
兵庫	三、四四四、四四四	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円
奈良	三、四四四、四四四	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円
和歌山	三、四四四、四四四	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円
鳥取	三、四四四、四四四	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円
島根	三、四四四、四四四	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円
岡山	三、四四四、四四四	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円
廣島	三、四四四、四四四	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円
山口	三、四四四、四四四	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円
徳島	三、四四四、四四四	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円
香川	三、四四四、四四四	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円
愛媛	三、四四四、四四四	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円
高知	三、四四四、四四四	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円
福岡	三、四四四、四四四	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円
佐賀	三、四四四、四四四	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円
長崎	三、四四四、四四四	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円
熊本	三、四四四、四四四	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円
大分	三、四四四、四四四	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円
宮崎	三、四四四、四四四	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円
鹿兒島	三、四四四、四四四	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円
沖縄	三、四四四、四四四	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円	一、一一一、一一一千円

農業概況

本縣は本州の南部に位して太平洋に臨み黒潮の影響を受けて四時氣候溫暖で地味豐壤である。しかも年内の降雨量極めて適度であるから一般農作物の生育頗る佳良で實に農業上天惠の好適地と謂はなければならない然しながら地勢概れ急峻で廣濶なる平野に乏しく至る所山又山と續いて參謀本部が實測した全面積四十七萬六千二百七十六町歩に對し不耕地面積四十二萬六千七百八十一町歩總面積の八割九分六厘を占むるに反し耕地面積は僅かに四萬九千四百九十五町歩卽ち總面積の一割四厘に過ぎない狀態にある從つて米作の如きは已に天然の適地と見るべき所は殆んど開墾し盡されてゐる。畑作に就ては柑橘、除虫菊、ケシ、サツマイモ及早熟蔬菜の栽培は特に盛況を呈し殊に紀勢線の南下に伴れて紀南の山腹に開墾される畑地が多く之等作物の栽培は逐年增加しつゝある。養蠶業は近時蠶糸價の暴落から不振の狀況にあるも尙農家の副業として重要な地位を占めてゐる。

農家戸數と耕地

昭和八年末現在

縣下の農家戸數は八萬四百十二戸内專業が四萬五千七百七十五戸、兼業が三萬四千六百三十七

戸で農家一戸當りの耕地は田三反八畝歩、畑二反三畝歩計六反二畝歩の勘定となつて居る。全國の農家一戸當りの耕地は田五反七畝歩、畑四反九畝歩計一町六畝歩であるから耕地面積の少ない我が和歌山縣は及ばざること遠き感がする。

農家戸數

	自作	小作	自作兼小作	計
和歌山	四六二戸	七二戸	四九七戸	一、六七一戸
新宮	六三	九五	三八一	五三九
海草	四、七六八	三、三六七	四、五八四	一二、七一九
那賀	四、六九七	五、二五八	四、三八六	一四、三四一
伊都	三、八四七	二、三二八	三、五四四	九、七一九
有田	三、七八五	二、〇七三	三、三四九	九、二〇七
日高	二、五九〇	二、四六七	六、〇三一	一二、〇八八
西牟婁	五、〇五七	二、七〇三	四、四八九	一二、二四九
東牟婁	四、四五二	八〇九	二、六一八	七、八七九
計	三〇、七二一	一九、八一二	二九、八七九	八〇、四一二

農家一戸當

	田	畑	計
	五・四反	二・一反	七・五反
和歌山	六・四	三・〇	九・四
新宮	四・〇	二・三	六・三
海草	四・七	二・五	七・二
那賀	三・二	二・八	六・〇
伊都	三・六	三・二	六・八
有田	四・四	一・九	六・三
日高	三・二	二・〇	五・二
西牟婁	二・六	一・五	四・一
東牟婁	三・八	二・三	六・二

農産物

（十萬圓以上）昭和八年

米	一四、九三一、一九二円	除虫菊	四三八、〇二一円	綠肥用作物	一七四、九三七円
柑橘	五、九二六、六七九	柿	三九六、四七二	タマネギ	一六四、九一七
蘭	五、五四七、九四八	梅	二九三、一九九	苗木	一四九、〇一一
麥	二、〇五九、六六二	蠶種	二三〇、一一三	ナス	一一六、〇五〇
大根	七五五、八九六	サトイモ	二三五、八一八	大豆	一一四、〇一八
サツマイモ	六九九、五〇三	ケシ（阿片）	二一五、八六六	其他	一、〇〇四、七〇五
西瓜	四一八、六六〇	ソラ豆	一九五、四三八	計	三四、〇五八、一〇五

米の生産

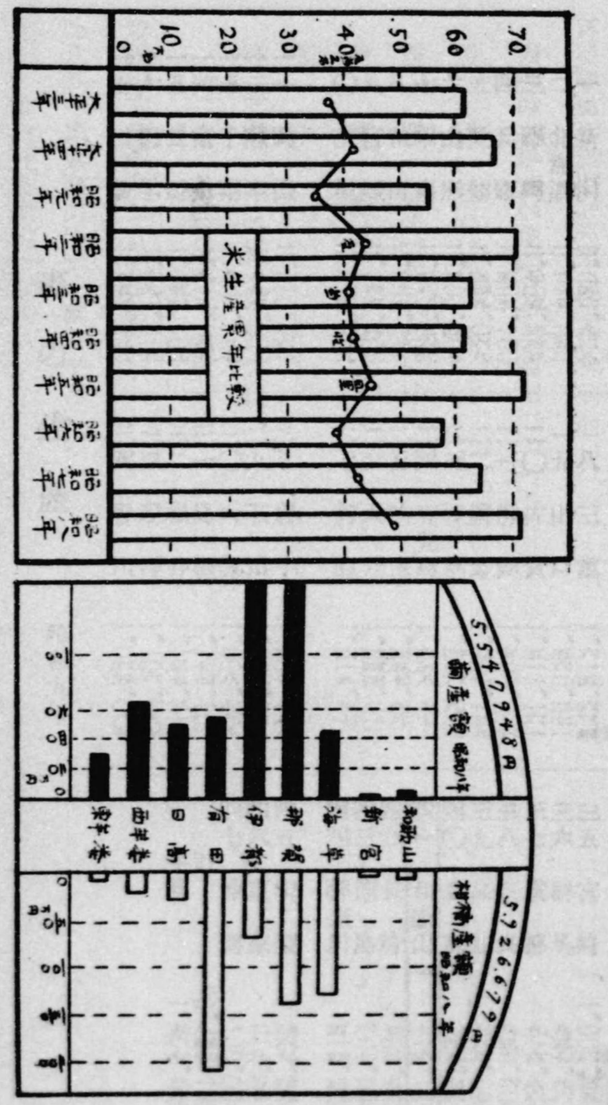
昭和八年

縣下に於ける米の生産は平年作（既往五ケ年平均）の年でも六十三萬八千四十石で所要高は酒造用などを含めて大体八十五、六萬石となり如何に豊作の年でも自給自足は出來ない現狀となつて居る。而して昭和八年の本縣の生産は氣候適順にして發育の經過極めて良好なりしを以て作付反別前年に比し實測及西瓜等の爲め千五百二十町八段歩の減少したるにも不拘前年收穫高に

比し七萬七千四百三十石の增收を見、價額に於ても百七十六萬六千百六十三圓の增加を見るに至つた其の生產額は七十一萬六千百九十八石、價額は千四百九十三萬一千百九十二圓である。尙郡市別は左の通りとなつて居る。

	作付反別	收穫高	價額
和歌山	七、三九二反	三一、九六四石	四六三、九二〇円
新宮	三、二一〇	七、〇五二	一五五、一四四
海草	四六、九三三	一三三、四五九	二、七七一、六二八
那賀	六五、一二五	一七六、一七〇	三、六六六、六〇五
伊都	二九、六三一	七〇、六八六	一、五〇六、五六九
有田	三一、六九三反	七八、九三一石	一、六七四、五三〇円
日高	五〇、七六四	一二六、七三八	二、四一七、五〇五
西牟婁	三六、六二八	八〇、三四六	一、六六三、八〇七
東牟婁	一九、六五八	三〇、八五二	六一三、四八四
計	二九一、〇二三	七一六、一九八	一四、九三一、一九二

尙昭和八年度の生產に付て全國的に眺めて見ると左の通りで前年に比し千四十五萬七千三十六石を增加し既往五ケ年の平均收穫高に比較すると八百二十六萬九千九百八十九石の增加となつて居る。



麥の生産

昭和九年

本縣の麥作付反別は明治二十年頃より年を重ぬる毎に減少する一方であつたが昭和七年以來小

順位	道府縣名	收穫高
一	新潟	四、二五八、九二八石
二	北海道	二、二二七、二五二
三	福岡	二、七〇五、三三五
四	兵庫	二、五二五、一〇〇
五	愛知	二、三四九、〇六九
六	山形	二、三〇〇、四〇七
七	福島	二、二八〇、七六四
八	秋田	二、一三一、九一一
九	宮城	二、〇六五、九〇〇
〇	茨城	二、〇六五、五四九
一	岡山	二、〇一〇、七六一
二	熊本	一、九九五、〇〇二
三	千葉	一、九三二、一九七
四	富山	一、九一五、〇八五
五	長野	一、七五四、六〇九
六	栃木	一、六九一、五一九
七	滋賀	一、六五四、五三八

順位	道府縣名	收穫高
一	三重	一、六一五、六三四石
二	山口	一、五六二、三七一
三	佐賀	一、五一一、一六一
四	靜岡	一、五〇三、〇七六
五	廣島	一、四八六、九六四
六	岐阜	一、四五八、七七七
七	鹿兒島	一、四五七、四九〇
八	埼玉	一、四四四、二二二
九	大分	一、四一九、三七〇
〇	青森	一、三二七、七八八
一	岩手	一、二七五、四四二
二	石川	一、二〇八、七九八
三	大阪	一、一七七、一〇三
四	島根	一、一三七、三一二
五	福井	一、一〇六、六三四
六	愛媛	一、〇六五、〇八五
七	香川	

順位	道府縣名	收穫高
三	宮崎	三、〇〇六、三五七石
三	群馬	二、九三七、九六一
三	京都	二、九一六、八六二
三	奈良	二、八三三、六〇三
三	高知	二、七六六、〇七七
四	鳥取	二、七四九、七三一
四	和歌山	二、七一六、一九八
四	長崎	二、七〇三、五三五
四	德島	二、六二七、〇七九
四	神奈川	二、五一四、三九三
四	山梨	二、四六七、四五八
四	東京	二、二九、五七一
四	沖縄	一、〇〇、〇二八
平均	計	一、五〇七、三八六

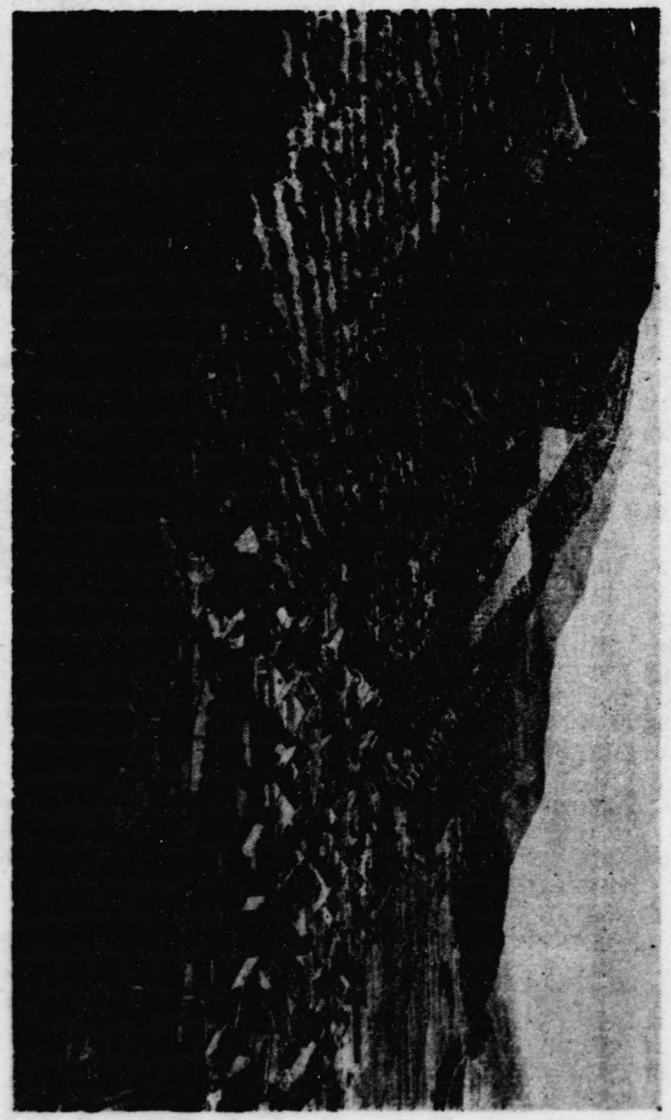
麥の作付奬勵と養蠶界不振の結果とに依り增加を示しつゝありしも昭和九年に於ては前年に比し三百八十一町四反歩の減少を示してゐる。而して作付反別減少せるも氣候適順にして登盛期特に良好なりし爲に收穫高三萬八千二百十五石を增加し價額に於ても比較的高價なる小麥に於て增加せるにもよるが五十三萬八百十圓の增加を示した尙郡市別の生產は左の通りで全國の生產比較は別葉に揭載の通りである。

	作付反別	收穫高	價額
	反	石	円
和歌山	三、一五二	七、八四七	九五、五七七
新宮	六六九	一、三三五	一八、三三五
海南	五五三	一、一一七	二、五七〇
海草	一五、三一二	二七、六七七	三四二、五四三
那賀	三一、六五五	六三、七五六	八三一、六六九
伊都	一三、四七九	二三、一三四	二七九、一四一
有田	九、三九四	一五、八三七	二〇一、五三一
日高	一九、四七二	二九、五四五	三七七、四一〇
西牟婁	二〇、六五〇	二九、二一六	三五三、〇三八
東牟婁	五、二一六	六、五五四	八九、八一三
計	一二九、五五二	二〇四、八八八	二、五九〇、五一七

柑橘の生產

昭和八年

古來全國一の名聲を博しつつある柑橘の昭和八年の生產は數量二千七百七十七萬六千六百六十三貫價額五百九十二萬六千六百七十九圓で前年に比し數量五十八萬貫價額に於て五十萬圓の增加を示して居る「沖の暗いのに白帆が見えるあれは紀の國みかん船」の民謠と共に全國民に歡迎されれる紀州みかんは實に二百二十年前の昔から江戸と取引があつた栽培される蜜柑の種類が澤山あるも今では溫州が斷然優勢で全體の約七割を占めて居る郡市別に見ると有田郡が最も多く那賀、海草兩郡の生產高も逐年增加してゐる。



全國的に見ると靜岡縣は今や本縣の生産と大差なき迄に近づきつゝあることは注目に價する。

尙縣内に於けるみかんの生産狀況を見ると有田川の流域から海草郡の加茂谷方面が本場で之に次いでは紀ノ川の沿岸一帶となり紀南方面は非常に影がうすい。

都市別の生産は左記の通りで全國の比較は別葉掲載の通りとなつて居る。

附記　左表中普通蜜柑、溫州蜜柑、八代蜜柑ハ昭和八年二月ヨリ昭和九年一月迄ノ一ケ年其ノ他ノモノハ昭和七年八月ヨリ昭和八年七月迄ノ一ケ年ノ事實ヲ掲グ

	總數	普通蜜柑	溫州蜜柑	八ッ代柑	夏橙	ネーブルオレンヂ	其ノ他
有田	九、〇一三、八〇九貫 二、〇八七、九七七円	二四九、八六七貫 五二、九〇八円	六、三七六、一四九貫 一、五三二、七七五円	三五九、一〇九貫 三八、二六五円	一、四六〇、五五二貫 二七三、三五一円	三八六、六二三貫 一三八、四七〇円	一八一、五〇九貫 六三、二〇八円
那賀	六、二七〇、六六五 一、三四六、七八六	四六、二二八 九、四八〇	五、三七一、三三五 一、一三五、七四〇	七二、四〇三 八、三一九	一三六、一六二 一九、〇七三	四七三、七九五 一五一、二四五	一七〇、七四二 二二、九二九
海草	六、三七九、九七九 一、二七四、三七八	二四九、三四二 四八、三三八	四、五四五、二三六 九八六、七七八	一、〇八二、九五八 一三六、〇三三	三〇六、一二四 四七、五二一	六九八、七五三 二五、五三八	一二八、五八八 三〇、一七〇
伊都	三、一三〇、七七九 六七八、六三七	二五、七六七 五、〇九六	二、七四〇、二六二 五七三、九二七	三三、四〇九 三、三〇七	四二八、二三八 九三、九一七	二〇、一〇三 二、三九〇	

	計	新宮	和歌山	東牟婁	西牟婁	日高
	二七、七六六、六七三	一一〇、一六〇	一三四、六九三	一、四〇四、三〇六	一、〇八六、四八一	一、三〇四、三〇六
	五、九二六、六七九	一四、八一四	三、五五五	一三、一三一	一〇、九一三	二六、二二六
	七七五、三七三	九五	一一	一一、三四五	一三五、一九八	五六、〇六七
	一五五、三三〇	三八〇	一一、三三八	一一、九七七	一三、三七七	一一、九七七
	一九、五一二、五八一	五、六五〇	三八、三一〇	一四、四九〇	一一、七六八	一九、四一一
	四、三一五、四七九	一、三五六	七、六六四	三、五六〇	五一、〇〇六	四、六七三
	一、五七〇、五四六	一、〇五〇	六〇〇	四、三一五	一、〇六一、四八一	一九、四四六
	一九〇、七九三	一八九	七五五	八一七	一〇、七九一	一、九六三
	三、五四〇、八三八	一一、〇五〇	五二、六三五	一七、六六一	一三、一六、六七〇	一八四、九九
	五八八、八一三	一一、〇五〇	五、八八五	一六、六七五	四四、三五	一三、五五五
	一、四四五、〇四五〇	三九九	六、五二三	一七、四三一	一〇〇、八五七	一、八五〇
	四五〇、二七三	一、七五五	一四、四一九	一四〇、五四三	六二、二一六	五九、六四三
	九四七、二八五	一一、〇〇五	三、四一九	一一九、三六八	一三五、一六七	一四、九九九
	二二五、九九一	一、七五五	三、六〇四	一四、九七一	一一、一七八、三六六	一八四、九九九

前の生産　昭和九年

本縣の養蠶業は氣候と風土とが特に本業に適して居るので縣下一圓に行はれ比較的長足の進歩を示してゐるが、未だ全國的に比較するこの地位を占めるには至らない。郡市別生産は左の通りで全國の比較は別表掲記の通りである。

	春蠶		夏秋蠶		計	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
和歌山	一、九五八貫	四、七一円	一、〇六一貫	一、九八円	三、〇一九貫	六、七九九円
新宮	二八〇	七三一	八七	二三五	三六七	九四六
海南	一、六〇九	四、三〇四	九五三	一、八四一	二、五六二	六、一四五
海草	三八、三一四	一〇、七九	一八、三七〇	四三、一〇九	五六、六八四	一四六、九八八
那賀	一四七、八九八	四〇、七一四	八五、八三九	一〇六、五九六	二三三、七三七	六一四、〇〇七
伊都	一二八、九〇四	三五四、五五六	一〇九、七〇八	一二七、三七〇	二三八、六一一	六二六、九五六
有田	五六、〇八八	一五一、九六六	二八、二五一	六五、一三四	八四、三三九	二一七、一一九
日高	四八、五六五	一二五、三三七	一四、七三五	五九、六四二	七一、三〇〇	一八四、九九九
西牟婁	六五、四五五	一七二、九〇〇	三五、四〇二	八二、二一六	一〇〇、八五七	二五五、一一六
東牟婁	二九、六八九	七八、八一九	一六、五六七	四〇、五四二	四六、二五六	一一九、三六一
計	五二六、七九九	一、四〇四、六一四	三二〇、九七三	七七三、七五二	八三七、七三二	二一一、七八、三六六

サツマイモの生産

昭和八年

縣下の到る所に出來るサツマイモは昭和八年に於ては數量七百二十萬貫、價額七十萬圓に上り就中南國氣分豊かな西牟婁、東牟婁、日高の地方に於ての生産が特に多い尙前年と對比すると縣全体に於て數量は百二十七萬貫餘、價額に於て六萬圓餘の何れも增加を示した。郡市別狀況は左の通りで全國の比較は次葉に掲記の通りとなつてゐる。

	數量	價額	一貫當價額		數量	價額	一貫當價額
	貫	円	錢		貫	円	錢
和歌山	二、〇八四、七〇〇	二〇八、四七〇	一〇	有田	三三五、一七一	四〇、四六五	一三
新宮	一八三、七五〇	一八、三七五	一〇	日高	一、二七一、一一八	九八、二四七	八
海草	五三一、四三二	八四、二一八	一六	西牟婁	一、三九八、三〇五	二五、九七二	八
那賀	二九〇、四九〇	三三、八九〇	一一	東牟婁	八七〇、三五〇	七三、四六二	八
伊都	二四四、四一〇	二七、四〇四	一一	計	七、一九九、七二六	六九九、五〇三	一〇

順位	麥（昭和九年）		柑橘（昭和八年）		繭（昭和九年）		甘藷（サツマイモ）昭和八年	
一	香川	一、六二六、九七五 石	熊本	二、七、七六、六六三 貫	熊本	一、四六、六四三、六〇三 貫	鹿児島	一、四六、六四三、六〇三 貫
二	兵庫	一、四〇八、三五七	山口	二、一、七九四、一九七	山形	二、一、七五二、七四二	沖縄	二、一、七八、五〇五、七八二
三	岡山	一、〇八五、四二九	愛媛	二、〇、七一一、九六五	千葉	二、〇、五六五、八六七	長崎	二、〇、五六五、八六七
四	千葉	一、〇四一、七六九	福岡	二、〇、八三、二九五	静岡	二、〇、五六五、八六七	熊本	二、〇、五六五、八六七
五	群馬	一、〇四一、七六九	静岡	二、〇、七一一、九六五	愛媛	二、〇、五六五、八六七	静岡	二、〇、五六五、八六七
六	福島	一、〇八五、四二九	和歌山	二、七、七六、六六三 貫	福島	二、〇、八三、二九五	千葉	二、〇、八三、二九五
七	熊本	一、〇四一、七六九	熊本	二、〇、七一一、九六五	熊本	二、〇、七一一、九六五	愛媛	二、〇、七一一、九六五
八	栃木	一、〇八五、四二九	福岡	二、〇、八三、二九五	栃木	二、〇、八三、二九五	福岡	二、〇、八三、二九五
九	埼玉	一、〇四一、七六九	愛媛	二、〇、七一一、九六五	埼玉	二、〇、七一一、九六五	埼玉	二、〇、七一一、九六五
一〇	茨城	一、六二六、九七五 石	和歌山	二、七、七六、六六三 貫	茨城	一、六二六、九七五 石	茨城	一、六二六、九七五 石
一一	愛媛	五五三	大分	三、〇四四、一七三	大分	七三六、五五三	大分	七三六、五五三
一二	大分	六七九、五八五	愛媛	三、〇四四、一七三	愛媛	六六九、五八五	愛媛	六六九、五八五
一三	愛媛	六六三、二七八	大分	三、〇四四、一七三	大分	六六三、二七八	大分	六六三、二七八
一四	長崎	六五六、五四七	長崎	三、〇四四、一七三	長崎	六五六、五四七	長崎	六五六、五四七
一五	鹿児島	六二二、九五一	鹿児島	三、〇四四、一七三	鹿児島	六二二、九五一	鹿児島	六二二、九五一
一六	岡山	五六一、〇〇四	岡山	三、〇四四、一七三	岡山	五六一、〇〇四	岡山	五六一、〇〇四
一七	鳥取	五五六、〇〇八	鳥取	三、〇四四、一七三	鳥取	五五六、〇〇八	鳥取	五五六、〇〇八
一八	島根	四九九、三〇一	島根	三、〇四四、一七三	島根	四九九、三〇一	島根	四九九、三〇一
一九	静岡	四八三、〇〇七	静岡	三、〇四四、一七三	静岡	四八三、〇〇七	静岡	四八三、〇〇七
二〇	神奈川	四五四、〇八六	神奈川	三、〇四四、一七三	神奈川	四五四、〇八六	神奈川	四五四、〇八六
二一	北海道	四五四、〇八六	北海道	三、〇四四、一七三	北海道	四五四、〇八六	北海道	四五四、〇八六
二二	徳島	四五四、〇八六	徳島	三、〇四四、一七三	徳島	四五四、〇八六	徳島	四五四、〇八六
二三	宮崎	三六七、一七二	宮崎	二、一二二、九七一	宮崎	三、一三三、八七七	宮崎	三、一三三、八七七
二四	大阪	三六七、一七二	大阪	二、一二二、九七一	大阪	三、一三三、八七七	大阪	三、一三三、八七七
二五	宮城	三六七、一七二	宮城	二、一二二、九七一	宮城	三、一三三、八七七	宮城	三、一三三、八七七
二六	山口	三六七、一七二	山口	二、一二二、九七一	山口	三、一三三、八七七	山口	三、一三三、八七七
二七	福井	三六七、一七二	福井	二、一二二、九七一	福井	三、一三三、八七七	福井	三、一三三、八七七
二八	山梨	三六七、一七二	山梨	二、一二二、九七一	山梨	三、一三三、八七七	山梨	三、一三三、八七七
二九	岐阜	三六七、一七二	岐阜	二、一二二、九七一	岐阜	三、一三三、八七七	岐阜	三、一三三、八七七
三〇	三重	三六七、一七二	三重	二、一二二、九七一	三重	三、一三三、八七七	三重	三、一三三、八七七
三一	和歌山	三六七、一七二	和歌山	二、一二二、九七一	和歌山	三、一三三、八七七	和歌山	三、一三三、八七七
三二	大阪	三六七、一七二	大阪	二、一二二、九七一	大阪	三、一三三、八七七	大阪	三、一三三、八七七
三三	奈良	三六七、一七二	奈良	二、一二二、九七一	奈良	三、一三三、八七七	奈良	三、一三三、八七七
三四	山梨	三六七、一七二	山梨	二、一二二、九七一	山梨	三、一三三、八七七	山梨	三、一三三、八七七
三五	滋賀	三六七、一七二	滋賀	二、一二二、九七一	滋賀	三、一三三、八七七	滋賀	三、一三三、八七七
三六	埼玉	三六七、一七二	埼玉	二、一二二、九七一	埼玉	三、一三三、八七七	埼玉	三、一三三、八七七
三七	群馬	三六七、一七二	群馬	二、一二二、九七一	群馬	三、一三三、八七七	群馬	三、一三三、八七七
三八	福井	三六七、一七二	福井	二、一二二、九七一	福井	三、一三三、八七七	福井	三、一三三、八七七
三九	岩手	三六七、一七二	岩手	二、一二二、九七一	岩手	三、一三三、八七七	岩手	三、一三三、八七七
四〇	福岡	三六七、一七二	福岡	二、一二二、九七一	福岡	三、一三三、八七七	福岡	三、一三三、八七七
四一	山口	四五一、四八二	山口	三、〇四四、一七三	山口	四五一、四八二	山口	四五一、四八二
四二	岩手	四二一、八二八	岩手	三、〇四四、一七三	岩手	四二一、八二八	岩手	四二一、八二八
四三	京都	四二一、四四六	京都	三、〇四四、一七三	京都	四二一、四四六	京都	四二一、四四六
四四	兵庫	四〇六、四四八	兵庫	三、〇四四、一七三	兵庫	四〇六、四四八	兵庫	四〇六、四四八
四五	宮城	三九一、八九二	宮城	三、〇四四、一七三	宮城	三九一、八九二	宮城	三九一、八九二
四六	高知	三八〇、二五一	高知	三、〇四四、一七三	高知	三八〇、二五一	高知	三八〇、二五一
四七	京都	三七六、〇五四	京都	三、〇四四、一七三	京都	三七六、〇五四	京都	三七六、〇五四
四八	岡山	三七〇、六四九	岡山	三、〇四四、一七三	岡山	三七〇、六四九	岡山	三七〇、六四九
四九	宮崎	三五五、六六三	宮崎	三、〇四四、一七三	宮崎	三五五、六六三	宮崎	三五五、六六三
五〇	福島	三一七、〇九九	福島	二、一二二、九七一	福島	三一七、〇九九	福島	三一七、〇九九
五一	新潟	三〇四、八八三	新潟	二、一二二、九七一	新潟	三〇四、八八三	新潟	三〇四、八八三
五二	東京	二一四、七三〇	東京	二、一二二、九七一	東京	二一四、七三〇	東京	二一四、七三〇
五三	宮城	一二七、八九七	宮城	一、一四四、九九八	宮城	一二七、八九七	宮城	一二七、八九七
五四	高知	一二五、四九〇	高知	一、一四四、九九八	高知	一二五、四九〇	高知	一二五、四九〇
五五	京都	一二四、三九〇	京都	一、一四四、九九八	京都	一二四、三九〇	京都	一二四、三九〇
五六	愛知	一二三、八九〇	愛知	一、一四四、九九八	愛知	一二三、八九〇	愛知	一二三、八九〇
五七	滋賀	一二〇、八八七	滋賀	一、一四四、九九八	滋賀	一二〇、八八七	滋賀	一二〇、八八七
五八	和歌山	一二〇、八八三	和歌山	一、一四四、九九八	和歌山	一二〇、八八三	和歌山	一二〇、八八三
五九	奈良	二一四、七三〇	奈良	二、一二二、九七一	奈良	二一四、七三〇	奈良	二一四、七三〇
六〇	大阪	二一四、七三〇	大阪	二、一二二、九七一	大阪	二一四、七三〇	大阪	二一四、七三〇
六一	京都	二一四、七三〇	京都	二、一二二、九七一	京都	二一四、七三〇	京都	二一四、七三〇
六二	福岡	二一四、七三〇	福岡	二、一二二、九七一	福岡	二一四、七三〇	福岡	二一四、七三〇
六三	石川	二一四、七三〇	石川	二、一二二、九七一	石川	二一四、七三〇	石川	二一四、七三〇
六四	秋田	二一四、七三〇	秋田	二、一二二、九七一	秋田	二一四、七三〇	秋田	二一四、七三〇
六五	富山	二一四、七三〇	富山	二、一二二、九七一	富山	二一四、七三〇	富山	二一四、七三〇
六六	福島	二一四、七三〇	福島	二、一二二、九七一	福島	二一四、七三〇	福島	二一四、七三〇
六七	山形	二一四、七三〇	山形	二、一二二、九七一	山形	二一四、七三〇	山形	二一四、七三〇
六八	秋田	二一四、七三〇	秋田	二、一二二、九七一	秋田	二一四、七三〇	秋田	二一四、七三〇
六九	青森	二一四、七三〇	青森	二、一二二、九七一	青森	二一四、七三〇	青森	二一四、七三〇
七〇	北海道	二一四、七三〇	北海道	二、一二二、九七一	北海道	二一四、七三〇	北海道	二一四、七三〇
平均	合計	三、四〇八、一一〇 四七六、七六八	合計	二八、〇五八、三一五 二、五二一、八七九	合計	九三六、四五九、六八八 一九、九二四、六七四	合計	九三六、四五九、六八八 一九、九二四、六七四

阿片(ケシ)の生産

昭和八年

阿片は本縣の特産で日本一の地位を占めて居る生産狀況は目下生産過剰の爲め作付を制限せられ昭和七年に於ては最盛期の昭和四年に比すれば作付反別は約半減せられたるも尙五百三十五町二反歩、納付數量六千七百九十一瓩、其價額二十一萬五千八百六十七圓を産し全國(本縣外十一道府縣)生産の約六割に當つて居る管内に於ける主産地は有田郡(南廣、湯淺、津木、廣、藤並、田栖川、田殿の町村)及日高郡(由良、東内原、衣奈名田、志賀の各村)が大部分を占めて居る。

除虫菊の生産

昭和九年

除虫菊製粉の生産高は現在我が和歌山縣は日本一で而かも其の原料の除虫菊は明治二十年に我が和歌山縣の有田郡保田村に栽培したるを以て嚆矢とす、其の除虫菊の昭和九年の縣下の生産狀況を調べて見ると栽培反別九百七町一反歩、收穫高二十六萬五百五十九貫、價額百十八萬八千百二十二圓で前年に比し裏作として有利のため作付反別百六十五町歩餘を增加し氣候適順にして採收期特に晴天打續き乾花調製に好適せる爲め十六萬八千三百九十五貫增加し價額も又七十五萬圓餘を增加した其の主産地は左の通りとなつて居る。

日高郡	名田村	三〇一、〇〇〇円	日高郡	矢田村	七八、三三五円
同	湯川村	九五、七〇〇	同	印南町	七三、五七五
有田郡	保田村	八四、三一五	同	切目村	五九、三三〇

阿片(ケシ)の生産　昭和八年

阿片は本縣の特産で日本一の地位を占めて居る生産狀況は目下生産過剰の爲め作付を制限せられ昭和七年に於ては最盛期の昭和四年に比すれば作付反別は約半減せられたるも尙五百三十五町二反歩、納付數量六千七百九十一瓩、其價額二十一萬五千八百六十七圓を產し全國（本縣外十一道府縣）生產の約六割に當つて居る管內に於ける主產地は有田郡（南廣、湯淺、津木、廣、藤並、田栖川、田殿の町村）及日高郡（由良、東內原、衣奈名田、志賀の各村）が大部分を占めて居る。

除虫菊の生產　昭和九年

除虫菊製粉の生產高は現在我が和歌山縣は日本一で而かも其の原料の除虫菊は明治二十年に我が和歌山縣の有田郡保田村に栽培したるを以て嚆矢とす、其の除虫菊の昭和九年の縣下の生產狀況を調べて見ると栽培反別九百七町一反歩、收穫高二十六萬五百五十九貫、價額百十八萬八千百二十二圓で前年に比し裏作として有利のため作付反別百六十五町歩餘を增加し氣候適順にして採收期特に晴天打續き乾花調製に好適せる爲め十六萬八千三百九十五貫增加し價額も又七十五萬圓餘を增加した其の主產地は左の通りとなつて居る。

日高郡	名田村	三〇二、〇〇〇円	日高郡	矢田村	七八、三三五円
同	湯川村	九五、七〇〇	同	印南町	七三、五七五
有田郡	保田村	八四、三二五	同	切目村	五九、三二〇

日高郡	内原村	四〇、〇〇〇円
同	塩屋村	三九、二七〇
有田郡	田栖川村	三三、七五〇
日高郡	藤田村	三三、〇〇〇
同	稲原村	三〇、〇〇〇
同	由良村	二七、三三五
有田郡	田殿村	二三、八八九
日高郡	比井崎村	一九、〇四七

尙全國的に見ると栽培の元祖である我が和歌山縣は今や全國中斷然地を拔く北海道の一割七分に足らざる狀態で地位は第五位となつて居る。

同	丹生村	一八、四四三
同	上南部	一七、八七二
有田郡	箕島町	一六、七〇八
日高郡	和田村	一五、六〇〇
同	西内原村	一五、三九〇
有田郡	南廣村	一三、三七五
日高郡	早蘇村	一一、四〇〇
西牟婁郡	和深村	一〇、二一五

畜産概況

氣候風土共に各種家畜の生育に適し殊に山岳地方には和牛の飼育盛に行はれ就中熊野地方は產牛地として古來「熊野牛」の名を以て知られてゐる紀北一帶の地は中國地方產牛育成地であり平坦地方には農家の餘乳利用を奬勵し今や產業組合法に依つて組織せる所の牛乳販賣組合が各郡に亘り其の產乳は遠く大阪市に迄販路を開拓してゐる。亦養鷄養蜂は奬勵の結果逐年盛況を呈するに至りつゝあるも昭和八年中に於て價額拾萬圓以上のものとしては僅かに卵の七十五萬六千二百六十七圓、肉類の六十三萬三千三百五圓、牛乳の三十六萬七百八十七圓の三種を數ふるのみで畜產總額は百七十三萬四千八百四十三圓である。

家畜

昭和八年末現在

	牛	馬	豚
和歌山	九八九頭	四四八頭	一、〇三八頭
新宮	三六〇	三	五五
海草	三、八七三	二四	一、三〇〇
那賀	五、八六〇	二三五	六二
伊都	三、七八二	一五八	三一

家禽

	鷄	鶩	卵
和歌山	六三、〇六八羽	一八〇羽	四、八五八、八九四個
新宮	四、二九五	—	三六九、二五〇
海南	二二、〇九〇	六八	八〇九、六〇〇
海草	七六、四三八	四、二二五	四、五二一、九五二
那賀	七五、六六二	八七五	四、五三二、五四三
伊都	六七、六八七	四三	四、二三二、二六〇

（昭和九年六月末現在 卵自昭和八年七月至九年六月）

	牛	馬	豚
有田	二、六一三頭	三一六頭	二九二頭
日高	五、一九七	二三一	二五六
西牟婁	四、八一八	二五八	六八二
東牟婁	二、二四三	七	—
計	二九、七三五	一、八七〇	三、七一六

	鷄	鶩	卵
有田	七五、四二三羽	八四羽	四、一四五、一〇四個
日高	七四、八五六	一、二九九	四、四三四、二四三
西牟婁	九九、九〇六	七一八	五、九七二、六八六
東牟婁	三三、四六四	三五〇	一、四八八、二〇五
計	五八二、八八八	七、八三二	三五、三五五、七三七

林業概況

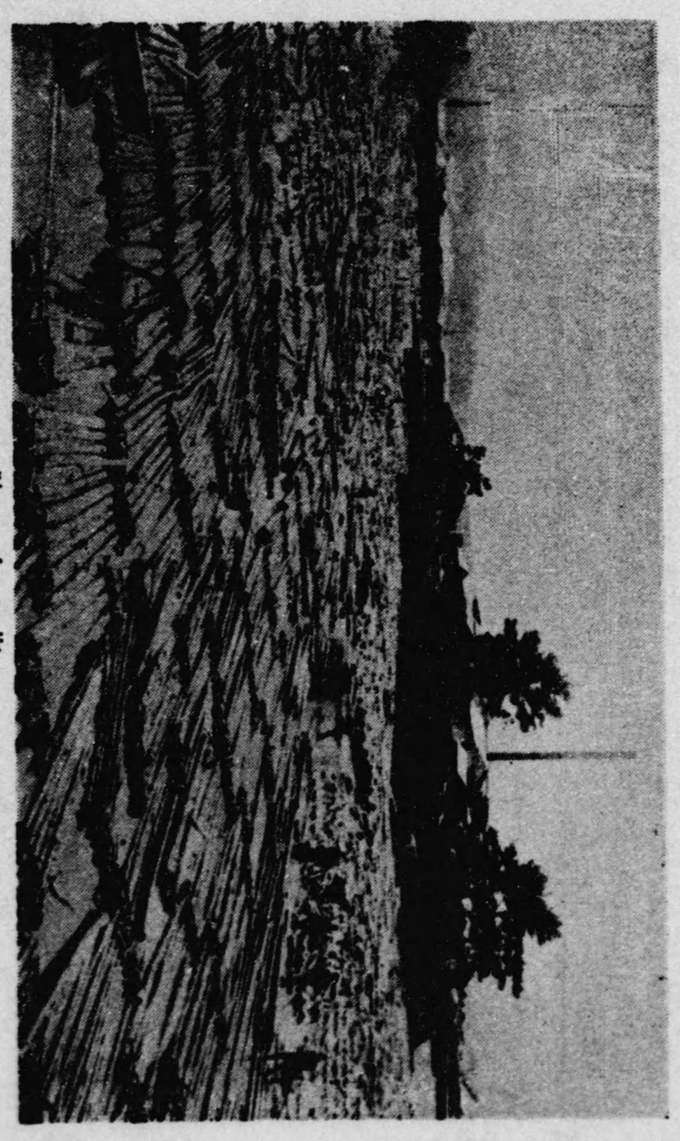
古來「木の國」と稱せらるゝ我が和歌山縣は沿岸近く黑潮が流れてゐる關係で風は暖かく雨多く自然の惠み豐かで樹木の發育旺盛で各種の林產物に富んでゐる。然しながら地南海の一角に健在し交通運輸の便特に開けて居ないが爲に土地面積の八割に當る廣大な山林原野を有しながら其の地上より生ずる林產總額は昭和七年に於ては千三百三十五萬五千三百二十三圓で縣下生產總額の六分餘に過ぎないのは遺憾である。殊に近年北海材、臺灣材、米材等が安價に輸入せらるゝ樣になつて來たので一層斯業に壓迫を加へてゐる。

更に林野の狀態を觀察して見ると林野面積の九割五分强を占むる公私有林野面積の內八割强は立木地で殘る二割弱が無立木地となつてゐる然かも其の無立木地の大部分は部落有林野の統一整理の行ばれざる所となつてゐる尙主要樹木の分布を示して見ると。

杉と檜　は東牟婁郡、西牟婁郡、日高郡（川上、川中、寒川、龍神、山路の各村地方）、有田郡（安諦、八幡、岩倉の各村地方）及び伊都郡（花園、高野各村の地方）に最も多量に生育し主として建築材となつてゐる。

松　「あかまつ」は伊都郡、那賀郡、海草郡の大部及有田、日高、西牟婁、東牟婁各郡の山地に自生し、主として薪炭材となり「くろまつ」は海草郡、有田郡、日高郡、西牟婁郡、東牟婁郡の海岸に自生するもの亦尠なくはない。而して材は建築材と薪炭材である。

次に各種林產物中、木炭の白炭は備長炭と稱して其の名夙に天下に普く品質の優良なること全



貯木場

國一と稱せられてゐる尙又履物表として近年需要頓に增加せる棕梠晒葉も產額に於ては誇るべき程度でないが全國一の榮位を占めて居る。尙此の主產地は那賀、伊都兩郡の山間地方である。

林產物（十萬圓以上）昭和八年

挽角	三、七三三、六四三円	木炭	一、〇一七、九三六円
板材	二、四八二、六三二	薪炭材	六九一、三一〇
用材	一、八八〇、七四〇	棕梠晒葉	二三六、五七一
貫木	一、二九七、四二二	醋酸石炭	一五〇、〇三七
樁木	一、二〇六、九五七	樹皮	一三二、二七八
		松茸	一二六、一三八円
		樽丸	一〇九、三六五
		其他	三〇〇、三八四
		計	一三、三五五、三二三

鑛業

土地總面積の八割以上に當る廣大な山林原野の面積を有してゐるが鑛產物は極めて尠なく昭和八年中に於て產額十萬圓以上のものとしては只だ僅に左記三種を數ふるのみで鑛產總額は百二十四萬千百十一萬圓である縣內の鑛山として主なる物は銅硫化鐵を產する飯盛山（那賀郡麻生津村龍門村）あるのみである。

銅硫化鐵	六七三、二九一圓
有用土石	三四五、二〇六圓
石材	一一七、六〇七圓

水産業

概況

半島的地勢なるを以て沿岸線長く四百九十七粁(約百二十五里)に達し南は熊野灘の好漁地を控へ北は瀬戸内海の咽喉を擁し黒潮は沿岸を近く奔流して各種の魚族に富み漁撈の業盛んである殊に時勢の進運に伴ひ沿岸漁業、近海漁業にあつては各種新式の漁具、漁法の利用に努め且つ各地に築潮、築磯等を設置し魚族の誘引棲息に便ならしめ養殖方面に於ては縣内至る處の池沼は元より河海亦各種の魚族藻類の繁殖場として利用せらるゝ樣になつてゐる。更に漁撈は常に漁場の發見開拓と共に北海道、南洋、臺灣及新南群島附近に出稼又は遠洋漁業を企つるもの續出し斯業の前途寔に刮目するに足る現況にあるが近年打續く不漁と財界の不況に禍ひせられて年々價額に於て減少を示して來たが昭和八年に於ては總額六百三十三萬七百五十圓で前年より九十八萬三千百四十二圓の增加を見るに至つた。

一方又各種の水産製造場も製法に苦心怠りなく現在他府縣の産に比し各品とも遜色なき程度と自稱する程度に進みつゝある。

水産物 (十萬圓以上) 昭和八年

	円		円
カツヲ	五一七、五三三	カツヲ節	三三六、七三二
カマボコ	四五一、〇九八	サバ節	二二四、〇二二
サバ	四一六、七一〇	イカ	一九八、七〇二
マグロ	四〇八、〇六四	サンマ	一七〇、一五七
イワシ	三六四、〇〇八	タイ	一五七、七四一
ブリ	二七九、三四一	サハラ	一三〇、七五二
エビ	二三二、一一六	生節	一二九、六三八

	円
イワシ煮乾	一二四、四五五
アヂ	一〇九、七四四
イセエビ	一〇五、八二五
イワシ節	一〇四、四四六
其ノ他	一、九八九、六六七
計	六、三三〇、七五〇

工業

概況

昭和八年末に於て職工五人以上を使用してゐる工場は縣内に千百五十四工場で前年より百十四工場を增加し之に從事してゐる職工と其他の從業者は二萬九千九百八十三人で前年より一千百二十四人を增加して居る。

而して各種工産物中綿織物は縣下第一の物産で年額四千萬圓以上に達してゐる其の中綿フランネルは「紀州ネル」として名聲高く其の産額全國中上位に位する又漆器は「黒江漆器」と稱して江湖

に普く產額全國中第四位を占めてゐる其他皮革、傘、指物、醬油、除虫菊製品、凍豆腐等も亦其の名高く斯業日々に盛んに趣きつゝある。

工場分類

昭和八年十二月現在

業種別	和歌山	新宮	海草	那賀	伊都	有田	日高	西牟婁	東牟婁	計
紡織工場	二二七	二	一〇九	九	八四	七	四	四	一	四六六
金屬工場	一八	—	—	—	—	一四	—	—	—	二四
機械器具工業	八七	二	二	—	二	一	六	九	一〇九	
窯業	二	—	—	四	—	—	—	一	一〇	
化學工業	五四	一	九	一	一三	四	—	八〇		
木製品工場及製材工場	二一七	一九	二七	五	八	五	一三	一〇	三二三	
印刷製造業	一一	五	—	—	—	—	—	—	二	
食料品工業	三七	二	六	一三	一四	—	三	二	八〇	
瓦斯電氣業	一	一	二	—	—	—	三	—	七	
其ノ他工業	二〇	—	八	九	一	一	二五	—	六五	
計	六六四	三二	一六三	四二	一〇九	四九	一八	五六	二一	一、一五四

工產物

（十萬圓以上）　昭和八年

綿絲	四二、七二一、二八一円	セメント	一、五九六、〇〇〇円
綿織物	四〇、三一九、六五九	晒賃	一、一九三、八〇二
（內生地購入加工）	二三、七四八、九九三	毛織物	九〇六、七五二
染賃	一三、五八六、六一六	絹織物	六二三、九五八
メリヤス	九、八九九、七〇六	足袋	六一一、六〇〇
（內メリヤス生地）	九、一九五、一〇八	和紙	五八九、三五〇
指物	六、一七二、七六四	貝釦	五八七、六八七
酒	五、三三一、三四一	傘	五一五、五五七
除虫菊製品	四、六六七、〇九八	硫酸	四二〇、六六九
製革	三、九九八、七五〇	苛性曹達	三三四、五九〇
箱類	三、八三五、七一七	梅干	三二二、九八四
靈糸	二、八六六、六八四	瓦	三〇一、五九〇
漆器	二、七〇三、三七五	船舶	二八九、〇八四
西洋紙	二、三四一、七五四	酢	二七二、三六六
菓子類	一、九一八、三八二	凍豆腐	二七一、七八四
機械類	一、七八一、五二三	履物	二六三、一五二
醬油	一、六五五、二五二	肥料	二六一、八九二

棕梱製品	二二五、七九七円	氷	一八七、九〇一
藁製品	二二一、四八〇	化粧品	一八三、六七一
		桶樽類	一八二、一五〇
		賣藥	一七八、六九〇
		皮革製品	一五〇、五七〇
		晒粉	一三七、六三八
		帽子	一三五、九八〇
		漁網	一三五、一六一
		ラムネ其他清涼飲料水	一三三、一五八
		紙箱	一二五、二七五
		竹製品	一〇八、五二〇
		其ノ他	一、一三六、一〇七
		計	一五六、三六四、八八七

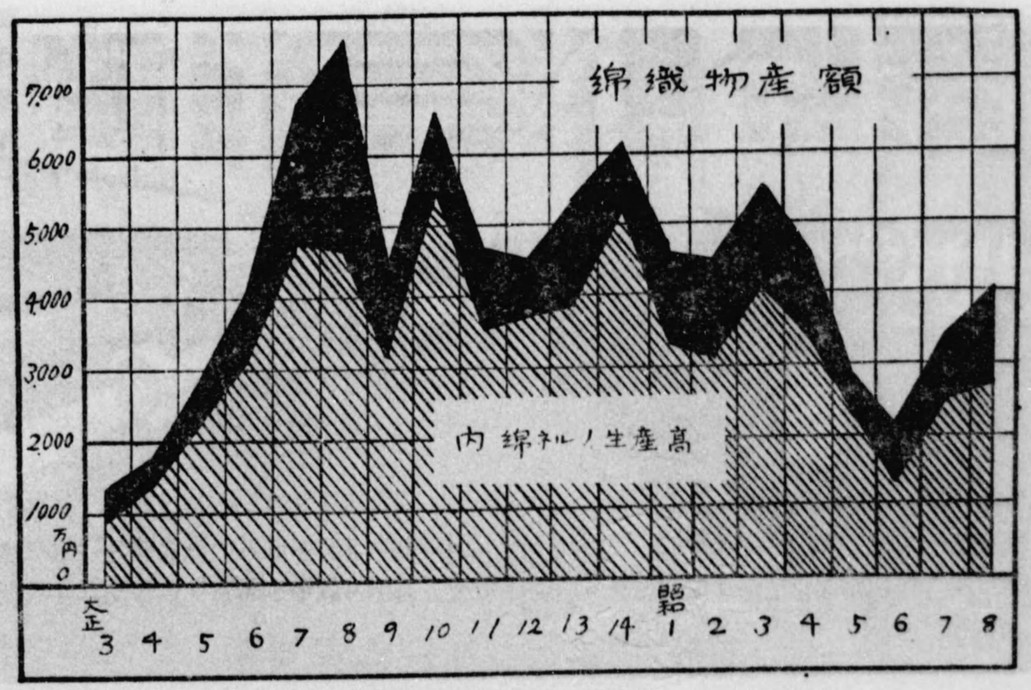
絹織物の生産　昭和八年

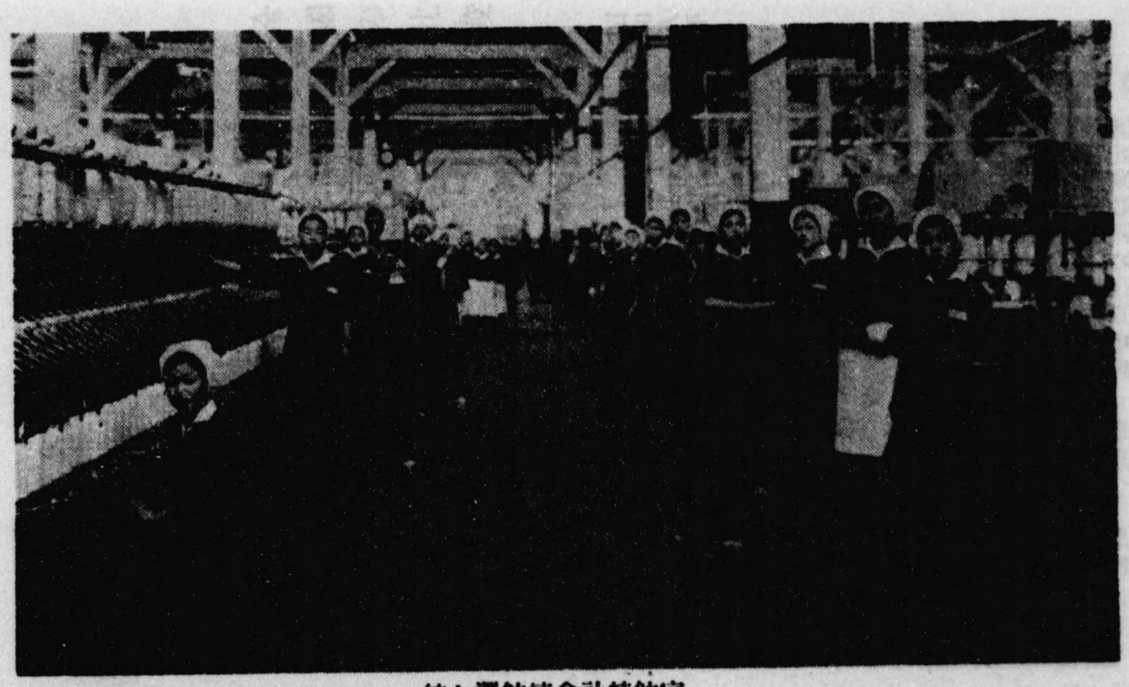
絹織物は縣内に生産する各種の物産中最高位につくもので就中明治初年より紀州ネルの呼稱を以て全國に名聲を博して居る絹ネルの生産（生地購入加工分を含む）は多額なるの點に於て本邦中他に其の比を見ないものであるから之が消長は主産地たつて居る和歌山市の經濟界に多大の影響を及ぼすことゝなる。

今之が最近十ヶ年間の生産を調べて見ると左の通りで未曾有の財界不況に襲ひられて年々減少を示してゐたが昭和七年輸出好轉以來インフレ景氣の影響をみせて昭和八年には四千三十一萬九千六百十九圓でありる然し好景氣の大正十四年に比すれば六割六分に過ぎない狀態となつてゐる尙全國の比較は次表の通りである。

綿縣下最近十ヶ年間の織物の生産

同大正十三年	三、〇九七、三四四円	同昭和四年	四七、四九八、八六八円
同同十四年	六一、四九二、〇三九	同同五年	二九、二五一、六〇四
同同十五年	四六、八七三、二二四	同同六年	二一、七五八、九四四
同昭和二年	四六、二〇〇、九四三	同同七年	三四、七三三、九二九
同同三年	五五、七〇七、二六二	同同八年	四〇、三二九、六二九





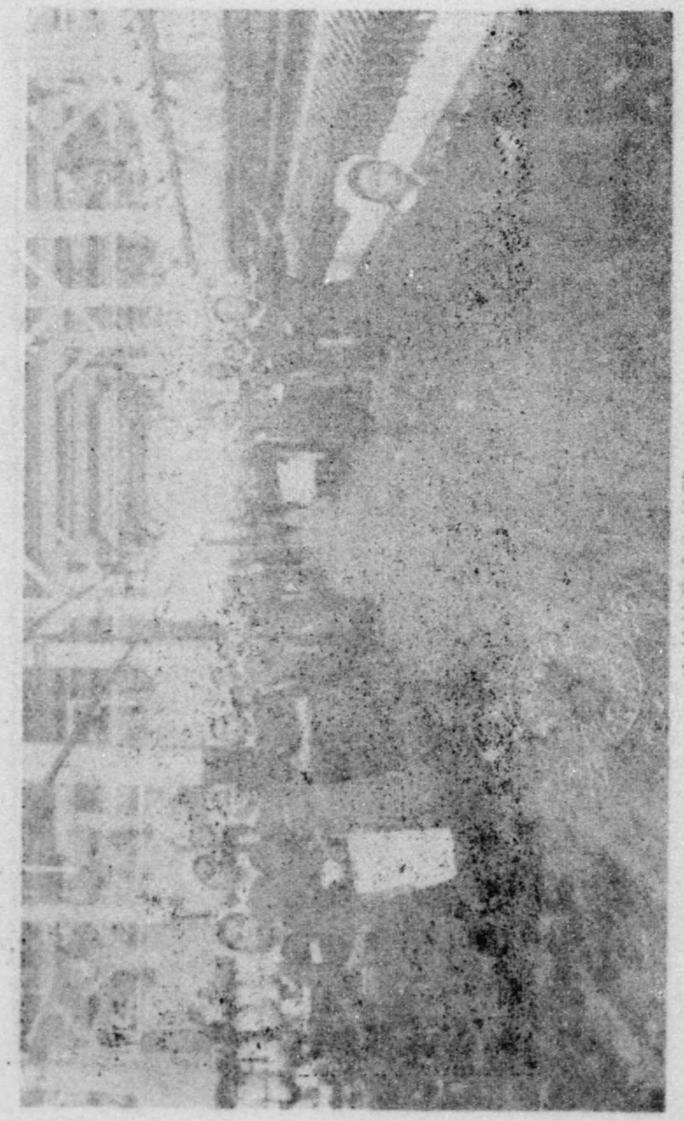
鐘ケ淵紡績會社精紡室

全國の比較

昭和八年

順位	府縣名	價額 円	順位	府縣名	價額 円	順位	府縣名	價額 円	順位	府縣名	價額 円
一	愛知	一八五、五九三、七九七	一八	栃木	六三九、七〇九	三五	山形	四、八六四、〇四一	四四	香川	九、八二四
二	大阪	一八一、五三五、七二〇	一九	島根	五三四、二八一	三六	千葉	四、八九二、四〇九	四五	山口	五、六〇八
三	兵庫	五三、八三一、五一五	二〇	新潟	二七六、五六八	三七	秋田	一、七五二、一〇一			
四	靜岡	四三、八一七、八一八	二一	京都	二三八、九三八	三八	青森	一、五八二、一〇〇六			
五	岡山	三八、九六三、三一三	二二	福井	一七七、三七五	三九	宮城	一、八四二、一八九			
六	愛媛	三六、六三二、六五〇	二三	山口	一五八、八八三	四〇	沖縄	一、七三三、八四四			
七	三重	二〇、〇八三、七〇七	二四	群馬	一三、五一七	四一	高知	一、五六二、〇〇六			
八	和歌山	一六、五四三、七五二	二五	大分	八三、六〇七	四二	長崎	一、二二八、〇四四			
九	德島	一三、九六八、四七二	二六	鹿兒島	六八、四九二	四三	長野	七四五、〇七八			
一〇	東京	一三、七一七、九五三	二七	石川	二九、七五一	四四	岩手	七〇四、八九三、四〇九			
一一	岐阜	一一、七四五、九六五	二八	香川	一、八六四、〇四一	四五	山形	一四、九九七、七三二			
一二	富山	八、九六一、八四九	二九	熊本	一、八四二、一八九	四六	鳥取				
一三	廣島	七、七八二、二三三	三〇	福島	一、七二二、八四四	四七	北海道				
一四	埼玉	七、七五三、二一五	三一	那賀	一、五八二、一〇一						
一五	奈良	七、五三七、二〇九	三二	宮城	一、五六二、〇〇六						
一六	福岡	六、七四八、九四五	三三	神奈川	一、二二八、〇四四						
一七	滋賀	六、一五〇、七七七	三四	茨城	七四五、〇七八						

附記　本表掲記の金額には生地購入加工の分は含まず



漆器の生産　昭和八年

漆器の生産地は左記四ケ市町村で昭和八年の生産高は二百七十萬三千三百七十五圓となり内黒江町は古來黒江漆器の名稱を有する丈けに總額の九割强を占めて居る全國の比較は左の通りである。

海草郡黒江町	二、四五〇、〇〇〇円	有田郡湯浅町　一、四四〇円
同　日方町	二五〇、三三五	計　二、七〇三、三七五
新宮市	一、七〇〇	

全國の比較　昭和八年

順位	府縣名	價額	順位	府縣名	價額	順位	府縣名	價額
一	愛知	四、〇三一、一四二円	一八	廣島	三五、四〇〇円	三五	鹿兒島	五八、七〇四円
二	京都	三、八九八、六〇二	一九	三重	三九四、三二六	三六	茨城	五五、四九九
三	和歌山	二、七〇三、三七五	二〇	栃木	三三三、八七四	三七	熊本	四七、〇五一
四	石川	二、六四三、〇八七	二一	福岡	二六二、五二四	三八	山口	四〇、九九二
五	靜岡	二、四三〇、六九〇	二二	愛媛	二四二、一一〇	三九	宮城	三一、〇〇〇
六	福島	二、一六二、〇二六	二三	沖縄	二二六、六九五	四〇	佐賀	二九、七九二
七	福井	一、三八四、五三七	二四	宮城	二〇八、四一九	四一	德島	二七、七八六
八	岡山	一、〇三〇、二二七	二五	大阪	一八六、〇九九	四二	長崎	二七、二〇〇
九	新潟	九六二、〇〇〇	二六	岐阜	一八一、九五三	四三	高知	二五、二七〇
一〇	滋賀	七五四、二三九	二七	北海道	一六三、三一四	四四	岡山	二三、九八八
一一	山形	七五二、八八三	二八	島根	一六〇、九一四	四五	山梨	一七、三九〇
一二	香川	六七二、三六二	二九	青森	一五七、七五〇	四六	埼玉	七、九二〇
一三	兵庫	五四九、五四二	三〇	東京	一三一、七〇〇	四七	千葉	三、三六八
一四	長野	四九三、六二八	三一	大分	一〇二、一〇五			
一五	秋田	四五〇、〇八一	三二	岩手	九七、六一一			
一六	奈良	四三六、六〇八	三三	鳥取	八八、四八〇			
一七	神奈川	四三三、九一四	三四	群馬	六一、六六〇		計	二九、五七一、六六五
							平均	六二九、一八四

指物　昭和八年

本縣の指物は戸、障子、箪笥等で其の發達は明治十八年以降となつて居る而して現在の生産は全國第一位で昭和七年の其生産額は最盛期たりし昭和二年に比しては三百萬圓の減少を見て居るが尙六百十七萬二千七百六十四圓に達し、主産地は和歌山市となつて居る。

商業

概況

本縣の商業は今から約二百二十年も前の頃風浪をものともせず小さな和船に紀州みかんを滿載して「沖の暗いのに白帆が見えるあれは紀の國みかん船」と江戸の人々を驚嘆せしめた程の度胸

と氣運に富んだ紀の國屋文左衛門が出て其の後に於ても幾多商才に丈けた人物も輩出しては居るが何分大商業地である大阪、神戸の二大都市に近接し其の勢力に壓せらるゝと一面交通運輸の狀態其の他諸般の關係から特に著しい發達を呈して居るとは稱せられない而して其の多くは和歌山市と新宮市を中心として經營せらるゝものである。

和歌山商工會議所

明治三十四年に設立せられ現在市内西汀丁に事務所を設け商工業の進歩發達を圖る目的の爲に鋭意力を注いで居る。

外國貿易

本縣には開港場がないから縣内の物産が何方面に幾何づゝ輸出せられて又如何なる品物が何處の國から輸入して居るかは明確な調査が出來かねて居るが縣の物産で海外に輸出する品名と其の輸出先並縣内への輸入品の主なるものは大體左の通りである。

品名	主ナル輸出先
綿織物	支那、滿洲、濠洲、南洋
生糸	印度、南米
綿花	印度、米國
綿糸	支那

品名	主ナル輸出先
メリヤス	支那、滿洲、南洋
箱類	印度、支那
柑橘	滿洲、支那、加奈陀、南洋、米
除虫菊干花及製品	英、米、佛、獨、支那、滿洲、印度、マレー地方、比律賓
皮革	支那、滿洲
漆器	英、米、佛、伊
貝釦	英、米、佛、印度
再繊及シール	支那、印度、滿洲
梅干	滿洲
眞珠	羅馬、巴里
晒粉	支那
硝酸	支那
硫酸	支那
竹スステッキ	歐米各國
鰯	支那、滿洲
石油及揮發油	米、南洋
木材	露領沿海洲
豆糟	滿洲
機械類	獨、米
漆	支那
牛皮	支那、米
貝釦材料	南洋、支那
化粧品	米、佛
米	佛領印度支那
小麥粉	米
酒	英、佛
牛肉	支那
鷄卵	支那
毛織物	英、米

銀行

昭和八年末に於ける銀行數は縣内に本店を有するものは八行で普通銀行七行、貯蓄銀行一行となつてゐる此の八行の拂込資本金は七百四十八萬七千三百圓である。尚此の外に他府縣に本店を有して本縣内に支店を設けてゐるものが十行で其の支店數は二十一である。各種銀行に於ける昭和八年中に取扱つた縣下の預金貸付金及割引手形は左の通りとなつてゐる。

昭和八年金融界はインフレーション政策及時局匡救政策と爲替相場安と相俟つて物價昂騰、証券界の活況を示した。即ち預金、貸付金等は何れも増加を示してゐるのは事業界の活潑な動きを見せた證據と見られるであらう。

種別	金額	前年に比し(△印減)
預金	預金拂戻高	円
	五二〇、七九七、四三九	六二、〇三六、二九二
	五一四、一二五、〇四二	五七、九八五、一三四
	一一七、〇七四、八九二	七、四三六、一三三
貸付金	貸付高	
	一五六、三二八、九二七	一五、四七一、六二二
	一五九、一二九、五六五	二、一二〇、五六八
	五一、七五六、九五四	△一、六五八、九九八

	割引手形	割引高	決清高	年末現在
		三八、五八五、七〇六	三、八七〇、八六八	二、五四一、三六四
		三七、五三一、二三四	二、五四一、三六四	一、〇七一、二八七
		四、六六二、三三五	一、〇七一、二八七	

會社

昭和八年十二月末現在

	農業及水産業 株式	農業及水産業 合資	農業及水産業 合名	鑛業及工業 株式	鑛業及工業 合資	鑛業及工業 合名	商業 株式	商業 合資	商業 合名	水陸運送業 株式	水陸運送業 合資	水陸運送業 合名	計
和歌山	—	—	—	二八	六二	一六	四一	八二	三三	四四	—	—	二七一
新宮	—	—	—	七	—	二	八	七	一	四四	—	—	三三
海草	—	—	—	一四	三	—	五	三	二	四四	一	—	二五
那賀	—	二	—	四四	五	一	五	五	—	二	一	—	二五
伊都	一	一	—	四	八	一	三	一	—	六	—	—	二六
有田	—	—	—	二三	二	一	四	一	—	五	—	—	二六
日高	一	一	—	五	一	三	八	二	一	五	一	—	二七
西牟婁	—	三	一	六	三	一	二	三	一	七	—	—	三六
東牟婁	一	—	—	三四	—	—	一八	—	—	三	一	—	二二
計	四	九	一	八三	八八	二五	八六	二二五	三九	四〇	七	—	四九七

産業組合

昭和八年十二月末現在

	和歌山	新宮	海草	那賀	伊都	有田	日高	西牟婁	東牟婁	計
信用組合	五	一	六	一	二	四	二	二	七	四九
信用購買組合	一	一	七	一八	四	二三	二三	一六	七	七八
信用販賣購買組合	—	—	三	六	四	四	一七	三	七	四三
信用購買利用組合	—	—	二	一	—	一	二	一	—	七
信用販賣購買利用組合	—	—	三	一六	九	二	三	九	八	六九
信用利用組合	—	—	—	—	—	—	—	—	一	一
購買組合	二	三	三	—	—	一	一	四	二	一三
販賣購買組合	一	—	三	—	一	二	—	二	—	一〇
購買販賣利用組合	—	—	一	一	—	—	—	—	二	四
購買利用組合	—	一	—	—	—	—	—	—	一	三
販賣組合	三	一	八	四	二	二	一	一	一	二六
販賣利用組合	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一
利用組合	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一
計	一三	四	三五	四〇	二七	二八	六三	六一	三六	三〇七

交通

概況

山嶽多い爲に比較的陸上の交通不便であつたが伊勢に通ずる省線紀勢鐵道の南進（目下東富田迄開通）に伴れ縣道路線亦逐年增加し縣下の要所々々に自動車の通ずる程度を標準として幅員の一大改修に意を用ひ年と共に其の歩を進めつゝあり之に伴ひ一方乘合自動車の營業が著しく勃興して來たから既設の鐵道、輕便鐵道、電車等を加へて今や縣下各地に向つての陸上交通は昔日の比でない。海上の交通は紀南に向つて沿海各港に日々大阪商船の千六百噸級の急行船と攝陽汽船の百二十噸級の定期船とが寄港して大阪、神戸、名古屋等の連絡を圖るものと今一つ大阪商船の千二百噸級の定期船を以て和歌浦港、小松島港（德島縣）間を神戸、大阪兩港經由して通ふものとがある。

道路

昭和八年十二月現在

國道	六一〇・一粁	市道	六三四・三粁	計	一五、八八一・二粁
縣道	一、七〇八・九	町村道	一三、四七六・九		

鐵道

昭和九年十二月現在

		延長
和歌山線	和歌山市發粉河、橋本、隅田を經て奈良、大阪に至る管内粁程	四七・八粁
紀勢西線	〔和歌山市發湯淺、御坊、田邊を經て西牟婁郡東富田に至る	一一一・六粁
和歌山鐵道	和歌山市(省線東和歌山驛)發山東を經て那賀郡西貴志村に至る	〃 一四・一粁
有田輕便鐵道	有田郡湯淺町發同郡御靈村に至る	〃 九・一粁
紀勢中線	新宮市發同郡勝浦町に至る	〃 一五・五粁

電車

昭和九年十二月現在

		延長
合同電氣鐵道	和歌山市發海南市及び新和歌浦に至る	一六・二粁
南海鐵道	和歌山市發海草郡楠見村を經て大阪に至る	管内粁程 七・八粁
阪和鐵道	〔和歌山市(省線東和歌山驛)發海草郡紀伊村を經て大阪に至る	〃 八・〇粁
南海鐵道高野線	伊都郡九度山町發同郡紀見村を經て大阪に至る	〃 一五・八粁
高野山電氣鐵道	伊都郡九度山町發同郡高野町に至る	延長 一〇・三粁
野上輕便鐵道	海南市發那賀郡小川村に至る	〃 一一・四粁

		延長
加太電氣鐵道	和歌山市發海草郡加太町に至る	九・八粁

乘合自動車

昭和九年十二月現在

	營業者數		營業者數
和歌山市	八	西牟婁郡	八
新宮市	八	東牟婁郡	七
海草郡	二	計	九
南牟婁郡	二		五
日高郡	二		

汽船

昭和九年十二月現在

大阪商船株式會社 急行船	那智丸 牟婁丸	噸 一、二〇〇	〔大阪發和歌山市和歌浦港を經て東牟婁郡勝浦港に至る
大阪發動機船	寶丸外三隻	一一〇	〔大阪發和歌山市和歌浦港を經て德島小松島に至る
攝陽汽船株式會社 定期船	田村丸 第十二共同丸	一、一〇〇	〔大阪發和歌山市和歌浦港東牟婁郡勝浦港を經て名古屋に至る

プロペラー船

(飛行艇) 昭和九年十二月現在

熊野飛行艇株式會社	〔新宮市新宮川口發東牟婁郡本宮村に至る	約五五粁
	〔新宮市新宮川口發東牟婁郡玉置口村に至る	約三九粁

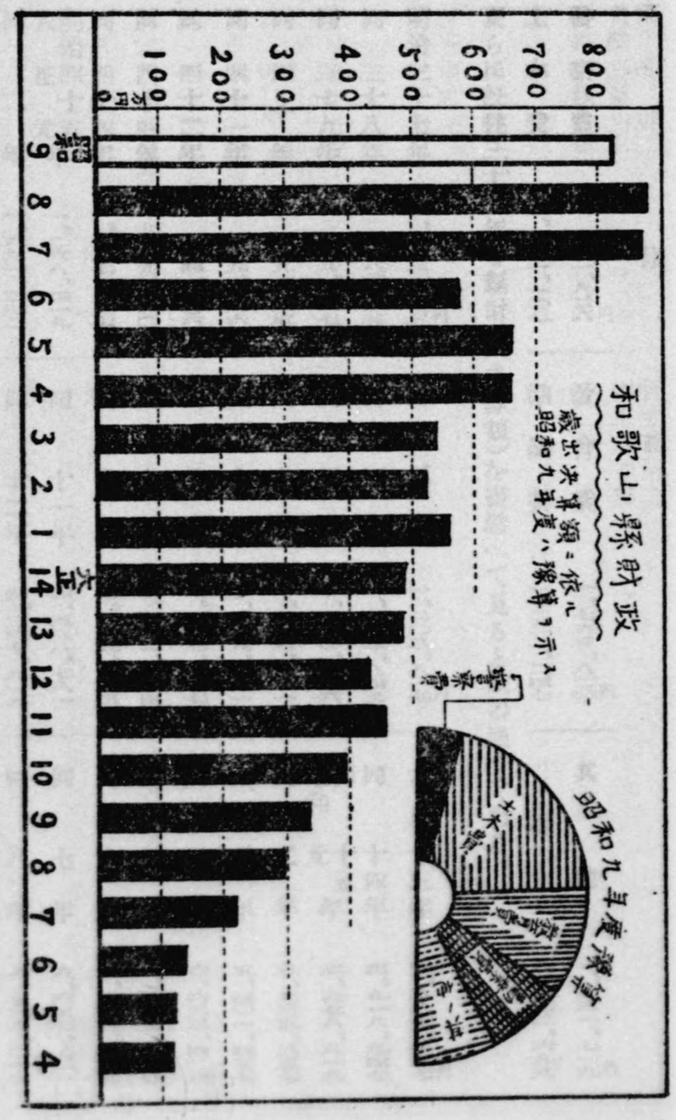
財政

縣の豫算

昭和九年度

昭和八年の通常縣會に昭和九年度の豫算として附議せられた縣歳出通常豫算は經常費二百九十二萬一千九百六十圓、臨時費五百三十五萬七百三十九圓、合計八百二十七萬二千六百九十九圓で昭和八年度の當初豫算に對比して十九萬九千八百九十五圓の增加を示してゐる尙總額を種類別に歩合で表はして見ると土木費は總額の四割五厘を占め敎育費二割一分三厘、勸業費一割四分八厘警察費八分五厘其他一割四分九厘となる。尙昭和十年度本縣豫算總額(通常縣會議決のもの)は七百五十萬六千五百五十三圓である。

歳入				
地租附加税	七八三、五二六円	特別地税	一五六、九一〇円	縣債	一、五一七、一〇〇円
家屋税	五八五、七〇九	營業税	二二三、五三四	雜收入	七四六、九七七
雜種税	七五五、五四二	其ノ他諸税	二〇、三七二	其他	五六三、四二三
所得税附加税	二七六、六七二	寄附金	六四六、〇六三		
營業收益税附加税	二四五、三六六	國庫補助交付並下渡金	一、八六二、五〇五	計	八、二七二、六九九



歳出

警察費	七〇二、八二六円	教育費	一、七六三、八〇〇円
土木費	三、三五二、一〇七	勧業費	一、二三三、二四七
		其他	一、二三一、七一九円
		計	八、二七二、六九九

更らに既往三十ケ年の縣財政（決算額）を書添へて見ると左の通りである。

明治三十七年	一、〇七三、〇七三円	同	三年	一、二〇三、八一七円	大正十三年	四、八八七、一三七円
同	三十八年 七一六、八五五	同	四年 一、一九三、八四三	同	十四年 四、九一八、九四七
同	三十九年 八四九、九六七	同	五年 一、二〇〇、九六六	同 昭和	十五年 五、五七八、八一八
同	四十年 七九九、三六五	同	六年 一、三八八、三二一	同	元年 五、二三五、三五七
同	四十一年 八六九、八八六	同	七年 二、一六九、九四一	同	三年 五、四〇一、四三七
同	四十二年 八五四、一〇六	同	八年 二、九八三、五三七	同	四年 六、六三三、四〇四
同	四十三年 八八九、二〇〇	同	九年 三、三七二、六二四	同	五年 六、六一七、五四〇
同	四十四年 一、二二七、九二七	同	十年 三、九九五、九九三	同	六年 五、八一四、三一三
明治	四十五年 一、〇六八、四一九	同	十一年 四、五八八、七八一	同	七年 八、六五七、七〇一
大正	元年 一、六三一、三七二	同	十二年 四、三四七、八〇五	同	八年 八、七六九、〇二一

道府縣の豫算比較　昭和八年度

通常道府縣會で決議せられた一道三府四十三縣の昭和九年度豫算（通常議會に同時に提案せられた九年度追加豫算を含み特別會計は之を除く）を調べて見ると其の總額は四億九千百八十四萬二百八十三圓となり前年度の之に比し百十七萬六千六百十五圓の增加を示して居る尙之が經費の支出は土木費一割九分三厘、教育費一割七分三厘、警察費一割七分一厘、勸業費一割一分、其の他三割五分三厘といふ割合になつてゐる。

次に總額を道府縣別に見ると東京の五千五百十五萬五千九百六十五圓最も多く之に亞ぐは大阪の二千九百二萬九千六百八十一圓、愛知の二千四百三十三萬七千三百三十三圓、兵庫の二千三百五十萬六千五百四十六圓、福岡、新潟、廣島、京都、靜岡、岐阜、島根、長野、山形、千葉、神奈川は千萬圓を超え他は四百萬圓以上千萬圓未滿の地方多く四百萬圓未滿は奈良、沖繩の二縣である

更に我が和歌山縣の順位如何にと眺めて見ると別表の通り總額に於ての順位は前年度より三位上りの第二十五位を占め費用別にすると

警察費	三十三位	勸業費	十七位
土木費	十位	其他	四十五位
教育費	十六位	總額	二十五位

となつてゐる。

順位	総額	総額（円）	警察費	警察費（円）	土木費	土木費（円）	教育費	教育費（円）	勧業費	勧業費（円）	其
一	東京	五五、一五五、九六五	東京	三、一一四、九二六	東京	一五、一六九、六三九	東京	七、六二八、四九六	愛知	三、七二五、七一二	東京
二	大阪	二九、〇二九、六八一	大阪	八、七一三、九四九	岐阜	六、一七七、二四二	福岡	五、一一八、一八七	長野	二、三三七、一九五	大阪
三	愛知	二四、三三七、三三三	兵庫	四、二三四、四五四	福岡	五、五六六、〇九六	大阪	四、二五一、八九四	静岡	二、二五一、一六四	兵庫
四	兵庫	二三、五〇六、五四六	愛知	三、三五七、四一九	愛知	五、四九六、六五六	愛知	三、五九〇、六六二	新潟	二、一〇九、〇七二	廣島
五	福岡	一九、八七〇、〇〇〇	福岡	三、三四四、一五五	大阪	五、三四八、六七〇	兵庫	三、四〇九、〇九〇	兵庫	二、〇四六、〇九七	愛知
六	新潟	一五、二〇八、九八六	神奈川	二、八九七、六九〇	兵庫	五、一一〇、一七八	静岡	三、〇二四、七八九	千葉	一、九三七、二四〇	栃木
七	廣島	一四、五一一、七一八	京都	二、八四三、四九二	群馬	四、一七五、七三三	京都	二、九三六、六五八	宮城	一、九三二、四一二	島根
八	京都	一四、一四三、四一六	北海道	二、六四一、四三二	山形	三、九四〇、九八四	廣島	二、七四三、五六五	山形	一、九〇四、八七〇	新潟
九	岐阜	一三、八二六、二七三	廣島	一、七〇九、八二〇	京都	三、三八三、二四三	北海道	二、三二一、〇八六	福岡	一、八一四、八五四	福島
一〇	静岡	一三、一三四、八九六	新潟	一、五三一、八二一	和歌山	三、三五二、一〇七	鹿児島	二、二三〇、六九三	富山	一、四九二、七六六	長野
一一	島根	一一、五七〇、二五八	長野	一、三八一、五七一	新潟	三、一八四、六〇四	埼玉	二、〇三八、三〇一	大阪	一、四五八、七七二	熊本
一二	長野	一〇、五三四、一三〇	静岡	一、三二一、六四三	富山	二、八四四、一〇八	愛媛	一、九一四、四二〇	京都	一、三九九、二三〇	福岡
一三	山形	一〇、四四四、三四七	岡山	一、二八八、七三七	千葉	二、六七一、一二四	茨城	一、九〇四、四九六	熊本	一、三八四、三一九	山口
一四	千葉	一〇、〇七九、九七三	岐阜	一、一八一、八八一	島根	二、四四八、九六二	新潟	一、八五九、七五〇	青森	一、三二九、二四九	岡山
一五	神奈川	一〇、〇六二、〇七一	長崎	一、一六七、三九一	静岡	二、三七一、一九三	神奈川	一、八〇四、三七一	神奈川	一、三二五、九八二	宮城
一六	北海道	九、九八七、八一九	千葉	一、一五六、五五五	岡山	二、一〇〇、六六四	和歌山	一、七六三、八〇〇	愛媛	一、二八一、六五七	埼玉
一七	福島	九、九三五、〇四七	埼玉	一、一三五、〇三〇	滋賀	二、〇二一、一〇一	長野	一、七二四、二四二	和歌山	一、二三三、二四七	京都
一八	群馬	九、九一二、六八九	山口	一、一二五、五二九	佐賀	一、九八九、四四八	佐賀	一、六八六、〇七六	岐阜	一、一五九、三八一	神奈川
一九	岡山	九、七九二、〇九〇	茨城	一、〇七七、一一九	三重	一、三九〇、八六五	山形	一、六七三、二三七	島根	一、一三五、五七五	石川
二〇	富山	九、七一七、七七一	三重	一、〇六九、〇〇四	福島	一、一二九、三〇八	富山	一、六五一、三二八	三重	一、一二九、五二一	北海道
二一	栃木	九、五七五、一七九	熊本	九八二、二三〇	青森	一、〇四九、七七三	熊本	一、五七四、二三五	秋田	一、一〇七、一〇四	三重
二二	埼玉	八、八二六、〇七五	愛媛	九一三、四一九	埼玉	一、〇〇七、八九四	岡山	一、五一六、五七二	佐賀	一、〇九七、二四二	千葉
二三	熊本	八、五四九、〇九三	福島	九〇七、七六〇	徳島	九六九、四三六	岐阜	一、五〇四、五九〇	岡山	一、〇八四、八五二	静岡
二四	三重	八、三三九、四九七	鹿児島	八九三、七七二	廣島	九四二、一九四	山口	一、四九八、九〇八	埼玉	一、〇二三、〇一三	茨城
二五	和歌山	八、二七二、六九九	群馬	八六六、〇四六	大分	九一六、七〇二	三重	一、四七二、二八三	岩手	一、〇一一、四〇三	群馬
二六	宮城	八、二一四、五一一	栃木	八二八、九二八	鹿児島	八二三、四八三	徳島	一、四五三、九六七	滋賀	一、〇〇五、九〇三	富山
二七	茨城	七、六三三、四六五	大分	八二七、九七四	宮城	七六二、四五三	宮崎	一、三三八、四二四	東京	九六八、九六七	鳥取
二八	山口	七、五七一、八一〇	富山	七八六、九四一	茨城	七三七、六八八	岩手	一、三一三、九一二	宮崎	九四九、四九〇	香川
二九	鹿児島	七、〇三二、四五一	山形	七六四、四八六	福井	七二一、一一七	長崎	一、二五四、九一五	群馬	九二五、二一一	岐阜
三〇	愛媛	六、四七七、三〇四	石川	七四六、〇四二	北海道	七一八、五一八	大分	一、二三一、三六四	北海道	九〇〇、一一九	秋田
三一	滋賀	六、四七二、一三三	宮城	七四四、〇一〇	愛媛	六三六、七八八	福島	一、一四九、三〇九	長崎	八八六、八〇八	大分
三二	大分	六、三七三、三五九	佐賀	七一四、三〇二	栃木	六五六、二八四	千葉	一、〇八四、〇六一	茨城	八八〇、五七四	福井
三三	佐賀	六、三二八、六九一	和歌山	七〇二、八二六	長野	六〇〇、二三九	青森	一、〇五八、八五〇	大分	七四六、〇二〇	鹿児島
三四	青森	六、二二九、一三二	滋賀	六八九、〇四八	神奈川	五六六、八七二	宮城	一、〇四六、一四六	廣島	七三九、九七七	徳島
三五	徳島	五、九三〇、九〇五	福井	六八〇、三五四	熊本	四八九、〇五九	福井	一、〇二四、七七四	福島	七一〇、二九一	青森
三六	石川	五、九一四、二六七	秋田	六六〇、二九〇	高知	四七七、六七三	群馬	一、〇〇〇、七〇九	山口	六九八、二一九	山形
三七	長崎	五、八二九、六四八	宮崎	六一三、四三二	岩手	三九二、〇九〇	山梨	九九六、五三八	徳島	六五九、三六二	長崎
三八	秋田	五、六八三、六二六	奈良	六一三、九二九	宮崎	三六五、五六九	栃木	九七五、六三四	福井	六一〇、六四四	宮崎
三九	福井	五、五九四、四六〇	香川	六〇六、七八二	長崎	三六二、七九四	高知	九五五、一三五	石川	五七〇、八四二	高知
四〇	宮崎	五、四一九、九五〇	徳島	六〇一、八七二	秋田	三四九、九一七	滋賀	九〇二、〇〇三	沖縄	五六一、三二一	山梨
四一	鳥取	四、八七七、九八〇	山梨	五九三、九三一	山口	三三九、一七四	鳥取	八九五、三七八	鹿児島	五四五、〇七六	奈良
四二	香川	四、七八九、二五八	青森	五九二、七四一	香川	二九五、三六五	石川	八六〇、九五六	山梨	五四二、三八七	滋賀
四三	岩手	四、六〇一、〇七九	高知	五六五、三三〇	石川	二七五、六六五	秋田	八五六、九八九	鳥取	五二四、四五八	愛媛
四四	高知	四、四六一、七一〇	岩手	五五六、〇〇七	奈良	二六二、八一五	香川	八一五、四八四	高知	四二四、五八六	岩手
四五	山梨	四、三四八、七九九	島根	五四九、〇三七	山梨	二一六、八四八	島根	八一四、二一〇	香川	三三三、一三六	和歌山
四六	奈良	三、八一八、九三一	鳥取	三九二、四〇二	鳥取	二〇四、〇六九	奈良	七九六、六〇九	栃木	二一六、二六四	佐賀
四七	沖縄	一、九四四、二六三	沖縄	三二八、五八一	沖縄	九七、七九五	沖縄	四三二、一二〇	奈良	一七八、五二二	沖縄
合計		四九一、八四〇、二八三		八四、〇二三、一三二		九五、〇八〇、一九九		八五、〇八九、二〇六		五四、一五八、二〇六	
平均		一〇、四六四、六八七		一、七八七、五一三		二、〇二二、九八三		一、八一〇、四〇九		一、一五二、三〇二	

察費

	金額（円）
	二三、一一四、九二六
	八、七一三、九四九
	四、二三四、四五四
	三、三五七、四一九
	三、三四四、一五五
	二、八九七、六九〇
	二、八四三、四九二
	二、六四一、四三二
	一、七〇九、八二〇
	一、五三二、八二一
	一、三八一、五七一
	一、三二一、六四三
	一、二八八、七三七
	一、一八一、八八一
	一、一六七、三九一
	一、一五六、五五五
	一、一三五、〇三〇
	一、一二五、五二九
	一、〇七七、一一九
	一、〇六九、〇〇四
	九八二、二三〇
	九一三、四一九
	九〇七、七六〇
	八九三、七七二
	八六六、〇四六
	八二八、九二八
	八二七、九七四
	七八六、九四一
	七六四、四八六
	七四六、〇四二
	七四四、〇一〇
	七二四、三〇二
	七〇二、八二六
	六八九、〇四八
	六八〇、三五四
	六六〇、二九〇
	六一三、四三二
	六一三、九二九
	六〇六、七八二
	六〇一、八七二
	五九三、九三一
	五九二、七四一
	五六五、三三〇
	五五六、〇〇七
	五四九、〇三七
	三九二、四〇二
	三三八、五八一
	八四、〇一三、一三三
	一、七八七、五一三

土木費

府県	金額（円）
東京	一五、一六九、六三九
岐阜	六、一七七、二四二
福岡	五、五六六、〇九六
愛知	五、四八六、六五六
大阪	五、三四八、六七〇
兵庫	五、一一〇、一七八
群馬	四、一七五、七三三
山形	三、九四〇、九八四
京都	三、三八三、二四三
和歌山	三、三五二、一〇七
新潟	三、一八四、六〇四
富山	二、八四四、一〇八
千葉	二、六七一、一二四
島根	二、四四八、九六二
静岡	二、三七一、一九三
岡山	二、一〇〇、六六四
滋賀	二、〇二一、一〇一
佐賀	一、九八九、四四八
三重	一、三九〇、八六五
福島	一、一二九、三〇八
青森	一、〇四九、七七三
埼玉	一、〇〇七、八九四
徳島	九六九、四三六
廣島	九四二、一九四
大分	九一六、七〇二
鹿兒島	八二三、四八三
宮城	七六二、四五三
茨城	七三七、六八八
福井	七二一、一一七
北海道	七一八、五一八
愛媛	六三六、七八八
栃木	六三六、二八四
長野	六〇〇、二三九
神奈川	五六六、八七二
熊本	四八九、〇五九
高知	四七七、六七三
岩手	三九二、〇九〇
宮崎	三六五、九六九
長崎	三六二、七九四
秋田	三四九、九一七
山口	三三九、一七四
香川	二九五、三六五
石川	二七五、六六五
奈良	二六二、八一五
山梨	二一六、八四八
鳥取	二〇四、〇六九
沖繩	九七、七九五
	九五、〇八〇、一九九
	二、〇二二、九八三

教育費

府県	金額（円）
東京	七、六二八、四九六
福岡	五、一一八、一八七
大阪	四、二五一、八九四
愛知	三、五九〇、六六二
兵庫	三、四〇九、〇九〇
静岡	三、〇二四、七八九
京都	二、九三六、六五八
廣島	二、七四三、五六五
北海道	二、三三一、〇八六
鹿兒島	二、二三〇、六九三
埼玉	二、〇三八、三〇一
愛媛	一、九一四、四二〇
茨城	一、九〇四、四九六
新潟	一、八五九、七五〇
神奈川	一、八〇四、三七一
和歌山	一、七六三、八〇〇
長野	一、七二四、二四二
佐賀	一、六八六、〇七六
山形	一、六七三、二三七
富山	一、六五一、三二八
熊本	一、五七四、二三五
岡山	一、五一六、五七二
岐阜	一、五〇四、五九〇
山口	一、四九八、九〇八
三重	一、四七二、二八三
徳島	一、四五三、九六七
宮崎	一、三三八、四二四
岩手	一、三一三、九一二
長崎	一、二五四、九一五
大分	一、二三一、三六四
福島	一、一四九、三〇九
千葉	一、〇八四、〇六一
青森	一、〇五八、八五〇
宮城	一、〇四六、一四六
福井	一、〇二四、七七四
群馬	一、〇〇〇、七〇九
山梨	九九六、五三八
栃木	九七五、六三四
高知	九五五、一三五
滋賀	九〇二、〇〇三
鳥取	八九五、三七八
石川	八六〇、九五六
秋田	八五六、九八九
香川	八一五、四八四
島根	八一四、二一〇
奈良	七九六、六〇九
沖繩	四三二、一三〇
	八五、〇八九、二〇六
	一、八一〇、四〇九

勸業費

府県	金額（円）
愛知	三、七二五、七一二
長野	二、三二七、一九五
静岡	二、二五一、一六四
新潟	二、一〇九、〇七二
兵庫	二、〇四六、〇九七
千葉	一、九三七、二四〇
宮城	一、九三二、四二二
山形	一、九〇四、八七〇
福岡	一、八一四、八五四
富山	一、四九二、七六六
大阪	一、四五八、七七二
京都	一、三九九、二三〇
熊本	一、三八四、三一九
青森	一、三二九、二四九
神奈川	一、三二五、九八二
愛媛	一、二八一、六五七
和歌山	一、二三三、二四七
岐阜	一、一五九、三八一
島根	一、一三五、五七五
三重	一、一三九、五二一
秋田	一、一〇七、一〇四
佐賀	一、〇九七、二四二
岡山	一、〇八四、八五二
埼玉	一、〇二三、〇一三
岩手	一、〇一一、四〇三
滋賀	一、〇〇五、九〇三
東京	九六八、九六七
宮崎	九四九、四九〇
群馬	九二五、二一一
北海道	九〇〇、一一九
長崎	八八六、八〇八
茨城	八八〇、五七四
大分	八四六、〇二〇
廣島	七三九、九七七
福島	七一〇、二九一
山口	六九八、二一九
徳島	六五九、三六二
福井	六一〇、七六四
石川	五七〇、八四二
沖繩	五六一、三二一
鹿兒島	五四五、〇七六
山梨	五四二、三八七
鳥取	五二四、四五八
高知	四二四、五八六
香川	二三三、一三六
栃木	二一六、二六四
奈良	一七八、五一三
	五四、一五八、二〇六
	一、一五二、三〇二

其ノ他

府県	金額（円）
東京	九、二七三、九三七
大阪	九、二五六、三九六
兵庫	八、七〇六、七二七
廣島	八、三七六、一六二
愛知	八、一六六、八八四
栃木	六、九一八、〇六九
島根	六、六二三、四七四
新潟	六、五二三、七三九
福島	六、〇三八、三七九
長野	四、四九〇、八八三
熊本	四、一一九、二五〇
福岡	四、〇二六、七〇八
山口	三、九一九、九八〇
岡山	三、八〇一、二六五
宮城	三、七二九、四九〇
埼玉	三、六二一、八六七
京都	三、五八〇、七九三
神奈川	三、四六七、一五六
石川	三、四六〇、七六二
北海道	三、四〇六、六六四
三重	三、二七七、八二四
千葉	三、二三〇、九九三
静岡	三、一五六、一〇七
茨城	三、〇二三、五八八
群馬	二、九四四、九九〇
富山	二、九四二、六二八
鳥取	二、八六一、六七三
香川	二、八四九、五〇一
岐阜	二、八〇三、一七九
秋田	二、七〇九、三二六
大分	二、六六一、二九九
福井	二、五五七、四五一
鹿兒島	二、五三九、四二七
徳島	二、二四六、二六八
青森	二、一九八、五一九
山形	二、一六〇、七七〇
長崎	二、一五七、七四〇
宮崎	二、一五五、〇三五
高知	二、〇三八、九九六
山梨	一、九九九、〇九五
奈良	一、九六八、〇六六
滋賀	一、八五四、〇七七
愛媛	一、七三一、〇二〇
岩手	一、三二七、六六七
和歌山	一、二三一、七一九
佐賀	八四一、六三三
沖繩	五二四、四四六
	一七三、四九七、五八二
	三、六九一、四三八

租税負擔の狀況

八十六萬縣民が一ケ年に納める租税の總額を昭和八年度の決算に就て調べて見ると直接國税二百十三萬四千九百五十七圓、縣税二百八十八萬七百十一圓、市町村税三百六十萬七千五百二十四圓(當初豫算)合計八百六十二萬三千百九十二圓となり之を一戸當りと一人當りの負擔として見ると左の通りとなり縣税の外は何れも前年度より增加して居る。

	一戸當り	一人當り	前年度に比し增減(△印減) 一戸當り	前年度に比し增減(△印減) 一人當り
直接國税	二三・〇三円	二・四九円	△・八九円	△一・二五円
縣税	一六・二三	三・三六	△・三九	△・三
市町村税	二〇・三三	四・三四	・九七	・二九
計	四八・五九	一〇・一九	一・二八	・三二

尙租税負擔一戸當りと一人當りを郡市別に見ると左の通りとなつて居る。

	一戸當り 國税	縣税	市町村税	計	一人當り 國税	縣税	市町村税	計
和歌山	二三・六三円	二〇・五七円	二五・七五円	六八・九五円	四・八二円	四・三八円	五・七六円	一四・九六円

新宮	一八・三八	一五・二四	一	三三・六二	四・三一	三・五七	一	七・八八
海草	一一・〇三	一七・四五	一六・九七	四五・四五	二・二二	三・五二	三・六三	九・三七
那賀	九・五七	一六・七一	一九・五九	四五・八七	一・九六	三・四三	四・〇九	九・四八
伊都	六・〇二	二二・九〇	一九・六二	三八・五四	一・二三	二・六三	四・〇八	七・九四
有田	八・六七	一五・二一	二〇・三二	四四・二〇	一・七一	三・〇〇	四・一五	八・八六
日高	九・七七	一四・五三	一九・四六	四三・七六	一・九七	二・九三	四・〇八	八・九八
西牟婁	九・二五	一四・一〇	二二・〇二	四五・三七	一・九五	二・九八	四・七二	九・六五
東牟婁	五・六七	一三・七一	一九・三七	三八・七五	一・二一	二・九三	四・三一	八・四五
計	一二・〇三	一六・二三	二〇・三三	四八・五九	二・四九	三・三六	四・三四	一〇・一九

備考　一戸當りは國調の世帶數を用ひ一人當りは國調の數字を用ひたり

村税の一戸當り一人當りは八年十月一日の推計人口による但し市町

更に我が縣が此の租税負擔に就て道府縣中如何なる地位にあるかを昭和七年に付て調べて見る

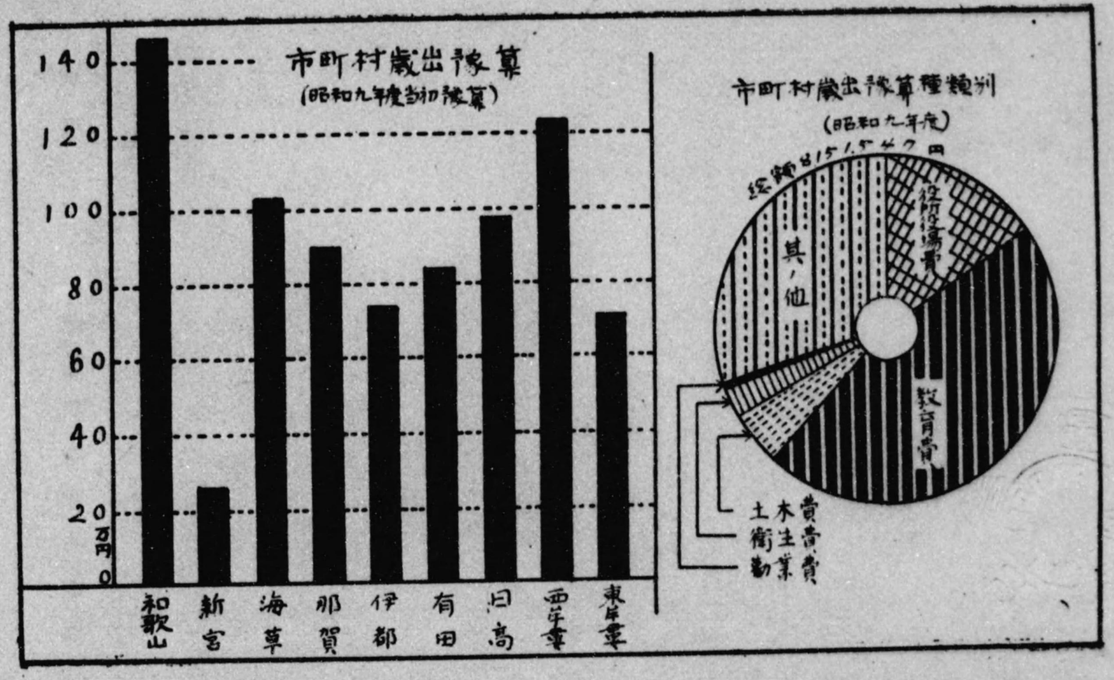
と別表の通り總額に於て第三十位を占め前年度より二位上つて居る。

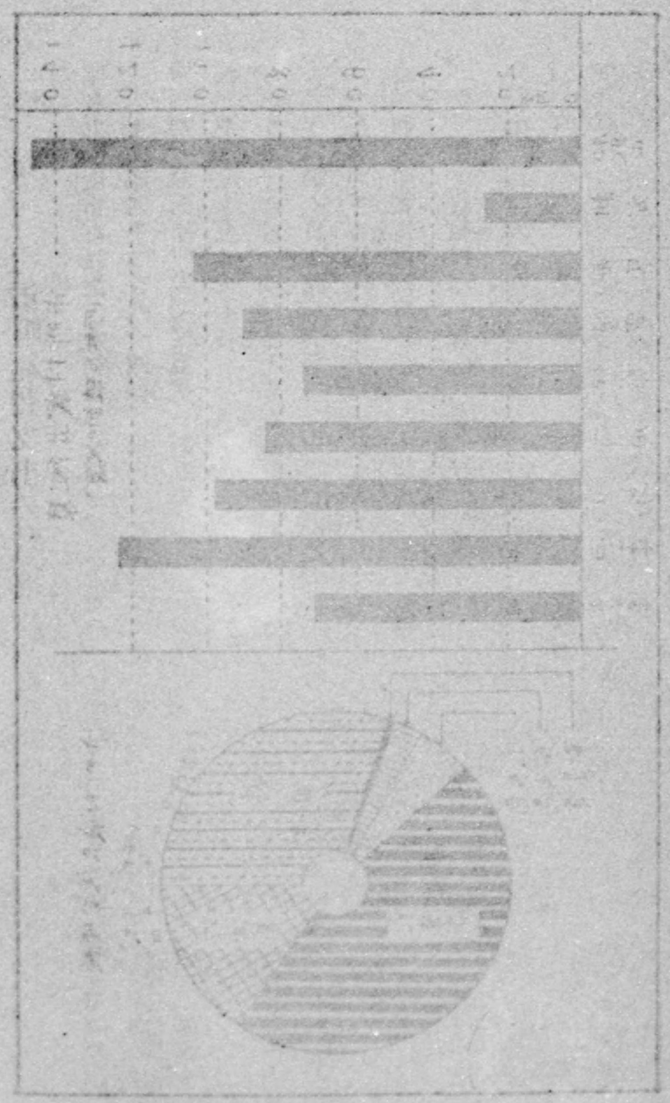
道府縣の租税負擔の狀況

昭和七年度決算

順位	道府縣名	一人當負擔額	一人當負擔額	一人當負擔額	一人當負擔額	一人當負擔額	一人當負擔額	一人當負擔額	一人當負擔額	一人當負擔額	一人當負擔額	一人當負擔額	一人當負擔額
		總額	直接國税	道府縣税	市町村税	總額	直接國税	道府縣税	市町村税	總額	直接國税	道府縣税	市町村税
						千円	千円	千円	千円	円	円	円	円
一	東京	二〇・一一	一三・〇三	二・二六	六・九二	二二五、九八五	一四、〇六一	二六、七一四	一一、一二一	二〇・一一	一三・〇三	二・二六	六・九二
二	大阪	一九・六一	一九・八八	一七・〇〇	一・六八	七三、一二六	四七、〇七〇	二五、〇〇八	二〇、一六二	一九・六一	一九・八八	一七・〇〇	一・六八
三	石川	一七・八六	一三・五六	一六・〇〇	一・八六	一三、一二六	一三、五六一	一六、〇〇八	一、八六一	一七・八六	一三・五六	一六・〇〇	一・八六
四	兵庫	一九・九六	一二・九二	一六・四二	二・五四	一六、四二七	一二、九二四	一六、四二七	二、五四七	一九・九六	一二・九二	一六・四二	二・五四
五	京都	二〇・八六	一三・八六	一六・〇〇	二・八六	一六、〇〇〇	一三、八六〇	一六、〇〇〇	二、八六〇	二〇・八六	一三・八六	一六・〇〇	二・八六
六	三重	二〇・九六	一三・九六	一六・四二	二・五四	一六、四二七	一三、九六〇	一六、四二七	二、五四七	二〇・九六	一三・九六	一六・四二	二・五四
七	神奈川	二〇・八八	一三・八八	一六・〇〇	二・八八	一六、〇〇〇	一三、八八〇	一六、〇〇〇	二、八八〇	二〇・八八	一三・八八	一六・〇〇	二・八八
八	滋賀	二〇・三五	一三・五三	一六・七四	二・九一	一六、七四五	一三、五三〇	一六、七四五	二、九一〇	二〇・三五	一三・五三	一六・七四	二・九一
九	奈良	二〇・五五	一三・五五	一六・四六	二・〇六	一六、四六〇	一三、五五〇	一六、四六〇	二、〇六〇	二〇・五五	一三・五五	一六・四六	二・〇六
一〇	富山	二〇・九四	一三・〇一	一六・〇二	二・〇一	一六、〇二〇	一三、〇一〇	一六、〇二〇	二、〇一〇	二〇・九四	一三・〇一	一六・〇二	二・〇一
一一	岡山	二〇・五三	一三・五三	一六・四四	二・〇一	一六、四四〇	一三、五三〇	一六、四四〇	二、〇一〇	二〇・五三	一三・五三	一六・四四	二・〇一
一二	静岡	二〇・九一	一三・〇一	一六・四五	二・二七	一六、四五七	一三、〇一〇	一六、四五七	二、二七〇	二〇・九一	一三・〇一	一六・四五	二・二七
一三	福岡	二〇・九四	一三・五三	一六・四六	二・〇六	一六、四六〇	一三、五三〇	一六、四六〇	二、〇六〇	二〇・九四	一三・五三	一六・四六	二・〇六
一四	山口	二〇・七五	一三・四四	一六・四四	二・二八	一六、四四二	一三、四四〇	一六、四四〇	二、二八〇	二〇・七五	一三・四四	一六・四四	二・二八
一五	廣島	二〇・六四	一三・〇一	一六・四三	二・二七	一六、四三七	一三、〇一〇	一六、四三〇	二、二七〇	二〇・六四	一三・〇一	一六・四三	二・二七
一六	山口	二〇・五五	一三・五五	一六・四六	二・〇六	一六、四六〇	一三、五五〇	一六、四六〇	二、〇六〇	二〇・五五	一三・五五	一六・四六	二・〇六
一七	福岡	二〇・四六	一三・四六	一六・四二	二・二五	一六、四二五	一三、四六〇	一六、四二〇	二、二五〇	二〇・四六	一三・四六	一六・四二	二・二五
一八	佐賀	二〇・七一	一三・五六	一六・〇五	二・一二	一六、〇五四	一三、五六〇	一六、〇五〇	二、一二〇	二〇・七一	一三・五六	一六・〇五	二・一二
一九	長崎	二〇・八二	一三・一二	一六・〇七	二・二四	一六、〇七四	一三、一二〇	一六、〇七〇	二、二四〇	二〇・八二	一三・一二	一六・〇七	二・二四
二〇	熊本	二〇・七五	一三・七五	一六・〇四	二・二七	一六、〇四七	一三、七五〇	一六、〇四〇	二、二七〇	二〇・七五	一三・七五	一六・〇四	二・二七
二一	大分	二〇・九五	一三・九五	一六・〇五	二・二四	一六、〇五四	一三、九五〇	一六、〇五〇	二、二四〇	二〇・九五	一三・九五	一六・〇五	二・二四
二二	宮崎	二〇・五五	一三・五五	一六・〇五	二・二四	一六、〇五四	一三、五五〇	一六、〇五〇	二、二四〇	二〇・五五	一三・五五	一六・〇五	二・二四
二三	鹿児島	二〇・四五	一三・四五	一六・〇四	二・二四	一六、〇四五	一三、四五〇	一六、〇四〇	二、二四〇	二〇・四五	一三・四五	一六・〇四	二・二四
二四	沖縄	二〇・三三	一三・三三	一六・〇三	二・二三	一六、〇三三	一三、三三〇	一六、〇三〇	二、二三〇	二〇・三三	一三・三三	一六・〇三	二・二三
平均	合計	二〇・一六	一三・〇三	一六・〇三	二・二三	一六、〇九一、〇三三	一三、〇三一、〇三三	一六、〇三一、〇三三	二、二三一、〇三三	二〇・一六	一三・〇三	一六・〇三	二・二三

備考　山形縣ハ昭和六年度決算ノ事實ヲ示ス


市町村歳出豫算
(昭和九年度追加豫算)
140
120
100
80
60
40
20
0
万円
和歌山
新宮
海草
那賀
伊都
有田
日高
西牟婁
東牟婁
市町村歳出豫算種類別
(昭和九年度)
其ノ他
教育費
土木費
衛生費
勸業費



市町村費支出の狀況

昭和九年度豫算

昭和九年度市町村歳出當初豫算を調べて見る其の總額は八百十五萬千五百四十七圓で前年度よりは二十六萬四千二百八十四圓、歩合にして三分一厘の減となつて居る。次に費目別の割合は教育費四割六分三厘、役所役場費一割五分二厘、土木費五分一厘、衛生費二分六厘、勸業費五厘、其他三割三厘となつてゐる。

今之を五十年前の明治十七年度決算と對比して見ると二十六倍弱の增加となり膨脹程度は明治三十九年に漸く百萬圓を突發したのであつたが大正八年には一躍四百萬圓臺に上り爾來市町村民の福利を增進する爲に漸次增額されて居る。

尙昭和九年度支出豫算を郡市別に調べて見ると左の通りとなつて居る。

郡市	歳出總額	教育費	役所役場費	土木費	衛生費	勸業費	其ノ他
和歌山	一、四七一、〇七二円	六九五、六七一円	一七五、四三二円	一七、六七九円	七七、八四〇円	九、二五六円	三九五、一九四円
新宮	二六一、一七七	一二六、三〇八	三九、一九二	一二、二五〇	二、八六九	八〇〇	八一、七五八
海草	一、〇三〇、四八九	四四〇、三八八	一七三、一五四	五九、一九一	二九、五〇四	二、一五六	三二六、〇九六
那賀	九〇四、三二一	四一八、二七七	一四七、九四六	三九、六八五	一一、〇六九	一六、五三七	二七〇、八〇七

伊都	七三四、九二〇	三七八、〇四〇	一〇九、〇三六	三九、〇四七	一三、八七二	二三三	一九四、六九三				
有田	八三八、六三三	三七九、二二三	一二四、三二六	三七、五三九	七、一六八	三、五四一	二九六、八六六				
日高	九七九、二〇八	四三九、七七九	一五五、八一五	三三、七二二	一八、七九四	二、三七五	三三八、七三三				
西牟婁	一、二二三、二四九	五七四、六五七	一九九、一九〇	三八、三三八	三〇、一五九	三、五七七	三七七、三二八				
東牟婁	七〇八、四五八	三三一、二二七	二七、二七三	三七、四七三	一一、七五二	二、〇七八	一九八、六六五				
合計	八、一五一、五四七	三、七七三、五六〇	一、二四一、三五四	四一三、九一四	二二三、〇三七	四〇、五五二	二、四七〇、一四〇				

警察

巡査配置の狀況

昭和八年末に於ける人民保護の任務に服せらるゝ巡査配當の狀況は左の通りである。

昭和八年末現在

郡市別	巡査配置數	巡査一人當り受持 戸數	巡査一人當り受持 人口
和歌山	一〇五人	三二戸	一、三八一人
新宮	三三	二八六	一、二〇二
海草	七三	三三三	一、六〇〇
那賀	六一	三一四	一、五四三
伊都	五三	四七	一、四五〇
有田	四四人	三三八戸	一、六四三人
日高	五八	三三九	一、六〇九
西牟婁	六八	三三一	一、五二五
東牟婁	四九	三二九	一、一五五
計	五三一	四五六	二、一六〇

犯罪

昭和八年

昭和八年殺人、强盜、及傷、放火、恐喝、窃盜等良民の夢を破り或は驚愕せしむる嫌な事件は縣下に於て一ケ年に一萬一千百四十六件、一日平均三十一件の割で起る勘定となつて居る。而して之等の恐ろしい事件の内で窃盜が四千七百九十件、一日平均十三件餘もある。次に殺人、强盜及傷、放火等殺伐の氣を帶びた事件は五百四十三件、一日平均一件餘は必ず縣下の何處かで起る計算となつて居る。

之を前年の犯罪數に對比すると總數に於て一千六百九十五件多く其の内の大部分は和歌山、田邊兩署管内に於て增加してゐる。

而して之等忌はしい事件を警察署の區域に分けて調べて見ると生存競爭の最も激甚な和歌山署管内は四千三百七十一件、全体の三割九分に當る事件が發生し次は新宮警察署の一千六百八十八件となり田邊警察署管内の六百六十二件、之に次ぎ本宮警察署管内は僅かに四十四件で最も犯罪少なく高野警察署東野上警察署の管内は本宮警察署の管内に次いでゐる。

窃盜	四、七九〇件	賭博	三〇九件	强盜	二七件
詐欺	一、四三九	有價證券僞造	四六	其他	二、八三八
恐喝	一、一六七	殺人	三二	計	一一、一四六
横領	四六六	猥褻姦淫	三二		
傷					

火災

建築物だけの火災を既往十ヶ年間に就て調べて見ると左表の通りで十ヶ年を通じて一番損害の大きかつた年は四百五十三萬圓餘で一番損害の少なかつた年でも二十六萬一千圓餘一ヶ年平均九十萬圓の貴重なる財産を灰にして終ふた結果となつて居る。

尙既往十ヶ年の火災度數を平均して見ると毎年百四十八件は定つた樣に起る勘定となつて居るが其内で約九割といふものは不注意に基く失火である表中番狂せ的な一番大きな損害のあつた大正十五年の火災は彼の天下の人々を驚かした高野山の金堂が燒失した爲である。

	度數	内失火度數	損害高
大正十三年	一〇九	一〇一	二六一、二二五円
同十四年	一三四	一三一	四〇一、八九六
大正十五年	二三四	二〇六	四、五三〇、〇〇九
昭和元年			
昭和二年	一二九	一〇〇	八三三、二五一
同三年	一三七	一二九	二七五、一九二
昭和四年	一三九	一三	四七〇、六六〇円
同五年	一二三	九七	三六九、五七二
同六年	一四二	一四二	三三三、五九九
同七年	一四五	一二	一、〇一三、六一六
同八年	一九五	一六二	四八八、一一〇

衛生

概況

縣下に於ける昭和八年末現在の醫師（齒科醫を除く）の數は五百四十人で醫師一人につき人口千四百三十九人の割となつてゐる。次に産婆は九百六十四人で女子の年齢十八歳以上四十歳迄の數に割當て、見ると一人の産婆が百三十四人餘の婦女子を擔當する計算となつてゐる。

更に傳染病の關係を調べて見ると昭和八年中には患者總數千二百八十一人で内死亡者二百五十五人となり五人に一人づゝ死んだ勘定となつて居る更に病氣の種類別に見ると腸チフス患者が七百六十人内死亡者百三十五人でヂフテリヤ患者の二百八十二人内死亡者三十九人之に次ぎ以下赤痢、パラチブス、猩紅熱等の順になつてゐる。

尙本縣に於ける既往十ヶ年の傳染病流行の狀況を調べて見ると一ヶ年平均患者八百三十六人、死亡者平均百八十九人となり恐しい勢で傳染する傳染病でも廣い縣下を通じては毎年殆ど申し合したやうな結果となつて居る。

醫師、藥劑師、産婆、看護婦　昭和八年末現在

	醫師	齒科醫師	藥劑師	産婆	看護婦
郡市別					
和歌山	一七九	六八	一三	二六五	四七七
新宮	三〇	一九	三	六六	七一

海草	五七	一八	三	一二	八一						
那賀	四三	一五	一三	九七	三三						
伊都	四二	一〇	一六	八七	三六						
有田	三九	一五	九	六〇	四一						
日高	四八	一九	一三	九六	六六						
西牟婁	六四	一三	一一	一〇四	四五						
東牟婁	三八	一〇	二七	六四	二						
計	五四〇	二〇七		九六四	八七〇						

傳染病

昭和八年

	赤痢患者	腸窒扶斯患者	ヂフテリヤ患者	パラチブス患者	猩紅熱患者	流行性腦脊髓膜炎患者	計
和歌山市	三三	一九六	一〇	一四	一四	一	二七八
新宮	四	四	一				
海草	一〇	一三〇	二五	二	一三	三	一五三
那賀	三	二六	一三	三	五		
伊都	四	三五	三三	一		一	四四
有田	一	四〇	三九	一			九七
日高	三五	二〇一	三四	一七			二六一

西牟婁	二五	六二	五九	一七	二		一六五
東牟婁	七	三	六九	三	二	一	一八二
計	一八二	七〇六	二八二	六九	三六	六	一、二八一

健康保險

概況

縣下に於ける政府が管掌する健康保險法適用の工場鑛山數は六百九十七被保險者數は一萬八千七十二人（以上昭和九年三月末日現在）にして被保險者中昭和七年度中に病に罹りたる者の罹病總日數は五十三萬一千七百二十六日内休業十一萬三千七百十四日となり被保險者全部が一年を通じて二十九日强醫者にかゝり六日强の割合で休業した勘定となり罹病の歩合は業務に起因するものは僅かに六分九厘で九割三分一厘は業務に起因せざるものとなつて居る。

次に昭和八年四月より九年三月迄の一ヶ年間に於ける保險給付の狀況を調べて見ると給付費は二十二萬五千百五十三圓で被保險者一人當りに對し十二圓六十二錢の割で支出し内醫療費には六割五分を支出して居る勘定となつて居る。

被保險者數　昭和九年三月末現在

種別	工場數	被保險者數
工場	六八八	一七、五四四
内 染織工場	二六九	一〇、六八四
化學工場	六一	一、五〇九
譯 機械及器具工場	五〇	一、一三一
其ノ他ノ工場	三〇八	四、二二〇
鑛山	九	五二八
計	六九七	一八、〇七二

療養給付狀況 昭和八年

種別	療養給付件數	療養給付日數	傷病手當金ノ日數
業務に起因する罹病	四、一一二	三一、六七二	一六、三八〇
業務に起因せざる罹病	五六、四四四	五〇〇、〇五四	九六、三三四
計	六〇、五五六	五三一、七二六	一一二、七一四

議員選擧の狀況

貴族院多額納稅議員選擧

選擧年次	議員定員	有權者數	納稅額	一人納稅額平均
大正七年	一	一五	五七、四八九	三、八三三
同十四年	一	九六	二四九、三八五	二、五九六
昭和七年	一	九九	一五七、一〇六	一、五八七

衆議院議員選擧

選擧年次	議員定員	有權者數	投票者數	棄權率
大正十三年	六	四二、五一一	三九、四五五	〇・〇七
昭和三年	六	一七三、二九八	一三五、一八五	〇・二三
同五年	六	一七七、八六一	一四四、二一〇	〇・一九
同七年	六	一八〇、七四一	一四八、三七四	〇・一八

縣會議員選擧

選擧年次	議員定員	有權者數	投票者數	棄權率
大正八年	三	三三、〇三二	二八、二八三	〇・一四

同 十二年	三〇	七〇、〇二一	六〇、一九一	〇・一四
昭和二年	三一	一六〇、三八七	一二五、一〇八	〇・二八
同 六年	三三	一七〇、〇〇三	一三六、七八一	〇・一〇

縣下の貯金

昭和八年

昭和八年の貯金高（郵便及産業組合貯金は九年三月末其他は八年末）は一億九千三百六十二萬一千四百十五圓で前年に比較すると四十七萬九千百十八圓の増加となつて居る其の内譯は左の通りである。

種別	貯金高	前年に比し
郵便貯金	五九、四〇七、六三八円	増 二、六二八、九二七円
産業組合貯金	三〇、四二九、五一三	増 一、八五九、七五九
銀行預金	九〇、四九三、六三八	増 六、八三二、一四五

種別	貯金高	前年に比し
銀行貯金	一三、二九〇、六二七円	増 三〇二、四九四円
計	一九三、六二二、四一五	増 四七九、一二八

更に貯金總高を縣民一人當として見ると二百二十六圓十一錢、一戸當りとして見ると一千九十一圓十錢となり郵便貯金のみについて調べて見ると一人當りが六十九圓三十七錢、一戸當りが三百三十四圓七十八錢となつて居る。

海外渡航

昭和八年

本縣民は昔から海外發展の意氣に燃えてゐる昭和三年迄は全國第一の移民縣として誇つてきたが其後廣島縣に凌駕せられて今では第二位に落ちて終つた。

昭和八年末に於ける在外者の數は一萬七千六百七十人で前年に較べては三百三十五人を減少し送金額は二百十一萬五千六百四十三圓で二十七萬圓減少を示してゐる。

試みに最近十ケ年の中で送金額の最も多かつた昭和三年の送金高五百九十二萬八千三百六圓と前記昭和八年の送金高と對比して見ると其の額に於ては三百八十一萬圓餘歩合にしては六割強といふ驚くべき減少が見るに至つたのはこれも世界的不況の反映であらう。

尙昭和八年中の渡航者は一千七百六十九人で同年末の在外本邦人と昭和八年中の送金狀況は左の通りである。

郡市	北米合衆國	加奈陀	ブラジル	濠洲	布哇	滿洲	中華	其他	合計
	二三人	一三人	五三人	六人	一七人	四四人	六三人	四〇人	四四七人
和歌山	一、六九三	二七	一三四	二	一七一	二六	七四	一三五	二、二七一
海草	一、一四〇	一〇三	二一九	一三	八九	八四	一一七	六六	一、八二九
那賀	一六六	九	一三四	一	—	八	三四	九	三六一
伊都	一七九	三九	一六三	—	四五	三	三四	四五	五〇八
有田	一、三五八	二、〇六九	三五八	九	二九	四六	一三三	一三九	四、一三一
日高									

西牟婁	九六二	一七七	二八三	四〇四	三七四	二六	一四五	七七一	三、一四〇		
東牟婁	二、五四四	二七九	八一四	五四一	一〇一	七五	一四二	四八七	四、九八五		
合計	八、二五五	二、七一四	二、一五七	九八四	八二六	三一三	七三〇	一、六九二	一七、六七〇		
渡航者中送金シタル人員	一、八七九	四四七	九八	四九六	一二九	一五	六五	二八〇	三、四〇七		
送金額	一、三五〇、二四一円	三二八、九七七円	三三、一八四円	一三二、七八〇円	八〇、一六五円	五、八二〇円	三〇、三三四円	一六六、一四二円	二、一二五、六四五円		

縣下の言論界

昭和九年十二月現在

縣内に於て發行する新聞雜誌は七十(有保證)の多きに達して居るが尙此外に大阪朝日、大阪毎日、大阪時事等の大新聞社が支局又は通信部を設けて紀伊版和歌山版を發行して居るから縣下の言論界は隨分賑やかである。

今縣内發行の新聞雜誌七十の内譯を調べて見ると日刊十八、月四回以上十、其他四十二で日刊新聞の名稱と發行所は左の通りである。

新聞名	發行所
和歌山新報	和歌山市本町四丁目
和歌山日日新聞	同　四番丁
紀北日日新報	那賀郡粉河町
又新日刊	伊都郡高野口町
日刊南海時報	有田郡箕島町
紀南新聞	日高郡御坊町
紀州毎日	同
熊野太陽	西牟婁郡田邊町
紀伊新報	同
田邊新報	西牟婁郡田邊町
熊野新報	新宮市
熊野實業新聞	同
熊野毎日新聞	同
民聲日報	同
三一日報	同
新宮日報	同
新聞名	發行所
和歌山日報	和歌山市小人町
紀伊朝日新聞	同　道場町

昭和九年風水害の慘狀

九月二十一日早朝四國より紀淡海峽をぬけて紀伊半島に襲來した暴風雨は近年稀有のもので風速度は最强(二十一日午前七時三十分)四十二米(一秒間)を示してゐる。從來の記錄によれば明治四十四年六月十九日の四十二米一以來の烈風であつた。

氣壓は二十一日午前六時四十分に最底極に達し七一九粍四を示して既往に於ける最底極の大正九年九月二十三日の七一二粍三に次いでの數字である。

なにしろ一間四方に二百貫に近い風壓と四十二米といふ超スピードの烈風の爲に縣下一帶に多大の被害を蒙つた。

被害狀況

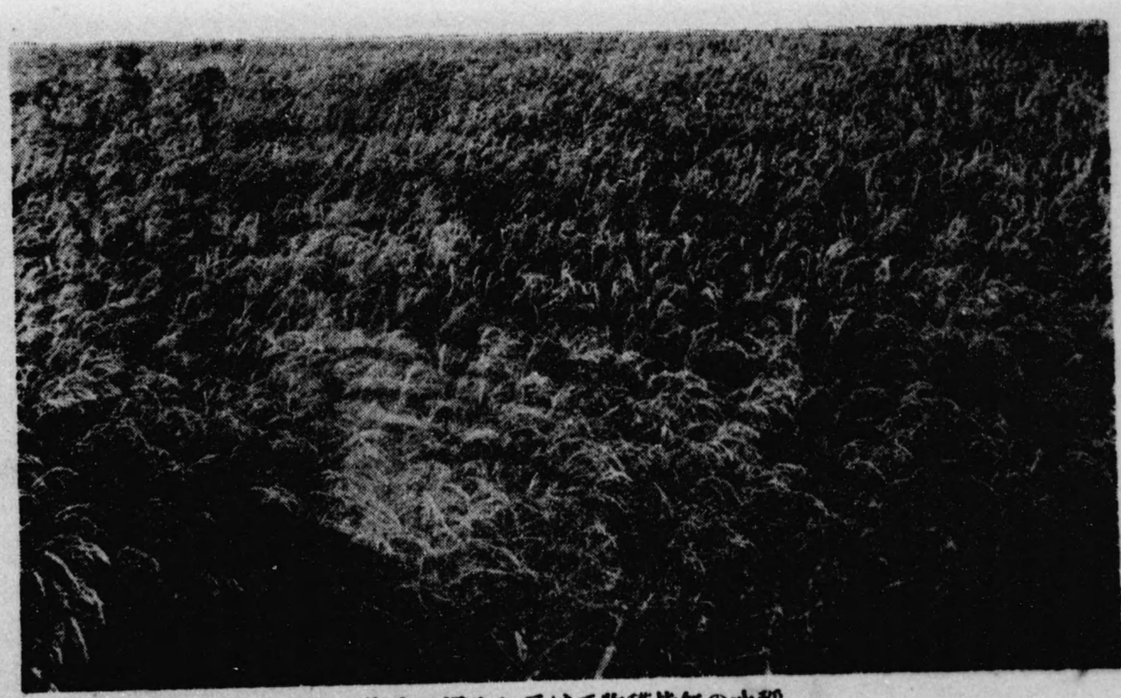
（昭和九年十月一日保安課調査）

死亡	三一	同	床下浸水	六七二	橋梁流失	〃
負傷	四三四	以上損害高	三、七四四、二〇四円		同上損害	一〇六、五九一円
行方不明	六	家畜死亡	一五		河川其他損壞	二四七
住家棟數全壞	八三八	同損害	八九〇円		同損害	四一〇、二二五円
同上半壞	一、二八七	漁船流失	八三九		煙突倒壞	二七〇
同流失	三〇	同破損	一三六		同上損害	七〇、三三五円
同床上浸水	一、二三四	同上損害	三三四、六〇〇円		電柱倒壞	二、三二六
同床下浸水	一、八九三	船舶流失	七六		同上損害	七二、二八〇円
非住家棟數全壞	一、七九四	同破損	八五		米減收量	二三一、五三一石
同半壞	一、三二五	同上損害	三五、〇七〇円		同上損害見積	三、一八二、五九一円
同流失	八七	道路破損延長	二三、八八八米		柑橘被害見積	二、五二一、一八四円
同床上浸水	三六六	同上損害	一六〇、七八四円			

尙農產物は旱害の爲に收穫減を豫想されてゐた矢先とて柑橘の如きは昨年に比して七割五分減といふ絶望的慘狀を呈し其他柿や秋蒔の蔬菜類も被害甚大であつた。

柑橘園現狀の慘狀

相模國鎌倉の海岸



海水の浸入を受けて收穫皆無の水稻